

【西洋文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
310001	系共通科目(西洋古典学)	講義	1-4	2	前期	金5	河島 思朗		西洋文化学系1
310201	系共通科目(西洋古典学)	講義	1-4	2	後期	金5	竹下 哲文		西洋文化学系2
320201	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)	講義	1-4	2	前期	水5	中村 唯史		西洋文化学系3
320401	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)	講義	1-4	2	後期	水5	中村 唯史		西洋文化学系4
330201	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)	講義	1-4	2	前期	金2	松村 朋彦		西洋文化学系5
330401	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)	講義	1-4	2	後期	金2	川島 隆		西洋文化学系6
340201	系共通科目(英語学)	講義A	1-4	2	前期	水3	家入 葉子		西洋文化学系7
340401	系共通科目(英語学)	講義B	1-4	2	後期	水3	家入 葉子		西洋文化学系8
340601	系共通科目(英文学)	講義A	1-4	2	前期	火2	廣田 篤彦		西洋文化学系9
340801	系共通科目(英文学)	講義B	1-4	2	後期	火2	南谷 奉良		西洋文化学系10
350201	系共通科目(アメリカ文学)	講義A	1-4	2	前期	火4	小林 久美子		西洋文化学系11
350301	系共通科目(アメリカ文学)	講義B	1-4	2	後期	火4	森 慎一郎		西洋文化学系12
360401	系共通科目(フランス文学)	講義	1-4	2	前期	火2	永盛 克也		西洋文化学系13
360601	系共通科目(フランス文学)	講義	1-4	2	後期	火2	村上 祐二		西洋文化学系14
360701	系共通科目(フランス語学)	講義	2-4	2	前期	火3	小田 涼		西洋文化学系15
360801	系共通科目(フランス語学)	講義	2-4	2	前期	月4	守田 貴弘		西洋文化学系16
370201	系共通科目(イタリア語学イタリア文学)	講義	1-4	2	前期	水2	村瀬 有司		西洋文化学系17
370301	系共通科目(イタリア語学イタリア文学)	講義	1-4	2	後期	水2	村瀬 有司		西洋文化学系18
390201	西洋文学入門	講義	1-2	2	前期	木5	河島,中村,松村,南谷,森,永盛,村瀬		西洋文化学系19
3131003	西洋古典学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	河島 思朗		西洋文化学系20
3131004	西洋古典学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	河島 思朗		西洋文化学系21
3131001	西洋古典学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	河島 思朗		西洋文化学系22
3131002	西洋古典学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	河島 思朗		西洋文化学系23
3141001	西洋古典学	演習	3-4	2	前期	水3	竹下 哲文		西洋文化学系24
3141002	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	金3	平山 晃司		西洋文化学系25
3141003	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	水3	竹下 哲文		西洋文化学系26
3141004	西洋古典学	演習	3-4	2	前期	金4	竹下 哲文		西洋文化学系27
3141005	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	金4	竹下 哲文		西洋文化学系28
3141006	西洋古典学	演習	3-4	2	前期	月5	河島 思朗		西洋文化学系29
3141007	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	月5	河島 思朗		西洋文化学系30
3141008	西洋古典学	演習	3-4	2	前期	火3	早瀬 篤		西洋文化学系31
3141009	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	火3	早瀬 篤		西洋文化学系32
3151001	西洋古典学	講読	2-4	2	前期	火4	竹下 哲文		西洋文化学系33
3151002	西洋古典学	講読	2-4	2	後期	火4	竹下 哲文		西洋文化学系34
3151003	西洋古典学	講読	2-4	2	前期	火2	山下 修一		西洋文化学系35
3151004	西洋古典学	講読	2-4	2	後期	火2	山下 修一		西洋文化学系36
9615001	西洋古典学	語学	2-4	8	通年	月1,木1	広川 直幸	学部共通科目	西洋文化学系37
9645001	西洋古典学	語学	2-4	8	通年	月2,金2	佐藤 義尚	学部共通科目	西洋文化学系38
9664001	西洋古典学	語学	2-4	2	前期	金3	西村 洋平	学部共通科目	西洋文化学系39
9665001	西洋古典学	語学	2-4	2	後期	金3	西村 洋平	学部共通科目	西洋文化学系40
9666001	西洋古典学	語学	2-4	2	前期	水2	勝又 泰洋	学部共通科目	西洋文化学系41
9667001	西洋古典学	語学	2-4	2	後期	水2	勝又 泰洋	学部共通科目	西洋文化学系42
3231001	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	堀口 大樹		西洋文化学系43
3231002	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	堀口 大樹		西洋文化学系44
3231003	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	中村 唯史		西洋文化学系45
3231005	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	中村 唯史		西洋文化学系46
3231006	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	有宗 昌子		西洋文化学系47
3241001	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	前期	月3	中野 悠希		西洋文化学系48
3241002	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	前期	火2	中村 唯史		西洋文化学系49
3241003	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	後期	火2	中村 唯史		西洋文化学系50
3241004	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	前期	木2	中村 唯史		西洋文化学系51
3241005	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	後期	木2	中村 唯史		西洋文化学系52
3241006	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	前期	金3	堀口 大樹		西洋文化学系53
3241007	スラブ語学スラブ文学	演習	2-4	2	後期	月3	中野 悠希		西洋文化学系54
3251001	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	前期	火3	伊藤 順二	露書講読	西洋文化学系55
3251002	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	後期	火3	伊藤 順二	露書講読	西洋文化学系56
3251003	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	前期	水3	中村 唯史		西洋文化学系57
3251004	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	後期	水3	中村 唯史		西洋文化学系58
3251005	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	後期	金4	帯谷 知可		西洋文化学系59
3251006	スラブ語学スラブ文学	講読	3-4	2	前期	火4	小山 哲	ポーランド語講読	西洋文化学系60
3262001	スラブ語学スラブ文学	外国語実習	3-4	1	前期	木3	Svetlana, Vinogradova		西洋文化学系61
3262002	スラブ語学スラブ文学	外国語実習	3-4	1	後期	木3	Svetlana, Vinogradova		西洋文化学系62
9661001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	前期	木4	Bogna Sasaki	学部共通科目	西洋文化学系63
9662001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	後期	木4	Bogna Sasaki	学部共通科目	西洋文化学系64
9642001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	前期	木5	Bogna Sasaki	学部共通科目	西洋文化学系65
9642002	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	後期	木5	Bogna Sasaki	学部共通科目	西洋文化学系66
9646001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	後期	水2	田中 大	学部共通科目	西洋文化学系67
9647001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	前期	水2	中村 唯史	学部共通科目	西洋文化学系68
3331001	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	前期	金4	川島 隆		西洋文化学系69
3331002	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	後期	金4	松村 朋彦		西洋文化学系70

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
3331005	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	河崎 靖		西洋文化学系71
3331006	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	TRAUDEN,Dieter		西洋文化学系72
3331007	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	TRAUDEN,Dieter		西洋文化学系73
3331008	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	前期	火3	岡田 暁生		西洋文化学系74
3331009	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	岡田 暁生		西洋文化学系75
3341001	ドイツ語学ドイツ文学	演習I	3-4	2	前期	水4	川島 隆		西洋文化学系76
3341002	ドイツ語学ドイツ文学	演習I	3-4	2	後期	水4	川島 隆		西洋文化学系77
3343001	ドイツ語学ドイツ文学	演習II	3-4	2	前期	火2	松村 朋彦		西洋文化学系78
3343002	ドイツ語学ドイツ文学	演習II	3-4	2	後期	火2	松村 朋彦		西洋文化学系79
3345001	ドイツ語学ドイツ文学	演習III	3-4	2	前期	金5	松村 朋彦,川島 隆		西洋文化学系80
3345002	ドイツ語学ドイツ文学	演習III	3-4	2	後期	金5	松村 朋彦,川島 隆		西洋文化学系81
3351001	ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	前期	木5	山下 大輔		西洋文化学系82
3351002	ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	後期	木5	山下 大輔		西洋文化学系83
3351003	ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	前期	水3	飯島 雄太郎		西洋文化学系84
3351004	ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	後期	火4	松村 朋彦		西洋文化学系85
3362001	ドイツ語学ドイツ文学	外国語実習	2-4	1	前期	月3	TRAUDEN,Dieter		西洋文化学系86
3362002	ドイツ語学ドイツ文学	外国語実習	2-4	1	後期	月3	TRAUDEN,Dieter		西洋文化学系87
3431002	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	水1	廣田 篤彦		西洋文化学系88
3431003	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	金4	南谷 奉良		西洋文化学系89
3431004	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	森 慎一郎		西洋文化学系90
3431005	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	小林 久美子		西洋文化学系91
3431007	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	後期	水5	谷口 一美		西洋文化学系92
3431010	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	前期	木2	滝沢 直宏		西洋文化学系93
3431011	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	後期	木2	滝沢 直宏		西洋文化学系94
3431012	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	出口 菜摘		西洋文化学系95
3431013	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	後藤 篤		西洋文化学系96
3431014	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	ドロック 麻弥		西洋文化学系97
3431015	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	吉田 恭子		西洋文化学系98
3431016	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	木島 菜菜子		西洋文化学系99
3431017	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	木島 菜菜子		西洋文化学系100
3431018	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	前期	金2	Michael Hofmeyr		西洋文化学系101
3431019	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	後期	金2	Michael Hofmeyr		西洋文化学系102
3431020	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	西谷 茉莉子		西洋文化学系103
3431021	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	大地 真介		西洋文化学系104
3431022	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	前期	集中	家入 葉子		西洋文化学系105
3441001	英語学英文学	演習I	2-4	2	前期	水5	家入 葉子		西洋文化学系106
3441002	英語学英文学	演習I	2-4	2	後期	水4	家入 葉子		西洋文化学系107
3441003	英語学英文学	演習I	3-4	2	前期	金3	南谷 奉良		西洋文化学系108
3441004	英語学英文学	演習I	3-4	2	後期	金3	南谷 奉良		西洋文化学系109
3441005	英語学英文学	演習I	3-4	2	前期	火5	小林 久美子		西洋文化学系110
3441006	英語学英文学	演習I	3-4	2	後期	火5	森 慎一郎		西洋文化学系111
3444001	英語学英文学	演習II	4	2	前期	火1	廣田 篤彦		西洋文化学系112
3444002	英語学英文学	演習II	4	2	後期	火1	廣田 篤彦		西洋文化学系113
3451001	英語学英文学	講読	2-4	2	前期	水1	廣田 篤彦		西洋文化学系114
3451002	英語学英文学	講読	2-4	2	後期	金4	南谷 奉良		西洋文化学系115
3451003	英語学英文学	講読	2-4	2	前期	水5	森 慎一郎		西洋文化学系116
3451004	英語学英文学	講読	2-4	2	後期	月3	小林 久美子		西洋文化学系117
3451005	英語学英文学	講読	2-4	2	前期	火3	桂山 康司		西洋文化学系118
3451006	英語学英文学	講読	2-4	2	後期	火3	桂山 康司		西洋文化学系119
3462001	英語学英文学	外国語実習	2-4	1	前期	水1	LUDVIK,Catherine		西洋文化学系120
3462002	英語学英文学	外国語実習	2-4	1	後期	木1	LUDVIK,Catherine		西洋文化学系121
3462003	英語学英文学	外国語実習	2-4	1	前期	水3	Stephen Gill		西洋文化学系122
3462004	英語学英文学	外国語実習	2-4	1	後期	月3	Stephen Gill		西洋文化学系123
3531001	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	森 慎一郎		西洋文化学系124
3531002	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	小林 久美子		西洋文化学系125
3531004	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	水1	廣田 篤彦		西洋文化学系126
3531005	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	金4	南谷 奉良		西洋文化学系127
3531009	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	後期	水5	谷口 一美		西洋文化学系128
3531010	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	出口 菜摘		西洋文化学系129
3531011	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	後藤 篤		西洋文化学系130
3531012	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	ドロック 麻弥		西洋文化学系131
3531013	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	吉田 恭子		西洋文化学系132
3531014	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	前期	木2	滝沢 直宏		西洋文化学系133
3531015	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	後期	木2	滝沢 直宏		西洋文化学系134
3531016	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	木島 菜菜子		西洋文化学系135
3531017	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	木島 菜菜子		西洋文化学系136
3531018	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	前期	金2	Michael Hofmeyr		西洋文化学系137
3531019	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	後期	金2	Michael Hofmeyr		西洋文化学系138
3531020	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	西谷 茉莉子		西洋文化学系139
3531021	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	大地 真介		西洋文化学系140
3531022	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	前期	集中	家入 葉子		西洋文化学系141

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
3541001	アメリカ文学	演習I	3-4	2	前期	火5	小林 久美子		西洋文化学系142
3541002	アメリカ文学	演習I	3-4	2	後期	火5	森 慎一郎		西洋文化学系143
3541003	アメリカ文学	演習I	2-4	2	前期	水5	家入 葉子		西洋文化学系144
3541004	アメリカ文学	演習I	2-4	2	後期	水4	家入 葉子		西洋文化学系145
3541005	アメリカ文学	演習I	3-4	2	前期	金3	南谷 奉良		西洋文化学系146
3541006	アメリカ文学	演習I	3-4	2	後期	金3	南谷 奉良		西洋文化学系147
3544001	アメリカ文学	演習II	4	2	前期	水2	森 慎一郎		西洋文化学系148
3544002	アメリカ文学	演習II	4	2	後期	水2	小林 久美子		西洋文化学系149
3551001	アメリカ文学	講読	2-4	2	前期	水5	森 慎一郎		西洋文化学系150
3551002	アメリカ文学	講読	2-4	2	後期	月3	小林 久美子		西洋文化学系151
3551003	アメリカ文学	講読	2-4	2	前期	水1	廣田 篤彦		西洋文化学系152
3551004	アメリカ文学	講読	2-4	2	後期	金4	南谷 奉良		西洋文化学系153
3551005	アメリカ文学	講読	2-4	2	前期	火3	桂山 康司		西洋文化学系154
3551006	アメリカ文学	講読	2-4	2	後期	火3	桂山 康司		西洋文化学系155
3562001	アメリカ文学	外国語実習	2-4	1	前期	水1	LUDVIK, Catherine		西洋文化学系156
3562002	アメリカ文学	外国語実習	2-4	1	後期	木1	LUDVIK, Catherine		西洋文化学系157
3562003	アメリカ文学	外国語実習	2-4	1	前期	水3	Stephen Gill		西洋文化学系158
3562004	アメリカ文学	外国語実習	2-4	1	後期	月3	Stephen Gill		西洋文化学系159
3631001	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	永盛 克也		西洋文化学系160
3631002	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	森本 淳生		西洋文化学系161
3631003	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	前期	水2	佐藤 淳二		西洋文化学系162
3631004	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	Justine LE FLOC'H		西洋文化学系163
3631005	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	水2	佐藤 淳二		西洋文化学系164
3631008	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	村上 祐二		西洋文化学系165
3631010	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	森本 淳生		西洋文化学系166
3631012	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	伊藤 玄吾		西洋文化学系167
3645004	フランス語学フランス文学	演習	3-4	2	後期	木4	Justine LE FLOC'H		西洋文化学系168
3647001	フランス語学フランス文学	演習II	4	2	前期	月4	永盛 克也,村上 祐二		西洋文化学系169
3647002	フランス語学フランス文学	演習II	4	2	後期	月4	永盛 克也,村上 祐二		西洋文化学系170
3648001	フランス語学フランス文学	演習I	3-4	2	前期	月2	永盛 克也		西洋文化学系171
3648002	フランス語学フランス文学	演習I	3-4	2	後期	月2	村上 祐二		西洋文化学系172
3651001	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	後期	月3	永盛 克也		西洋文化学系173
3651002	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	前期	月3	村上 祐二		西洋文化学系174
3651003	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	前期	木2	柴田 秀樹		西洋文化学系175
3651005	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	前期	金4	中筋 朋		西洋文化学系176
3651006	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	後期	金4	中筋 朋		西洋文化学系177
3651007	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	前期	水3	藤野 志織		西洋文化学系178
3651008	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	後期	水3	藤野 志織		西洋文化学系179
3663001	フランス語学フランス文学	外国語実習	2-4	1	前期	火4	Eric AVOCAT		西洋文化学系180
3663002	フランス語学フランス文学	外国語実習	2-4	1	後期	火4	Justine LE FLOC'H		西洋文化学系181
3731002	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	村瀬 有司		西洋文化学系182
3731003	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	村瀬 有司		西洋文化学系183
3731004	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	Ida Duretto		西洋文化学系184
3731005	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	Ida Duretto		西洋文化学系185
3731006	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	前期	水5	Ida Duretto		西洋文化学系186
3731007	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	Ida Duretto		西洋文化学系187
3741001	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	前期	金2	村瀬 有司		西洋文化学系188
3741002	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	後期	金2	村瀬 有司		西洋文化学系189
3741003	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	前期	火4	河合 成雄		西洋文化学系190
3741004	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	後期	火4	河合 成雄		西洋文化学系191
3741005	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	通年	木2	村瀬 有司		西洋文化学系192
3751001	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	前期	水4	村瀬 有司	伊書講読	西洋文化学系193
3751002	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	後期	水4	村瀬 有司	伊書講読	西洋文化学系194
3751003	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	前期	金4	村瀬 有司		西洋文化学系195
3751004	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	後期	金4	菊池 正和		西洋文化学系196
3764001	イタリア語学イタリア文学	外国語実習	3-4	1	前期	火3	Ida Duretto		西洋文化学系197
3764002	イタリア語学イタリア文学	外国語実習	3-4	1	後期	火3	Ida Duretto		西洋文化学系198
9675001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	4	前期	月2,木3	菅野 類	学部共通科目	西洋文化学系199
9676001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	4	後期	月2,木3	菅野 類	学部共通科目	西洋文化学系200
9663001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	前期	火5	Ida Duretto	学部共通科目	西洋文化学系201
9663002	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	後期	火5	Ida Duretto	学部共通科目	西洋文化学系202
9673001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	前期	火4	小西 咲子	学部共通科目	西洋文化学系203
9674001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	後期	火4	小西 咲子	学部共通科目	西洋文化学系204
9668001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	前期	火5	小西 咲子	学部共通科目	西洋文化学系205
9669001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	後期	火5	小西 咲子	学部共通科目	西洋文化学系206

西洋文化学系1

科目ナンバリング		U-LET15 13100 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ギリシア文学史									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は古典ギリシア文学の基礎的な知識を修得することにある。ヨーロッパの文学はギリシア文学から始まったために、のちの文学活動に多大な影響を与えている。本講義ではそのようなギリシア文学のなかでも、とりわけ有名な文学作品をジャンルごとに概観するとともに、文学を理解するために必要な古代ギリシアの社会的・文化的背景を学ぶ。											
【到達目標】											
ギリシア文学史の要点を理解し、西洋古典学研究の基礎を修得する。具体的な全体の到達目標は以下の通り。 (1) ギリシア文学史の基礎知識を得ることができる。 (2) 古典文学作品を正確に読解することができる。 (3) 文学の社会的・文化的な意味を分析することができる。 (4) 古代の知識をもとに、現代について考えることができる。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下のスケジュールにしたがって授業を進める。ただし授業内で提示された疑問や議論の方向性などによっては、順序や同一テーマの回数を変えることがある。  第1回 イン트로ダクション：西洋古典学とはなにか 第2・3回 ホメロス『イリアス』口承叙事詩 第4・5回 ホメロス『オデュッセイア』物語と主題 第6・7回 抒情詩、祝勝歌 第8・9回 ギリシア悲劇と民主政 第10・11回 ギリシア悲劇・喜劇 第12・13回 散文、文学と文化 第14回 全体のまとめ 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

- ・授業内で毎回課すコメントペーパーで授業の理解度を確認するとともに、自らの考えを表現する(40%)
- ・学期終盤に各主題の理解度を図る確認テストあるいはレポート課題をおこなう(60%)

**[教科書]**

パワーポイント使用。プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回の授業前に指定された参考文献や文学作品を読み、基礎知識を得ておく必要がある。また、授業後にコメントペーパーを課し、授業で扱った事柄についての考えをまとめる。また知識の体系化をはかるために、全体の復習を必要とする。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系2

科目ナンバリング		U-LET15 13102 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹下 哲文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ギリシア・ローマの教訓詩を読む									
【授業の概要・目的】											
西洋古典文学（ギリシア・ラテン文学）における「教訓詩」と呼ばれる作品群に焦点を当てた講義です。											
西洋古代の文学には、農耕や哲学、占星術・天文学といった専門的な知識を韻文で綴る「教訓詩」（didactic poetry）と呼ばれる作品群が存在します。学問と詩という一見したところ相反するよう見える二つのものを調和させようとした彼らの創作の背景にはどのような伝統が存在するのか、といった問題を、それぞれの作品の翻訳を読みながら考えていきます。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教訓詩」と呼ばれる一群の詩作品の概要を知り記述できるようになる</li> <li>・個々の作品の背景にある知的伝統についての理解を深める</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
講義はおおむね以下のプログラムにしたがって進めますが、テーマや回数配分を状況に応じて変える場合があります。											
<p>第1回 イントロダクション：「教訓詩」とは何か</p> <p>第2回 ヘーシオドス『仕事と日』</p> <p>第3回 ヘレニズム期の教訓詩人たち：アラートスとニーカンドロス</p> <p>第4回 ルクレティウス『事物の本性について』：作品の背景</p> <p>第5回 ルクレティウス『事物の本性について』：苦い薬と甘い蜜 哲学と詩</p> <p>第6回 ルクレティウス『事物の本性について』：文字とアトム，詩と世界</p> <p>第7回 ウェルギリウス『農耕詩』：作品の背景</p> <p>第8回 ウェルギリウス『農耕詩』：ローマ世界と農業</p> <p>第9回 ウェルギリウス『農耕詩』：内戦と小さな市民たち</p> <p>第10回 オウィディウス『恋の技術』：作品の背景</p> <p>第11回 オウィディウス『恋の技術』：恋愛と雄弁</p> <p>第12回 マーニーリウス『アストロノミカ』：作品の背景</p> <p>第13回 マーニーリウス『アストロノミカ』：数学と詩</p> <p>第14回 マーニーリウス『アストロノミカ』：占星術と「人間喜劇」</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点 (40%)  
学期末レポート (60%)

**[教科書]**

授業内で資料を配布

**[参考書等]**

(参考書)

逸身喜一郎 『ギリシャ・ラテン文学 韻文の系譜をたどる15章』 (研究社, 2018年)  
K. Volk 『The Poetics of Latin Didactic : Lucretius, Vergil, Ovid, Manilius』 (Oxford University Press, 2002)

**[授業外学修 (予習・復習) 等]**

- ・ 配布資料を読んで授業の復習を行うこと
- ・ 授業内では原典の翻訳をはじめとして色々な文献を紹介するので, それらを実際に手に取って読んでみる

**(その他 (オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系3

科目ナンバリング		U-LET16 13202 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近現代ロシア文化概説									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。</p> <p>しかし、ロシアの文学や思想が、どのような文化伝統の中で形成され、どのような状況の中で発展してきたのかについては、必ずしも十分に理解されてきたわけではありません。</p> <p>主要な幾つかのトピックに重点を置いて、18世紀末の近代ロシア文学の形成から1880年頃までのロシア文学・思想・絵画の流れを、できるだけ体系的に概観していきます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 近代ロシアの文学・思想・絵画についての知識と理解を得る。</p> <p>2) 欧米文化共通の特徴である作品・ジャンル・国の枠を超えた交差を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回：はじめに											
第2 - 3回：近代以前のロシア文化の流れ 東方正教、コサック・古儀式派の発生、ペテルブルグ建設など											
第4 - 13回：以下の3つの系譜を軸に、時代を追って19世紀ロシア文学・思想を概観します。											
<p>1) 自己意識の鏡としてのペテルブルグ神話の系譜： プーシキン『青銅の騎士』、ゴーゴリ『外套』『鼻』、ドストエフスキーのペテルブルグほか</p> <p>2) ロシア文化における「他者」としてのコーカサス表象の系譜： プーシキン『コーカサスの虜』、レールモントフ『現代の英雄』他、トルストイ『コサック』ほか</p> <p>3) 「ロシア的自然」の系譜： プーシキン、レールモントフの詩、ツルゲーネフ『獵人日記』、トルストイ『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』、移動派の絵画ほか</p>											
第14回：農奴解放令以後の文学と社会状況											
第15回：まとめ											
<p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
----- 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く -----											



系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

**【教科書】**

適宜プリントを配付します。

**【参考書等】**

(参考書)

開講時ほか授業中に適宜指示します。

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

**(その他(オフィスアワー等))**

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系4

科目ナンバリング		U-LET16 13204 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近現代ロシア文化概説									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。</p> <p>しかし、そのようなロシア文学への関心は、おおむね19世紀末までに留まり、20世紀の文学や文化がどのように展開してきたのかは、日本ではほとんど知られていないと言っても過言ではありません。</p> <p>この講義では、19世紀末から20世紀に入り、ソ連期を経て、その崩壊後の文化状況までを概観します。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 19世紀末から20世紀のロシア(ソ連)の文学・思想・映画・絵画についての知識と理解を深める。</p> <p>2) 芸術作品や文化現象を分析・考察するための枠組みと方法を身に付ける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：はじめに</p> <p>第2 - 5回：19世紀末から20世紀初頭の文学・絵画・思想 象徴主義(フェート、イヴァノフ、ソログープほか)、リアリズム文学(ゴーリキー、チェーホフほか)、近代ロシア絵画の展開(クインジー、レヴィタン、ヴルーベリ、シャガールほか)</p> <p>第6 - 8回：「ロシア・アヴァンギャルド」の季節 ロシア・フォルマリズム(「異化」とその通時的展開)、未来派の文学と絵画(超意味言語詩、マレーヴィチの無対象絵画)、建設や映画の展開(タトリン、エイゼンシュテイン、ジガ・ヴェルトフ、モンタージュほか)</p> <p>第9 - 13回：ソ連期の文学・思想・文化 文学：ザミャチン、バーベリ、ブルガーコフ、ベルゴリツ、グロスマンほか 思想：全一性の詩学、規範としての社会主義リアリズムとその溶融 映画：タルコフスキー、シェンゲラーヤほか</p> <p>第14回：ソ連崩壊後の文化状況(ペレーヴィン、ソローキン、ウリツカヤほか)</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
----- 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

**【教科書】**

適宜プリントを配付します。

**【参考書等】**

(参考書)

開講時ほか授業中に適宜指示します。

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

**(その他(オフィスアワー等))**

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。  
後期からの履修も認めます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系5

科目ナンバリング		U-LET17 13302 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学のモチーフ史									
【授業の概要・目的】											
この授業では、毎週一つの文学的モチーフを取り上げて、そのモチーフがドイツ文学のなかでどのような役割を果たしてきたかを歴史的に概観する。前半の授業では、山や海などの自然にかんするモチーフを取り上げ、後半の授業では、夢や狂気などの心理学的なモチーフを取り上げる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ文学の作家や作品にかんする知識を身につける。</li> <li>・文学のモチーフ史への理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>各回のテーマは次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 山</li> <li>3 海</li> <li>4 地底</li> <li>5 空</li> <li>6 森</li> <li>7 庭</li> <li>8 動物</li> <li>9 子供</li> <li>10 夢</li> <li>11 狂気</li> <li>12 影・鏡像</li> <li>13 分身</li> <li>14 人形・人造人間</li> <li>15 おわりに</li> </ol>											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
授業時のコメントペーパー（50％）と期末レポート（50％）によって評価する。期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
----- 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系6

科目ナンバリング		U-LET17 13304 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学における「病気」									
【授業の概要・目的】											
<p>文学においては、さまざまな形で「病気」が描かれる。それは往々にして、スーザン・ソントグの言う意味での「隠喩としての病」であり、現実に存在する病気と同一視してはならない。現実に存在する病気の名を冠した文学上のモチーフは、たとえば宗教的・道徳的・政治的なレベルでの価値づけをその病気のイメージに追加することにより、ある種の暴力性を実社会において発揮するからである。この授業では、ドイツ文学に描かれた「病気」のモチーフを追い、それがどのような暴力性を帯びているかを確認したうえで、その描写にどのような生産的な意義があるのかを考えていく。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ文学史について基本的な知識を得る</li> <li>・文学における「病気」の表象の問題性について、自分自身で考察を深められるようになる</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 文学に描かれた「病気」とは？          第2回 ハルトマン『哀れなハインリヒ』 キリスト教的な意味における「隠喩としての病」          第3～4回 ビューヒナー『ヴォイツェック』 精神疾患の描かれ方          第5～6回 シュティフター『みかげ石』 文学に描かれたパンデミック          第7～8回 シュピーリ『ハイジ』 ストレスと病気          第9～10回 トーマス・マン『ヴェニスに死す』 文学に描かれたパンデミック          第11回 カフカ『田舎医者』 医師の社会的役割          第12～13回 トーマス・マン『魔の山』 ターミナルケアと文学          第14回 デーブリーン『ベルリン・アレクサンダー広場』 「正常」と「異常」の境界線          第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小課題にもとづく平常点(50%)および期末レポート(50%)で評価する。											
----- 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で扱った作品を可能なかぎり実際に手に取って読んでみてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系7

科目ナンバリング		U-LET18 13402 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英語学)(講義A) English Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英語史A									
【授業の概要・目的】											
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史的変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語の背景について学びます。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の史的変化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 授業についての説明ほか          第2回： インド・ヨーロッパ語としての英語          第3回： 英語の外史と内史（導入）          第4回： 借用語（ラテン語を中心に）          第5回： 借用語（スカンディナヴィア語を中心に）          第6回： 借用語（フランス語を中心に）          第7回： 語形成、およびその歴史的変遷          第8回： 意味の歴史的変遷          第9回： ルーン文字とアルファベット、および綴り字の歴史的変遷          第10回： 発音の歴史的変遷          第11回： 人称代名詞の形態全般          第12回： 人称代名詞の数と格、およびその歴史的変遷          第13回： 指示代名詞の歴史的変遷          第14回： 関係代名詞の歴史的変遷          第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度（30%）およびレポート（70%）によって評価を行います。											
----- 系共通科目(英語学)(講義A)(2)へ続く -----											



系共通科目(英語学)(講義A)(2)

**[教科書]**

家入葉子 『ベーシック英語史』（ひつじ書房）

**[参考書等]**

（参考書）

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版）

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』（CUP）

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）

<https://iyeiri.com/569>にも参考情報あります。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に指定する課題の担当となった人は、提示資料を準備してください。

（その他（オフィスアワー等））

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系8

科目ナンバリング		U-LET18 13404 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英語学)(講義B) English Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英語史B									
【授業の概要・目的】											
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語との実践的な比較を行います。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 授業についての説明ほか          第2回： 語形変化の実際          第3回： 語順の歴史の変遷と前置詞の使用の拡大          第4回： 主節と従属節の歴史の変遷          第5回： 不規則変化動詞とその歴史の変遷          第6回： 直説法と仮定法の歴史の変遷          第7回： 非人称動詞および過去現在動詞の歴史の変遷          第8回： 法助動詞の歴史の変遷          第9回： be動詞の歴史の変遷          第10回： 進行形と受動態の歴史の変遷          第11回： 完了形の歴史の変遷          第12回： 不定詞と動名詞の歴史の変遷          第13回： 否定構文の歴史の変遷          第14回： 助動詞doの歴史の変遷          第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解（言語の揺れを中心に）</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語の講読の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>											
【履修要件】											
<p>内容が英語史Aの続きとなっていますので、できるだけ英語史Aを受講した上で、本講義を受講するようにしてください。やむを得ない事情で英語史Bからの受講になる場合は、『ベーシック英語史』の前半部分を自習してから受講してください。</p>											
----- 系共通科目(英語学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(英語学)(講義B)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業への貢献度（30％）およびレポート（70％）によって評価を行います。

**[教科書]**

家入葉子 『ベーシック英語史』（ひつじ書房）

**[参考書等]**

（参考書）

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版）

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』（CUP）

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）

<https://iyeiri.com/569>にも参考情報があります。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

指定された教科書に目を通しておいってください。授業中に指定する課題の担当となった人は、提示資料を準備してください。

（その他（オフィスアワー等））

<https://iyeiri.com/contact>に連絡フォームがあります。必要な場合は、メールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系9

科目ナンバリング		U-LET18 13406 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英文学)(講義A) English Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英文学史概説(英文学における叙事詩の系譜: 中世-新古典主義)									
【授業の概要・目的】											
<p>英文学史上の代表的な作品を紹介しながら、英文学の歴史的変遷について包括的に考える。前期は中世から18世紀前半までを扱う。本年度は叙事詩を取り上げ、中世から18世紀前半の英文学におけるこのジャンルの変遷を、テキストの抜粋を読みながら歴史的文脈の中で位置づける。</p>											
【到達目標】											
<p>中世から18世紀の叙事詩を代表的なテキストに即しながら概観することを通じて、以下についての理解が包括的に深まることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文学における叙事詩の伝統</li> <li>2. 中世から18世紀の英文学に使われている様々な形式と英語表現の変遷</li> <li>3. 中世から近代にいたる、イングランドの社会と文学との関係</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週 Introduction 1: Historical outline          第2週 Introduction 2: Tradition of Epic in Western Literature          第3週 Old English Epic: Beowulf          第4週 Middle English Romance and Epic: Le Morte Darthur          第5週 English Translations of Classical Epics 1 (The Renaissance)          第6週 Italian Romance Epic &amp; English Translations: Orlando Furioso          第7週 English Epic 1: The Faerie Queene Bk.1          第8週 English Epic 2: The Faerie Queene Bk.2          第9週 Epic and Theatre: Hamlet          第10週 English Epic 3: Paradise Lost Canto 1          第11週 English Translations of Classical Epics 2 (The Neo-Classical Period 1): John Dryden, The Aeneid          第12週 English Translations of Classical Epics 2 (The Neo-Classical Period 2): Alexander Pope, The Iliad          第13週 Mock Epic: The Dunciad          第14週 'Comic Epic in Prose': Henry Fielding, Joseph Andrews          第15週 全体のまとめ</p>											
【履修要件】											
後期に開講される英文学講義Bと今年度中に合わせて履修することが望ましい。											
-----系共通科目(英文学)(講義A)(2)へ続く-----											

系共通科目(英文学)(講義A)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

中間レポート(50%)と学期末レポート(50%)により評価する。両方のレポートを提出することが単位取得の条件。題目、提出期間、方法等詳細については授業中に口頭で指示をする。

**[教科書]**

授業資料は予めPandA上に掲載する。終了後一定時間が経った時点で消去するので注意すること。

**[参考書等]**

(参考書)

Dinah Birch, Katy Hooper 『The Concise Oxford Companion to English Literature』 (Oxford UP) ISBN: 978-0199608218

喜志哲雄 『英米演劇入門』 (研究社) ISBN:978-4327375119

**[授業外学修(予習・復習)等]**

辞書を丹念に引いて各週のテキストの内容を理解した上で授業に臨むこと。授業後は扱われた作品の文学史における位置づけについて考察すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系10

科目ナンバリング		U-LET18 13408 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英文学)(講義B) English Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英文学史概説(小説・散文)									
【授業の概要・目的】											
英文学史上の著名な小説・散文を紹介しながら、英文学の歴史的変遷について考える。文学史は古いところから説き起こすのが常だが、この講義では新しい時代から遡る形で講義を進行し、「現代ではなくなっていく変化を、個々の作品が生まれた時代背景とともに考察する。											
【到達目標】											
英国小説についての一般的な基礎知識を身につけ、時代的な背景とともに特定の作家がどのような特性をもつかを理解できる。また、作家の言葉に対する態度と「表現すること」、「物語ること」の変化を考察しながら、自らが関心のもった作家についてリサーチを進めることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 第2回 Kazuo Ishiguro 第3回 Samuel Beckett 第4回 Graham Greene, Evelyn Waugh 第5回 George Orwell, E. M. Forster 第6回 James Joyce, Virginia Woolf 第7回 D. H. Lawrence, Joseph Conrad 第8回 Thomas Hardy, George Eliot 第9回 Charles Dickens 第10回 The Brontes 第11回 Jane Austen 第12回 ゴシック小説、歴史小説 第13回 Samuel Richardson, Henry Fielding 第14回 Daniel Defoe, Jonathan Swift 第15回 フィードバック (研究室にて授業内容に関連する質問に答える)											
【履修要件】											
前期の英文学講義と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、リアクションペーパー(50%)および学期末に提出してもらったレポート(50%)によって評価する。											
系共通科目(英文学)(講義B)(2)へ続く											

系共通科目(英文学)(講義B)(2)

**[教科書]**

使用しない  
プリントを適宜配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

Dinah Birch 『The Concise Oxford Companion to English Literature 4th Edition』 (OUP) ISBN:978-0199608218

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習として、授業中に指定する資料を読んでおくこと。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心のもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーは火曜13:00~14:30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系11

科目ナンバリング		U-LET19 13502 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(アメリカ文学)(講義A) American Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ文学史 I									
【授業の概要・目的】											
植民地時代から19世紀末までのアメリカ文学の流れを振り返る。全15回の授業のうち、前半部はピューリタニズム・理神論・アメリカ啓蒙思想といった宗教・思想的話題が中心となる。後半部は、アメリカという歴史の浅い国において独自の「文学」を確立せんとさまざまな作家が苦闘した様子を追うことが主眼となる。本授業を通じて、アメリカ文学が近代性を獲得するまでの道程を包括的に把握することを目的とする。											
【到達目標】											
19世紀末までのアメリカ文学および思潮の流れを概覧し、文学における英文解釈法を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：序論--新大陸の発見</p> <p>第2回：Jonathan Edwards/ Anne Bradstreet--ピューリタニズムの文学</p> <p>第3回：Benjamin Franklin--アメリカ啓蒙主義と理神論</p> <p>第4回：Ralph Waldo Emerson--超越主義：思想編</p> <p>第5回：Henry David Thoreau--超越主義：実践編</p> <p>第6回：Nathaniel Hawthorne--ロマンスとノヴェル</p> <p>第7回：Herman Melville--小説と世界</p> <p>第8回：Edgar Allan Poe--象徴主義</p> <p>第9回：Walt Whitman--詩と民主主義</p> <p>第10回：Emily Dickinson--詩と観念</p> <p>第11回：奴隷制度と文学--Harriet Beecher Stoweを中心に</p> <p>第12回：アメリカ家庭小説の系譜</p> <p>第13回：Mark Twain--口承文学と小説</p> <p>第14回：Henry James--近代小説</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>											
【履修要件】											
アメリカ文学（講義B）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)へ続く -----											



系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

毎授業の最後に行われるコメントシートの記入（30％）と期末試験（70％）により評価する。優れたコメントは次回の授業において紹介する。持ち込み不可の期末試験では、授業で触れた事項の理解度を確認する。

**[教科書]**

使用しない  
資料はプリントにて配布する。

**[参考書等]**

（参考書）

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485（初期から現代に至るまでの主要作家の紹介。各作家に付されている参考文献が有用。）

**[授業外学修（予習・復習）等]**

期末試験では授業内で取りあげたテキストから出題される。問題は講義内容を踏まえたものなので、試験対策として念入りな復習が求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系12

科目ナンバリング		U-LET19 13503 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(アメリカ文学)(講義B) American Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ文学史									
【授業の概要・目的】											
19～20世紀転換期から現在にいたるまでのアメリカ文学史のおおまかな流れをたどる。各時代を代表する作家、作品を紹介するとともに、できるだけ具体的に個々の作家の文章に触れてもらうことを心がけたい。											
【到達目標】											
アメリカの文学ならびにその背景となる文化に関する包括的な知識を習得すること、文学的な英語表現に親しむこと、アメリカ文学を本格的に学んでいくための土台を築くことを目的とする。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：自然主義（Crane, Norris, Dreiserなど）</p> <p>第3回：Wharton, Cather, Anderson</p> <p>第4回：モダニズムと詩（Pound, Eliot, Steinなど）</p> <p>第5回：Hemingwayと失われた世代</p> <p>第6回：Fitzgeraldと1920年代</p> <p>第7回：1930年代の文学（Wolfe, Steinbeck, Westなど）</p> <p>第8回：Faulknerと南部文学</p> <p>第9回：演劇（O'Neill, Williams, Millerなど）</p> <p>第10回：アフリカ系文学（Wright, Ellison, Morrisonなど）</p> <p>第11回：ユダヤ系文学（Bellow, Malamud, Rothなど）</p> <p>第12回：その他戦後文学（Nabokov, Updikeなど）</p> <p>第13回：ポストモダン（Barth, Pynchonなど）</p> <p>第14回：その後の文学</p> <p>第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
アメリカ文学（講義A）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末試験（50％）とレポート（50％）により評価する。期末試験では、アメリカ文学・文化に関する基礎知識の習得度を評価する。レポートは、授業で紹介したアメリカ文学作品について自由に論じるというもので、読解力、思考力、論述力および読者としてのセンスを評価する。</p>											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)

亀井俊介 『アメリカ文学史講義 1～3』 (南雲堂) ISBN:978-4523292432

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』 (三修社) ISBN:9784384057485

竹内理矢・山本洋平編 『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』 (ミネルヴァ書房) ISBN:9784623090778

**[授業外学修(予習・復習)等]**

アメリカ文学の世界への導入を目的とした授業なので、予習、復習等は特に求めない(必要のある場合は授業中に指示する)。ただしその分の時間を使って、授業で紹介するアメリカ文学作品をなるべく多く読んでみることを。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系13

科目ナンバリング		U-LET21 13604 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス文学における「認知＝発見」の詩学									
【授業の概要・目的】											
ルネサンス以降、文学創作理論の基礎となっていたアリストテレス『詩学』の中で、特に「認知＝発見」の概念がどのように理解されていたか、またどのように創作の中に取り入れられたか、理論と実践の両面について考察する。											
【到達目標】											
西洋文学理論の源流に位置するアリストテレス『詩学』が近代フランスにおいてどのように受容されたかを理解する。また文学理論としての詩学がどのように創作に反映されるか、作品解釈にどのような寄与をもたらすかを理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のようなプランで授業を進める予定である。ただし講義の進みぐあいに対応して順序やテーマを変更することがある。											
第1～第2週 近代フランスにおけるアリストテレス『詩学』の受容											
第3～第4週 アリストテレス『詩学』における「認知＝発見」											
第5～第6週 喜劇における「認知＝発見」											
第7～第8週 悲喜劇における「認知＝発見」											
第9～第11週 悲劇における「認知＝発見」											
第12～第13週 近代の詩学における「認知＝発見」											
第14週 まとめ 文学作品における「認知＝発見」の意義											
第15週 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(100%)											
【教科書】											
プリント等を配布する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業で抜粋を読んだ作品を通して読んでみる。授業で紹介する関連図書を参照すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系14

科目ナンバリング		U-LET21 13606 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		プルースト『失われた時を求めて』を読む									
【授業の概要・目的】											
フランス近代文学を代表する小説家マルセル・プルースト(1871-1921)の長編小説『失われた時を求めて』(1913-1927)を紹介・解説する。全7篇からなる作品の生成、構成、主要テーマを概観したあと、各巻の主要場面を、文学史や文化史のコンテクストのなかで、時代背景や執筆状況などに照らし合わせながら読解する。											
【到達目標】											
抜粋と翻訳を通してフランス文学の代表的作品に直接触れるとともに、文学作品の批評的読解の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進み具合や受講者の理解の程度に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
<p>第1回 イン트로ダクション(プルーストの人生と主要作品紹介)</p> <p>第2回～第3回 『スワン家のほうへ』における無意志的記憶</p> <p>第4回 『花咲く乙女たちのかげに』における食のテーマ</p> <p>第5回～第6回 『ゲルマンのほう』におけるドレフェス事件とユダヤ人</p> <p>第7回～第8回 『ソドムとゴモラ』における同性愛</p> <p>第9回 『囚われの女』における芸術論</p> <p>第10回 『消え去ったアルベルチーナ』における愛と嫉妬</p> <p>第11回 『見出された時』における第一次世界対戦</p> <p>第12回～第13回 『見出された時』における小説論</p> <p>第14回 日本における『失われた時を求めて』受容史</p> <p>第15回 総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験の代わりに期末レポート(100点満点、60点以上で合格)を課す。到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては高い点を与える。											
----- 系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系15

科目ナンバリング		U-LET21 23607 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小田 涼			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス語学概論									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、フランス語の語彙や構文の分析方法を学び、言語学としてフランス語を研究するための入門的な知識を身につけることである。ときに日本語や英語と比較しながらフランス語のさまざまな表現の違いについて考え、フランス語を学問として研究するための基本的な知識を学ぶ。											
【到達目標】											
フランス語とはどういう言語であるか、語彙論、意味論、統語論、語用論などの観点からアプローチしてその全体像を把握できるようになる。フランス語学についての基礎的知識と分析方法を習得する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合やその他の事情によりテーマの順序やテーマの一部を変更することがある。また、1つのテーマを2回の授業で扱うこともある。											
<p>第1回：ソシールと言語学の基本概念、言語学・フランス語学とは何か。</p> <p>第2回：「持つ(avoir)」的言語と「ある(etre)」的言語 (Have languageとBe language)</p> <p>第3回：フランス語の名詞の性は何のために存在するのか</p> <p>第4回：カテゴリー化 (= 範疇化) について</p> <p>第5回：冠詞と意味の切り分け (英語の可算名詞と非可算名詞の区別はフランス語ではどのように現れるのか)</p> <p>第6回：総称 (ものごと一般) をあらわす定冠詞単数・複数と不定冠詞単数</p> <p>第7回：名詞を修飾する形容詞の位置 「le petit Chaperon rouge (赤頭巾ちゃん) では形容詞rougeを名詞の後ろにおくのに、Blanche Neige (白雪姫) では形容詞blancheを名詞の前におくのはなぜか」</p> <p>第8回：否定：分離的否定、否定の作用域</p> <p>第9回：叙法(mode)について (直説法、条件法、接続法、命令法)</p> <p>第10回：情報構造と語順 「フランス語の補語人称代名詞はなぜ動詞の前に出るのか」</p> <p>第11回：不定代名詞のonとBenvenisteの人称論</p> <p>第12回：BenvenisteによるHistoireとDiscoursの区別</p> <p>第13回：代名動詞のさまざまな用法 (再帰用法・相互用法・受動的用法)</p> <p>第14回：語調緩和の半過去 「Je voulais vous demander un petit service.のような半過去になぜ語調を緩和する働きがあるのか」</p> <p>第15回：期末試験</p> <p>第16回：フィードバック</p>											
----- 系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(フランス語学)(講義)(2)

**[履修要件]**

フランス語初級を習得しているか、あるいは基本的なフランス語の文法知識があること。

**[成績評価の方法・観点]**

定期試験の成績（85％）や授業への参加度・平常点（15％）などを総合的に判断して評価を行う。

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

平日頃から外国語や日本語のさまざまな現象を観察して、言葉に関する直感を磨くよう心がけること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系16

科目ナンバリング		U-LET21 23608 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 守田 貴弘			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語機能論									
【授業の概要・目的】											
<p>構造・機能相関論の観点から、文法知識のうち、知っているつもりではあっても改めて説明を求められると困るものについて考察する。このような文法的知識は自分の知っている言語から構築されていると考えられるが、その知識は知らない言語では通用しない可能性もある。具体的な言語現象の分析を学びながら、文法的知識が実はあいまいであることを理解しながら、確かな知識に至るための方法としてどのような方法が優れているのかという方法論的な問題も扱う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理論言語学の方法に馴染み、身近な言語現象を言語学的に分析できるようになる。</li> <li>・現象の記述と理論構築の緊張関係を理解し、科学的研究においては目的に応じて適切な方法を選択することが必要になるという態度が必要であることが理解できる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業回数はフィードバックを含め、全15回とする。主に以下の3つのトピックについて、例示してあるような問題意識にもとづいてそれぞれ4回から5回で講義する。各項目に充てる時間数は履修者の理解度を見ながら調整する。日本語、英語、フランス語などを中心としながらも、馴染みのない言語も扱う。</p> <p>(1) 主語という概念をめぐって 格とどのように違うのか、他の言語の事情はどうなっているのか、教育上の「意味上の主語」とは何なのか、主語はあった方がいいのか</p> <p>(2) 品詞分類の根拠を求めて 単語レベルで品詞は決まっているのか、名詞と動詞は本当に普遍的なものか、「内在的な思考と外在化された言語」という観点から、8品詞という伝統に関して</p> <p>(3) 「言語には意味がある」という思い込みについて そもそも意味が伝わるとはどういう現象なのか、意味の大半は無意識だという話、言語が意味伝達において果たしている役割はどの程度のものなのか</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目（フランス語学）(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点(授業への積極的参加度,小レポート)40%,定期試験60%。試験では講義内容への理解度と,問題に対し自ら考えて論述する力を評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回の講義内容を復習し不明点は次回に質問すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

質問等は随時メールで受け付ける。一方通行の知識伝達型の授業というよりは,対話を重視しながら進めていくので,意見を述べることをためらわないでほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系17

科目ナンバリング		U-LET22 13702 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イタリア文学史(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア文学は、中世から現代に至るまで多数の傑作を生みだしています。特に13世紀から16世紀の俗語文学は、イタリア半島のみならずヨーロッパ各国の文化に大きな影響を及ぼしています。前期の講義では13世紀から14世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。あわせて宮廷風恋愛やアレゴリーといった西洋文化の重要概念についても言及する予定です。</p>											
【到達目標】											
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文化の重要概念について理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>第2-14回：(1つの項目につき2-3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリア語(俗語)の成立について</li> <li>・イタリア文学の元祖、シチリア派の詩人たち</li> <li>・ダンテと『神曲』について</li> <li>・ペトラルカと『カンツォニエーレ』</li> <li>・ボッカッチョと『デカメロン』</li> </ul> <p>第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
イタリア語の知識は必要ありません。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(30%) 期末のレポート(70%)</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講義)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介します。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業の前にPandAに掲示するプリントに目を通しておきましょう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系18

科目ナンバリング		U-LET22 13703 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イタリア文学史(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア文学は中世から現代に至るまで多数の傑作を生みだしています。特に13世紀から16世紀の俗語文学は、イタリアのみならずヨーロッパ諸国の文化全般に影響を及ぼしています。後期の講義では15-16世紀の主要な詩人・文人を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。</p>											
【到達目標】											
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>2回～14回：(1つの項目につき2・3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文主義について</li> <li>・騎士物語(ボイアルドとアリオスト)</li> <li>・16世紀の言語論争</li> <li>・マキアベリと『君主論』</li> <li>・インプレーザとメタファーについて</li> <li>・創作理論の探求(トルクァート・タッツの詩論)</li> </ul> <p>第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>イタリア語の知識は必要ありません。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(30%) 期末のレポート(70%)</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(講義) (2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講義) (2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介します。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業の前にPandAに掲示する関連プリントに目を通しておきましょう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系19

科目ナンバリング		U-LET42 13902 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋文学入門(講義) Introduction to Western Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗 文学研究科 教授 中村 唯史 文学研究科 教授 松村 朋彦 非常勤講師 南谷 奉良 文学研究科 教授 森 慎一郎 文学研究科 教授 永盛 克也 文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1・2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋文学入門									
[授業の概要・目的]											
西洋文化学系の専任教員7名によるリレー講義です。西洋古典文学、イタリア文学、フランス文学、ドイツ文学、ロシア文学、英文学、アメリカ文学の作品とその受容や語りの技法などをトピックとして、各担当者がその魅力を語ります。西洋文学に関する全般的な理解を深めることを目的としますが、それと同時に、さらに深く学びたい人を西洋文化の世界へといざなう起点となることも期待しています。											
[到達目標]											
西洋文学のさまざまな作家や作品にかんする知識と理解を深めるとともに、文学作品を読み解くための基本的な技法を身につける。											
[授業計画と内容]											
西洋古典文学(河島) 第1週(4月14日)ホメロス『イリアス』:ギリシア文学のはじまり 第2週(4月21日)オウィディウス『変身物語』:ラテン文学における受容と変容											
イタリア文学(村瀬) 第3週(4月28日)マキアヴェッリ『君主論』概説 第4週(5月12日)トルクアート・タツソの叙事詩『エルサレム解放』について											
フランス文学(永盛) 第5週(5月19日)モリエールとその時代 第6週(5月26日)モリエールの主要作品											
ドイツ文学(松村) 第7週(6月2日)ゲーテ『若きヴェルターへの悩み』 第8週(6月9日)ホフマン『砂男』											
ロシア文学(中村) 第9週(6月16日)トルストイ『コサック』を読むI:ロシア文学におけるコーカサス表象の系譜 第10週(6月23日)トルストイ『コサック』を読むII:「事実」と「語り」のあいだ											
英文学(南谷)											
----- 西洋文学入門(講義)(2)へ続く -----											

## 西洋文学入門(講義)(2)

第11週(6月30日)ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』(1922)概説

第12週(7月7日)『ユリシーズ』(1922)の言語革命

アメリカ文学(森)

第13週(7月14日)フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』について

第14週(7月21日)『グレート・ギャツビー』の冒頭を読む

第15週(7月28日)まとめ・フィードバック(松村)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより、到達目標の達成度にもとづいて評価する。レポートについては、KULASISの「レポート情報」によって周知する。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業で取り上げる作品の多くは、下記のサイトでも紹介されている。

(関連URL)

[http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku\\_hyakunen.pdf#page=2](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku_hyakunen.pdf#page=2)(「西洋文学この百冊」)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業で取り上げた作品、紹介された本や論文を、できるだけ自分でも読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

特定の国や作家に偏るのではなく、未知の国や作家の文学にも触れ、西洋文学の多様性の一端を実感してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系20

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回～13回：『変身物語』精読          第14回：全体のまとめ          第15回：フィードバック          フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書）          授業中に紹介する</p>											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。  
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系21

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』を精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回～13回：『変身物語』精読          第14回：全体のまとめ          第15回：フィードバック          フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。  
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系22

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション          第2回～13回：『カルミナ』精読          第14回：全体のまとめ          第15回：フィードバック          フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。  
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系23

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション  第2回～13回：『カルミナ』精読  第14回：全体のまとめ  第15回：フィードバック  フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。  
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 西洋文化学系24

科目ナンバリング	U-LET15 33141 SJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 竹下 哲文				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	リュースィアース『弁論集』精読										
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、リュースィアース『弁論集』を精読する。「平明体」の規範とされたリュースィアースの弁論を読むことを通して、ギリシア語散文を読む力を高めるとともに弁論の構成や修辞技法についても理解を深めることを目指す。ひとつひとつの文の構成のみならず論説全体の構成の分析にも重心を置く。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリシア語原典（散文）を読む力を高める</li> <li>・弁論作品の鑑賞を通して修辞技法についての知識を深める</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系25

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 平山 晃司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アンティポーンの弁論を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>トゥーキューディデースが「当代随一の才人」と評し、「法廷や民会で争う人に対して有益な助言を与えることにかけて、彼の右に出る者はいなかった」と伝えるアンティポーン（前480頃～411）は、アッティカ十大弁論家の筆頭であり、おそらくは訴訟当事者のために弁論を代作し、それを公刊した最初の人であった。彼の弁論作品のうち、第5番『ヘーローイデースの殺害について』と第6番『合唱隊員について』を読む（前年度の続き）。</p>											
[到達目標]											
<p>ギリシア語の読解力を向上させる。 古典期アテナイの社会の様相や法制度に関する知識を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>毎回3～4ページずつ読み進める予定。</p> <p>第1回 導入（テキスト配布、注釈書の紹介など） 第2回～第15回 訳読</p>											
[履修要件]											
<p>ギリシア語文法を修得済みであること。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>出席状況、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。</p>											
[教科書]											
<p>M. R. Dilts, D. J. Murphy 『Antiphontis et Andocidis orationes』（Oxford University Press, 2018）ISBN: 9780199605477 コピーを配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>（参考書） M. Gagarin 『Antiphon: The Speeches』（Cambridge University Press, 1997）ISBN:9780521389310 コピーを配布する。</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
<p>毎回の授業に備えてテキストの指定された範囲を丁寧に読んでおくこと。</p> <p>（その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

## 西洋文化学系26

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹下 哲文			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		リュースィアース『弁論集』精読									
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、リュースィアース『弁論集』を精読する。「平明体」の規範とされたリュースィアースの弁論を読むことを通して、ギリシア語散文を読む力を高めるとともに弁論の構成や修辞技法についても理解を深めることを目指す。ひとつひとつの文の構成のみならず論説全体の構成の分析にも重心を置く。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリシア語原典（散文）を読む力を高める</li> <li>・弁論作品の鑑賞を通して修辞技法についての知識を深める</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進捗によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系27

科目ナンバリング	U-LET15 33141 SJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 竹下 哲文				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	ヘーシオドス『神統記』精読										
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『神統記』を精読する。宇宙開闢から神々の系譜、ウーラノスからゼウスに到る王権の交替を主題とする本作の講読を通して、韻律や文体に習熟すると共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。											
[到達目標]											
ギリシア語原典（韻文）の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
原典と注釈を熟読すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系28

科目ナンバリング	U-LET15 33141 SJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 竹下 哲文				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	ヘーシオドス『神統記』精読										
[授業の概要・目的]											
ギリシア語文法を学んだ人を対象として、ヘーシオドス『神統記』を精読する。宇宙開闢から神々の系譜、ウーラノスからゼウスに到る王権の交替を主題とする本作の講読を通して、韻律や文体に習熟すると共に、注釈書を用いて本文や解釈上の問題についても検討する。											
[到達目標]											
ギリシア語原典（韻文）の読解力を高める。 古典作品の伝承と受容について知識を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 テクストの精読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
原典と注釈を熟読すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系29

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋古典学演習I									
[授業の概要・目的]											
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。											
[到達目標]											
この授業の到達目標は以下の通り。 ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。											
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
研究報告や討論への参加などの平常点および学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系30

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋古典学演習II									
[授業の概要・目的]											
西洋古典学に関する専門知識を得るとともに、受講者が自身の研究テーマに即して報告をおこない、参加者全員で討論する。研究報告と討論を通じて研究テーマに関する理解を深めるとともに、研究を進める上での問題点を認識し、研究を発展させることを目標とする。											
[到達目標]											
この授業の到達目標は以下の通り。 ・西洋古典学に関する専門知識を修得することができる。 ・自らの研究テーマを設定し発展させることができる。 ・独自性を追求できる能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
参加者は自身の研究テーマについて複数回の発表をおこなう。研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読が必要となる。また討論に積極的に参加し、研究の協働をおこなうことが求められる。											
第1回：イントロダクション 論文の書き方や研究の進め方について 第2回～14回：担当者による発表と全体討論 第15回：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
研究報告や討論への参加などの平常点および学期末のレポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、テキストの精読など研究の基礎となる作業に加えて、発表の準備や討論を経て明らかになった問題点について再検討する必要がある。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系31

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『饗宴』を読む(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『饗宴』の原典を精読します。悲劇詩人アガトンがコンテストで優勝した記念のパーティで、ソクラテスや喜劇詩人アリストパネスを含む登場人物たちが、「恋」(エロース)を主題とするスピーチを即興でつくり、この神をたたえます。文学作品として非常に完成度が高いだけでなく、「本性において驚くべき美しさ」を例として、プラトンの形而上学において「真実在」と呼ばれるもののあり方が最も詳しく描写されるという点で、哲学的にも非常に重要な対話篇です。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。</li> <li>・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。</li> <li>・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『饗宴』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てる場合があります。</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 『饗宴』 172a1-173d3の講読・検討</p> <p>第3回 『饗宴』 173d4-174e11の講読・検討</p> <p>第4回 『饗宴』 174e12-176b4の講読・検討</p> <p>第5回 『饗宴』 176b5-177d5の講読・検討</p> <p>第6回 『饗宴』 177d6-179b3の講読・検討</p> <p>第7回 『饗宴』 179b4-180d4の講読・検討</p> <p>第8回 『饗宴』 180d4-182b7の講読・検討</p> <p>第9回 『饗宴』 182b7-183e6の講読・検討</p> <p>第10回 『饗宴』 183e6-185c3の講読・検討</p> <p>第11回 『饗宴』 185c4-187a1の講読・検討</p> <p>第12回 『饗宴』 187a1-188d3の講読・検討</p> <p>第13回 『饗宴』 188d4-190a4の講読・検討</p>											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											



## 西洋古典学(演習) (2)

第14回 『饗宴』 190a4-191c8の講読・検討

第15回 まとめ

### 【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

### 【教科書】

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus II (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1901.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

### 【参考書等】

(参考書)

Kenneth Dover. 『/Plato: Symposium/ (Cambridge Greek and Latin Classics). 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1980.)

C. J. Rowe. 『/Plato: Symposium/. 』 (Warminster: Aris & Phillips Ltd, 1998.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『饗宴』を読む(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『饗宴』の原典を精読します。悲劇詩人アガトンがコンテストで優勝した記念のパーティで、ソクラテスや喜劇詩人アリストパネスを含む登場人物たちが、「恋」(エロース)を主題とするスピーチを即興でつくり、この神をたたえます。文学作品として非常に完成度が高いだけでなく、「本性において驚くべき美しさ」を例として、プラトンの形而上学において「真実在」と呼ばれるもののあり方が最も詳しく描写されるという点で、哲学的にも非常に重要な対話篇です。本授業では前期(プラトン『饗宴』を読む(1))の続きから読み始めて、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。</li> <li>・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。</li> <li>・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『饗宴』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てる場合があります。</p>											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 『饗宴』 191c8-193a1の講読・検討</p> <p>第3回 『饗宴』 193a1-194b8の講読・検討</p> <p>第4回 『饗宴』 194c1-195e4の講読・検討</p> <p>第5回 『饗宴』 195e4-197b9の講読・検討</p> <p>第6回 『饗宴』 197c1-198e4の講読・検討</p> <p>第7回 『饗宴』 198e4-200b8の講読・検討</p> <p>第8回 『饗宴』 200b9-201c9の講読・検討</p> <p>第9回 『饗宴』 201d1-202e1の講読・検討</p> <p>第10回 『饗宴』 202e2-204a7の講読・検討</p> <p>第11回 『饗宴』 204a8-205c3の講読・検討</p> <p>第12回 『饗宴』 205c4-206d2の講読・検討</p> <p>第13回 『饗宴』 206d2-208a3の講読・検討</p>											
----- 西洋古典学(演習)(2)へ続く -----											

## 西洋古典学(演習) (2)

第14回 『饗宴』 208a3-209e4の講読・検討

第15回 まとめ

### 【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

### 【教科書】

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus II (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1901.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

### 【参考書等】

(参考書)

Kenneth Dover. 『/Plato: Symposium/ (Cambridge Greek and Latin Classics). 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1980.)

C. J. Rowe. 『/Plato: Symposium/. 』 (Warminster: Aris & Phillips Ltd, 1998.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系33

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹下 哲文			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、セネカ『生の短さについて』を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系34

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹下 哲文			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として、前期に引き続き、セネカ『生の短さについて』を教材に講読を行う。											
[到達目標]											
ラテン語散文に親しみ、基本的な感覚を身につける 語彙を増やし、複雑な文章にも対応できる力をつける 古代ローマの文化や歴史を理解する 辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する											
[授業計画と内容]											
初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ、実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます。熟語や類義語に注意を払いながら、辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 講読 第15回 フィードバック 授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります。											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
テキストと注釈を読み、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系35

科目ナンバリング	U-LET15 23151 LJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	非常勤講師 山下 修一				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読										
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポン『アナバシス』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
クセノポンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系36

科目ナンバリング	U-LET15 23151 LJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	古典ギリシア語中級講読										
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘーロドトスの『歴史』の精読を通して、古典ギリシア語読解の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
ヘーロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』 (Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』 (Oxford University Press) ISBN:9780199639366 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系37

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語 (4時間コース) (語学) Greek(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 広川 直幸			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月1,木1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ギリシア語 (4時間コース)									
[授業の概要・目的]											
<p>ギリシア語 (正確にはギリシャ語) はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字B文書を別にすれば、紀元前8世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前5～4世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的良好に実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献 (例えばホメロス) やそれ以後の文献 (例えば『新約聖書』) を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくし、スムーズに原典講読に移行できるようになることを目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むギリシア語原典 (紀元前8世紀の叙事詩から紀元後4世紀頃の擬古文まで) の読解に取りかかることができるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>まずは全36課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折 (いわゆる語形変化) なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期            第1回 イントロダクション、第1課「文字と発音」の解説            第2回 第1課の練習問題、第2課「アクセント」の解説            第3回 第1課と第2課の復習            第4回 第3課の解説            第5回 第3課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第4課の解説            第6回～第30回 第5回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期            第31回～第38回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。</p>											
----- ギリシア語 (4時間コース) (語学)(2)へ続く -----											



ギリシア語（4時間コース）(語学)(2)

第39回～第60回 平易なテキストを講読する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（課題遂行状況、疑問点を積極的に質問する受講態度）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。

出席数が全授業数の4分の3に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

夏季休暇の前に後期の講読までに揃えるべき辞書類を記した文献表を配布し詳しく解説する。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。1時間や2時間程度の予習復習では到底受講継続はできないと心得よ。予習復習の時間配分は復習9：予習1ぐらいが適切である。また、他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、授業中であれ授業後であれ遠慮をせずに積極的に質問することを期待する。

授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。

遅刻は3回につき欠席1回とみなす。また、30分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系38

科目ナンバリング		U-LET49 29645 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語(4時間コース)(語学) Latin(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 義尚			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月2,金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語(4時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。一年間、週に二回の授業を行う。 古代ローマから近世にいたるまで哲学、文学は言うに及ばず、法律、自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語、文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいだろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。</p>											
【到達目標】											
<p>古代、中世、近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。 フランス語、イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで、これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。</p> <p>前期 第1回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。 第2回～第29回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ。 第30回；学習到達度の評価</p> <p>後期 第1回～第15回；教科書を二課ずつすすみ、学習し終える。 第16回～第30回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。 後期定期試験。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60点、試験40点で評価する。											
【教科書】											
松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』(東洋出版) ISBN:4-8096-4301-8 教科書だけではわかりにくいので、解説資料を配布する。											
----- ラテン語(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

ラテン語（4時間コース）(語学)(2)

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習してくること。

**（その他（オフィスアワー等））**

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易。逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系39

科目ナンバリング	U-LET49 29664 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（初級I）（語学） Greek					担当者所属・ 職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ										
[授業の概要・目的]											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。</p> <p>簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。</p> <p>古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方</p> <p>第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説</p> <p>教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。</p> <p>期末試験</p> <p>第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
[教科書]											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系40

科目ナンバリング		U-LET49 29665 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語（初級II）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
----- ギリシア語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ギリシア語（初級II）（語学）(2)

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習してこること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系41

科目ナンバリング		U-LET49 29666 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級I）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級I）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級I）（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 西洋文化学系42

科目ナンバリング		U-LET49 29667 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級II）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級Ⅱ）（語学）(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系43

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア・旧ソ連諸国の言語状況									
【授業の概要・目的】											
ロシアや旧ソ連諸国における言語状況について体系的な知識を得る。											
【到達目標】											
言語と社会の関係性について基本的な知識を具体例とともに整理する。											
【授業計画と内容】											
基本的には講義形式で行う。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 言語・民族・国家・社会</li> <li>3. ロシア帝国・ソ連時代の言語状況</li> <li>4. ロシア連邦の言語状況</li> <li>5. ロシア連邦の言語状況</li> <li>6. ロシア連邦の言語状況</li> <li>7. ロシア語系住民</li> <li>8. バルト3国の言語状況</li> <li>9. バルト3国の言語状況</li> <li>10. バルト3国の言語状況</li> <li>11. ウクライナの言語状況</li> <li>12. ベラルーシの言語状況</li> <li>13. モルドバの言語状況</li> <li>14. 中央アジアの言語状況</li> <li>15. 総括</li> </ol>											
授業回数は15回とする。											
【履修要件】											
ある程度のロシア語の知識とキリル文字を読めること。											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価については、平常点（70%）・学期末レポート（30%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みではかる。											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

日頃からことばと社会の関係にアンテナを張っておいてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

メールで事前に連絡のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系44

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア語メディア言語学									
【授業の概要・目的】											
ロシア語メディア言語学に関するロシア語テキストを輪読し、現代メディアにおける言語使用や言語研究について知見を深める。											
【到達目標】											
<p>先行研究の論点を整理し、批判的に読み取る力を養う。          ロシア語の学術論文の読解力を向上させる。          自身のロシア語学および言語学における研究テーマや研究手法を見直す。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ロシア語メディア言語学に関して、以下の概説的な文献で扱われる様々なメディア言語学の概念を2-3回の授業で読んでいく。その際、受講者にロシア語のメディアからの具体例を収集し、授業時に紹介してもらうことがある。</p> <p>Medialingvistika v terminax i ponjatijax. Slovar'-spravochnik. Moskva: Flinta. 2018.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 導入</li> <li>3. 導入</li> <li>4. メディアディスコース</li> <li>5. メディアディスコース</li> <li>6. メディアと文法</li> <li>7. メディアと文法</li> <li>8. メディアと語彙</li> <li>9. メディアと語彙</li> <li>10. 広告のことば</li> <li>11. 広告のことば</li> <li>12. ハイパーメディアテキスト</li> <li>13. ハイパーメディアテキスト</li> <li>14. 予備</li> <li>15. 総括</li> </ol>											
-----スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く-----											

## スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

ロシア語のテキストを辞書を用いて読むため、中級以上のロシア語の読解力が必要である。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（70％）と期末レポート（30％）で総合的に評価する。なお、平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みで評価する。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する  
講読する箇所を授業時に配布する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

翌週の授業で扱うテキストの該当部分をあらかじめ予習しておくこと。  
またテキストで扱われている事象の具体例を、（ロシア語または他の言語で）収集してきてもらうこともある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系45

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシアの詩と詩論									
【授業の概要・目的】											
<p>エフィム・エトキント著『詩についての話』は、詩における「コンテクスト」「比喻」「イメージ」「スタイル」などのテーマを、豊富な例を用いて、平明な文体で論じた名著です。詩の実例は、プーシキン、レールモントフから、チュツチェフ、フェートなどを経て、ブローク、アフマートワ、ツヴェターエワ、ザボロツキーなど20世紀前半の詩までをカバーしています。</p> <p>前期に引き続き、この本の重要な箇所を講読するとともに、例として挙げられている詩の読解と分析を行います。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。</p> <p>2) ロシアの詩と詩論に対する知識と理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回～第14回 『詩についての話』を講読し、引用されている詩の読解と分析を行います。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
【履修要件】											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
【教科書】											
テキストはプリントを配付します。											
【参考書等】											
<p>(参考書)</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p>											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

事前に下調べをしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 西洋文化学系46

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシアの詩と詩論									
[授業の概要・目的]											
<p>エフィム・エトキント著『詩についての話』は、詩における「コンテクスト」「比喻」「イメージ」「スタイル」などのテーマを、豊富な例を用いて、平明な文体で論じた名著です。詩の実例は、プーシキン、レールモントフから、チュツチェフ、フェートなどを経て、ブローク、アフマートワ、ツヴェターエワ、ザボロツキーなど20世紀前半の詩までをカバーしています。</p> <p>この本の重要な箇所を講読するとともに、例として挙げられている詩の読解と分析を行います。</p>											
[到達目標]											
<p>1) ロシア語の文学論文を読解する語学力と方法と知識を習得する。</p> <p>2) ロシアの詩と詩論に対する知識と理解を深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション テキストとその著者について紹介します。</p> <p>第2回～第14回 『詩についての話』を講読し、引用されている詩の読解と分析を行います。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
[履修要件]											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前に下調べをしてください。											
<p>(その他(オフィスアワー等))</p> <p>詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

## 西洋文化学系47

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 有宗 昌子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		聖人伝を読む ロシア教会史に関する文献の講読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、聖人伝とロシア教会史に関する文献の講読を通じて、ロシアのキリスト教文化とロシア社会に関する知識と理解を深めることにある。 ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどの正教圏で列聖された様々な時代の聖人のうち、特に崇敬を集める聖人を取り扱う。関連するイコンや映像なども参照する。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基本的な読解力と、宗教的文献のジャンルの一つである聖人伝の読解力の向上を目指します。 2) ロシア教会史と社会背景に関する知識と理解を深めます。											
【授業計画と内容】											
第1回 はじめに 授業の概略と進め方を説明し、文献の紹介を行います。											
第2回～第14回 講読： 一人の人物の聖人伝を1回ないし数回に分けて読み進める。											
第15回 まとめ  フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基本文法を理解していること（未修事項は適宜補います）。 辞書を使って読めること。独習でもかまいません。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60%、期末レポート40%で評価します。											
【教科書】											
プリント、データを配付します。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に紹介する本や論考、映像をできるだけ自分でも参照してみてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

第1回授業で相談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中野 悠希			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語作文									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した日本語の文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。  (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画と内容</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 繋辞文(「～は…だ」など)</p> <p>第3回 繋辞文(「～のは…だ」など)</p> <p>第4回 動作様態の表現(「～し始める」など)</p> <p>第5回 動作様態の表現(「～しかけた」など)</p> <p>第6回 使役・奉仕の表現</p> <p>第7回 叙法の表現(「～かもしれない」など)</p> <p>第8回 叙法の表現(「～できる」など)</p> <p>第9回 叙法の表現(「～しなければならない」など)</p> <p>第10回 受け身の表現</p> <p>第11回 並列接続詞を使った表現</p> <p>第12回 目的の表現</p> <p>第13回 比較級・最上級の表現</p> <p>第14回 譲歩・容認の表現</p> <p>第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

## スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

### [教科書]

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

### [参考書等]

（参考書）

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎 『ロシア語作文の基礎（第二版）』（白水社、1980年）

### [授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系49

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -1									
【授業の概要・目的】											
平易なロシア文学史の論文の講読と、ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する学部生による研究報告											
【到達目標】											
1) 文学に関するロシア語論文の読解法を習得する。 2) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 3) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン 各自の関心に応じて研究発表のテーマ、及びその対論者を決め、だいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～9回 現代のロシア文学者I・スヒフの著作『すべての人のためのロシア文学』から、「ドストエフスキー」の前半を講読します。											
第10～15回 学部生が順次、研究報告と質疑応答を行います。 大学院生は質問や提案を行います。  フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基礎的な知識が必要です。 スラブ語学スラブ文学専修の学部生・修士課程・博士課程生は原則として必ず履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----											

## スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

### [教科書]

講読のテキストはコピーを配付します。  
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。

### [授業外学修(予習・復習)等]

講読の際には、事前に準備をしておくこと。  
報告準備の過程では、事前に必ず教員の助言を受けること。

### (その他(オフィスアワー等))

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系50

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -2									
【授業の概要・目的】											
平易なロシア文学史の論文の講読と、ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する学部生による研究報告											
【到達目標】											
1) 文学に関するロシア語論文の読解法を習得する。 2) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 3) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODククション 各自の関心に応じて研究発表のテーマ、及びその対論者を決め、だいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～9回 現代のロシア文学者I・スヒフの著作『すべての人のためのロシア文学』から、「ドストエフスキー」の後半を講読します。											
第10～15回 学部生が順次、研究報告と質疑応答を行います。 大学院生は質問や提案を行います。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基礎的な知識が必要です。 スラブ語学スラブ文学専修の学部生・修士課程・博士課程生は原則として必ず履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----											



## スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

### [教科書]

講読のテキストはコピーを配付します。  
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。

### [授業外学修(予習・復習)等]

講読の際には、事前に準備をしておくこと。  
報告準備の過程では、事前に必ず教員の助言を受けること。

### (その他(オフィスアワー等))

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系51

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -1									
【授業の概要・目的】											
ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する、大学院生による研究報告											
【到達目標】											
1) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 2) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクション 各自の関心に応じて研究発表のテーマを決め、前期のほしいスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～14回 大学院生が、順次、研究報告と質疑応答を行います。 学部生は、質疑応答に積極的に参加することが求められます。											
第15回 各報告の補足と、演習の総括を行います。  フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
スラブ語学スラブ文学専修の修士課程・博士課程生は原則として必ず履修すること。 同じく学部生も履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

報告準備の過程で、事前に必ず教員の助言を受けること。

**（その他（オフィスアワー等））**

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系52

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -2									
【授業の概要・目的】											
ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する、大学院生による研究報告											
【到達目標】											
1) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 2) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN 各自の関心に応じて研究発表のテーマを決め、後期のだいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～14回 大学院生が、順次、研究報告と質疑応答を行います。 学部生は、質疑応答に積極的に参加することが求められます。											
第15回 各報告の補足と、演習の総括を行います。  フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
スラブ語学スラブ文学専修の修士課程・博士課程生は原則として必ず履修すること。 同じく学部生も履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

報告準備の過程で、事前に必ず教員の助言を受けること。

**（その他（オフィスアワー等））**

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系53

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ラトビア語入門									
【授業の概要・目的】											
インド・ヨーロッパ語族バルト語派のラトビア語の実践的な学習を通じて、系統をともしする、または異にする言語間に見られる、ことばの体系性や普遍性、相違点を明らかにする。とりわけ系統が近いとされるスラブ語派との相違点を理解する。											
【到達目標】											
ラトビア語の実践的な学習を通じて、ことばの普遍性や体系性、個別言語間の相違を明らかにする。ことばをその周辺の諸現象（文化、社会、歴史、技術革新など）に有機的に関連付ける視点を得る。既習の外国語や言語学の知識、言語学習の経験や学習に対する動機が、ゼロから半期で学ぶ言語の学習の進捗や理解度にどのように影響するかを自身で確かめる。											
【授業計画と内容】											
授業回数は全14回、その他期末試験、フィードバックの回を設ける。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字と発音</li> <li>2. be動詞、名詞と形容詞の性・数</li> <li>3. 第2変化動詞、位格</li> <li>4. 第3変化動詞、対格</li> <li>5. 属格</li> <li>6. 第1変化動詞、与格</li> <li>7. 復習</li> <li>8. 動詞未来形</li> <li>9. 動詞過去形、アスペクト</li> <li>10. 形容詞の定・不定</li> <li>11. 複合時制</li> <li>12. 命令法、願望法</li> <li>13. 義務法、伝聞法</li> <li>14. 復習</li> </ol>											
試験 フィードバック											
また、折に触れてラトビアの文化や社会についても紹介する。											
【履修要件】											
特になし											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

## スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業への参加態度などの平常点（50％）・試験（50％）

### [教科書]

堀口大樹 『ニューエクスプレスプラス ラトヴィア語』（白水社、2018）

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業内外に限らず、言語の学習では音読を重視します。

### （その他（オフィスアワー等））

教室定員の枠で受講生を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中野 悠希			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語作文									
【授業の概要・目的】											
この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。また毎回構文ごとの訳し方の典型的なパターンを学習し、ただ単語を単語に訳すだけでなく、構文を構文に訳す技術を磨く。さらに新聞、学術書、小説、メール、レシピ等からテーマ別に抜粋した日本語の文章をロシア語に訳すことで、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指す。こうした練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を総合的に高めることが授業の狙いである。											
【到達目標】											
(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 時間の表現(「～する時」など) 第3回 時間の表現(「～する前に」など) 第4回 条件の表現(「～なら」など) 第5回 条件の表現(「たとえ～でも」など) 第6回 原因・理由の表現 第7回 結果の表現 第8回 疑問詞を使った表現 第9回 否定小詞を使った表現 第10回 比喻・様式の表現 第11回 程度の表現 第12回 主語的な名詞節を使った表現 第13回 補語的な名詞節を使った表現 第14回 関係節を使った表現 第15回 まとめ											
【履修要件】											
中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(出席・毎回の作文課題)30%、期末レポート(和文露訳)70%											
【教科書】											
磯谷孝『ロシア語作文教程』(三省堂、1973年) 適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											



## スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

---

### [参考書等]

(参考書)

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎 『ロシア語作文の基礎(第二版)』(白水社、1980年)

### [授業外学修(予習・復習)等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって毎回の配布プリントを熟読し、欠かさず和文露訳の予習課題に取り組むことが求められる。

### (その他(オフィスアワー等))

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系55

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下の文書をテキストとする予定である。											
(1833) [ゲルツェン「コペルニクス											
の太陽系の分析的解明」]											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション											
第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系56

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
【授業の概要・目的】											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
【到達目標】											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、以下の文書をテキストとする予定である。											
(1833) [ゲルツェン「コペルニクス の太陽系の分析的解明」]											
受講に際しては、イントロダクションで前期読了分の要約等をおこない、 後期のみ受講者にも支障がないよう配慮する。											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更している可能性もある。 その場合は初回授業までにPandA等で告知する。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----											

## スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

### [教科書]

使用しない  
プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、火曜4限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系57

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学の短編を読む									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、現代作家ドミートリー・バーキンの短編『起源の国』を読んでいます。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。											
【到達目標】											
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN ロシア語文学の概要とその研究の基本文献について説明します。											
第2回～第14回 上記の短編を精読していきます。											
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
【教科書】											
テキストはプリントを配付します。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
【授業外学修(予習・復習)等】											
次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア文学の短編を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、現代を代表する作家リュドミラ・ウリツカヤの『ささやく祖父』と、ソ連初期の作家イサーク・バーベリの自伝的短編『半地下の部屋で』を講読します。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン 作家と講読作品の概要について説明します。</p> <p>第2回～14回 上記の短編を読んでいきます。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
【教科書】											
テキストはプリントを配付します。											
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----											

## スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

### [参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

### [授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

### (その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系59

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア語論文講読									
[授業の概要・目的]											
ロシア語の読解・運用能力を向上させ、合わせてロシア語による論文の作法・スタイル・表現などに習熟する目的で、人文社会系分野のロシア語学術論文の講読を行う。											
[到達目標]											
ロシア語の人文社会系分野の学術論文を辞書・参考書などを利用しながら読み、その内容を理解し、重要なポイントをまとめられるようになる。											
[授業計画と内容]											
各回とも授業担当教員の指定する論文につき、パートごとに担当を決め、輪読する形式とする。											
第1回～第5回 ロシア文化に関する論文を講読する 第6回～第10回 歴史学関連の論文を講読する 第11回～第15回 民族学・文化人類学関連の論文を講読する											
[履修要件]											
ロシア語の基本文法を習得済みであること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点50%、期末レポート50%で評価する。											
[教科書]											
使用しない 教材となる論文をプリントで配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 各自必要な辞書等を持参・利用すること。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
当該回に読み進めるパートについて、あらかじめ辞書等を用いて一通り目を通し、内容を理解し、翻訳ができるようにしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先 obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



## 西洋文化学系60

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小山 哲			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ポーランド書講読									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。</li> <li>・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
この授業では、次の本を講読する。											
Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.											
本書はポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題を取りあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点についての理解を深めることを目指す。											
第1回 オリエンテーション 第2～14回 訳読と解説 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。											
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----											

## スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

### [教科書]

授業でテキストを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

- ・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
- ・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておく、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

### (その他(オフィスアワー等))

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系61

科目ナンバリング		U-LET16 33262 PJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(外国語実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Svetlana , Vinogradova			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	ロシア語
題目		ロシア語実習									
【授業の概要・目的】											
話すこと、書くことの両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指します。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につけ、実際に使いこなせるようになることを目標とします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の正しい発音を身につけ、またその聴き取り能力を身につける。2) 基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につける。3) 日常的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につける。4) 日常生活に必要な書かれた文章をすばやく理解し、自分でも作成する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
文法の授業で習ったことを、ロシア語を母語とする教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身につけていくことを目指します。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進めます。それぞれのテーマはロシアにおける実際の生活の場を想定したテキストとそれを発展させる対話、さらに練習問題からなります。一定のテーマによって文章を書く訓練も行います。											
第1回～第2回 ロシア語の正しい発音を身につけます。 第3回～第4回 ロシア語の聴き取りの能力を身につけます。 第5回～第15回 日常の生活におけるコミュニケーション能力を身につけます。日常の生活を題材とする書かれたテキストを読んで理解し、また自分でそのような文章を書く訓練をします。その際、テキストの内容について質疑応答をし、またテキストの内容を要約するといった訓練を通して、ロシア語の力を確実に身につけることを目指します。											
【履修要件】											
ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加状況20%、課題の提出状況30%、学期末の試験50%で評価します。											
【教科書】											
授業時にプリントの形で配付します。											
【参考書等】											
(参考書) 必要に応じて映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を補助教材として用います。											
スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)へ続く											

スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)

-----

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回の授業で出される課題をきちんと行ってください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33262 PJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(外国語実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Svetlana , Vinogradova			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	ロシア語
題目		ロシア語実習									
【授業の概要・目的】											
話すこと、書くことの両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指します。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につけ、実際に使いこなせるようになることを目標とします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の正しい発音を身につけ、またその聴き取り能力を身につける。2) 基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につける。3) 知的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につける。4) 複雑な、また知的な内容の文章を理解し、自分でも作成する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
文法の授業で習ったことを、ロシア語を母語とする教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身につけていくことを目指します。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進めます。教材とするテキストは、それぞれの学生が興味を持つ分野を考慮にいれ、たとえば文学作品、文化に関するもの、ロシアの歴史に関するものといった形で選びます。日常的会話の場面だけでなく、知的な対話の場面を想定した訓練や一定のテーマによって文章を書く訓練も行います。											
第1回～第2回 ロシア語の正しい発音を身につける。 第3回～第4回 ロシア語の聴き取りの能力を身につける。 第5回～第14回 学術的・知的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につけます。知的な内容の書かれたテキストを材料に、それを自由に理解し、また自分でそのような文章を書く訓練をします。その際、テキストの内容について質疑応答をし、テキストの内容を要約する、といった訓練を通して、ロシア語の力を確実に身につけることを目指します。また文法の知識を復習し、複雑な構文を実際に使いこなせるように身につけます。 第15回 試験。 第16回 フィードバック。											
【履修要件】											
ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。前期の授業から継続して出席することが望ましいが、絶対的条件とはしません。											
スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)へ続く											

スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業への参加状況20%、課題の提出状況30%、学期末の試験50%で評価します。

**[教科書]**

授業時にプリントの形で配付します。

**[参考書等]**

(参考書)

必要に応じて映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を補助教材として用います。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回の授業で与えられる課題を、きちんと行ってください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系63

科目ナンバリング		U-LET49 19661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【1週】</li> <li>2．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】</li> <li>3．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】</li> <li>4．ここまでの内容の確認と練習【1週】</li> <li>5．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】</li> <li>6．名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】</li> <li>7．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】</li> <li>8．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】</li> <li>9．名詞の単数複数対格、動詞の第1変化（-m,-sz型）【1週】</li> <li>10．動詞の第2変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】</li> <li>11．動詞の第3変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】</li> <li>12．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】</li> <li>13．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】</li> <li>14．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15．定期試験【1週】</li> <li>16．フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											

## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス+ ポーランド語』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET49 19662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】</li> <li>2．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】</li> <li>3．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】</li> <li>4．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】</li> <li>5．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】</li> <li>6．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】</li> <li>7．関係代名詞ktoryの用法【1週】</li> <li>8．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】</li> <li>9．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】</li> <li>10．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】</li> <li>11．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】</li> <li>12．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】</li> <li>13．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】</li> <li>14．ポーランドの文化に触れる【1週】</li> <li>15．定期試験【1週】</li> <li>16．フィードバック【1週】</li> </ol>											
【履修要件】											
前期のポーランド語（初級I）の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											

## ポーランド語（初級I）(2)

### [成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

### [教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

### [参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系65

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語(中級II)(語学) Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級II									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験(筆記)(90%)での評価となります。授業へのぞむ姿勢(10%)も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っただけ決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
(参考書)											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正[編]『ポーランド語辞典』(白水社)ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語(中級II)(語学)(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系66

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っただけ決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [ 編 ] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業中に指示します。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系67

科目ナンバリング		U-LET49 19646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語(初級)(語学) Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客様が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ロシア語（初級）(語学)(2)

---

**[参考書等]**

（参考書）  
開講時および授業中に紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET49 19647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法  その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相  文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）  第15回 まとめ  フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）(2)

**[教科書]**

プリントを配付します。

**[参考書等]**

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツの動物文学									
【授業の概要・目的】											
<p>前近代の文学に動物が登場するとき、それは人間のメタファーとして何らかの寓意を表現するか、象徴的な意味合いを帯びたモチーフとして働くか、いずれかのケースが多く、現実の動物そのものに関心が向くことは稀だった。しかし近代に入り、特に19世紀のリアリズムの時代以降、リアルな動物が描かれることが増えていく。この動きは、家畜としての動物や狩猟の対象になる動物の苦痛が問題化され、いわゆる「動物の権利」が唱えられ、動物愛護運動や菜食主義運動が盛んになっていく過程と連動していた。そこでは、「他者」としての動物の視点から人間の存在を相対化し、批判的に捉える人間中心主義批判の文学が数多く生み出された。この授業では、以上のような流れの中で具体的にどのような動物がドイツ文学に描かれてきたかを見ていく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドイツ文学に描かれる「動物」の姿の多様性を知り、それぞれの描写の文化的文脈を把握できるようになる</li> <li>2. 人間と動物の関係について考えを深める</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>前半は講義形式で授業を進める。動物が描かれているいくつかのテキストを取り上げ、精読を実演する。後半は受講者に同様の手順で自分の好きなテキストについて発表してもらう。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 聖書と寓話の中の動物  第2回 ゲーテ『ライネケ狐』  第3回 グリム童話に描かれた動物たち  第4回 エッセンバッハ『クランバンブリ』  第5回 ボンゼルス『みつばちマーヤの冒険』  第6回 ザルテン『バンビ』  第7回 ケストナー『動物会議』  第8～14回 受講者による発表  第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で扱ったものに限らず、できるだけ多くの文学作品を実際に手に取って読んでみてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系70

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五感とドイツ文学									
【授業の概要・目的】											
この授業では、五感のモチーフが、ドイツ文学のなかでどのような役割をはたしてきたかを考察する。文学が、視覚や聴覚だけではなく、五感のすべてと密接にかかわっていることを、具体的な作品にそくして検証してみたい。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ文学の作家や作品にかんする知識と理解を深める。</li> <li>・五感と文学とのかかわりにかんする知識と理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>各回のテーマは次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 彫刻と文学</li> <li>3 ピグマリオンの変貌</li> <li>4 視覚メディアと文学</li> <li>5 絵画と文学</li> <li>6 聴くことの力</li> <li>7 19世紀の音楽家小説</li> <li>8 20世紀の音楽家小説</li> <li>9 嗅覚と文学</li> <li>10 食と文学</li> <li>11 りんごの文学史</li> <li>12 建築と文学</li> <li>13 舞踏と文学</li> <li>14 五感の統合</li> <li>15 おわりに</li> </ol>											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
授業時のコメントペーパー（50％）と期末レポート（50％）によって評価する。期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
【教科書】											
プリント配布。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系71

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		一般言語学・ゲルマン語学 入門									
[授業の概要・目的]											
研究発表（ゼミ形式）による。ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。											
[到達目標]											
今日の言語学の手法と併せて、言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。											
[授業計画と内容]											
言語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論などの領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。											
第1回～第10回 研究発表（ゼミ形式）院生による。 第11回～第13回 研究発表（ゼミ形式）学部生による。 第14回～第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
主に発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』（現代書館） 河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材に関し、授業の前後（予習・復習）に課題を課し、授業時に発表できる準備をしてもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系72

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Religion und Literatur (I)									
【授業の概要・目的】											
Religion und Literatur (I): In diesem Kurs sprechen wir anhand von Texten aus verschiedenen Gattungen und mehreren Jahrhunderten über das Verhältnis von Religion und Literatur in der westlichen, insbesondere der deutschen Kultur. Im ersten Teil des Kurses werden Texte von den Anfängen der deutschen Literatur bis zum 18. Jahrhundert behandelt.											
【到達目標】											
Religion und Literatur sind in der westlichen Kultur eine so enge Symbiose eingegangen, dass man viele Werke der deutschen Literatur ohne Grundkenntnisse der christlichen Religionsgeschichte kaum adäquat verstehen kann. In diesem Kurs sollen sich die Studenten die nötigen Grundkenntnisse aneignen und lernen, welchen Einfluss religiöses Gedankengut auf die Literatur hatte sowie welchen Zwecken es in literarischen Werken diene.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Werke wichtiger Autoren einer Epoche vorgestellt und vor dem religionsgeschichtlichen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1.-2. Woche: Einführung in die christliche Bibel. 3.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Textbeispiele verschiedener literarischer Epochen (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											



## ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

### [参考書等]

#### (参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

### [授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

### (その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: [dtrauden@gmail.com](mailto:dtrauden@gmail.com)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系73

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Religion und Literatur (II)									
【授業の概要・目的】											
Religion und Literatur (II): In diesem Kurs sprechen wir anhand von Texten aus verschiedenen Gattungen und zweier Jahrhunderte über das Verhältnis von Religion und Literatur in der westlichen, insbesondere der deutschen Kultur. Im zweiten Teil des Kurses werden Texte des 19. und 20. Jahrhunderts behandelt.											
【到達目標】											
Religion und Literatur sind in der westlichen Kultur eine so enge Symbiose eingegangen, dass man viele Werke der deutschen Literatur ohne Grundkenntnisse der christlichen Religionsgeschichte kaum adäquat verstehen kann. In diesem Kurs sollen sich die Studenten die nötigen Grundkenntnisse aneignen und lernen, welchen Einfluss religiöses Gedankengut auf die Literatur hatte sowie welchen Zwecken es in literarischen Werken diene.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Werke wichtiger Autoren einer Epoche vorgestellt und vor dem religionsgeschichtlichen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1. Woche: Allgemeine Einführung in das Thema des Kurses. 2.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Textbeispiele verschiedener literarischer Epochen (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

## ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

### [参考書等]

#### (参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

### [授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

### (その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: [dtrauden@gmail.com](mailto:dtrauden@gmail.com)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系74

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 3回：小節線が可能にしたもの（2021年度後期の復習） 4回：音楽原理としての「ショック」と近代 5回：巨大音響建築に取り憑かれた世紀（ベルリオーズからマーラーに至る管弦楽曲） 6 - 8回：ホール建築とホール照明の歴史 9回：ハイデガーのGestell概念と「指揮者」への盲従 10回：足踏みする時間と第一次大戦後のストラヴィンスキーとテクノ 11 - 12回：「音楽の散文」と静止した時間とワーグナー 13 - 15回：反復の原理とラヴェル『ボレロ』とレヴィストロース											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系75

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識 2									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 2回：前期の要約 3 - 4回：「遅刻」としての自由 シンコペーションとレイドバックとジャズ 5回：身体をマシンにすれば自由になる モダンジャズとポリリズムについて 6回：音楽は「点」に分解できるか シュトックハウゼンと戦後セリー音楽 7 - 9回：すべては波動だ？ 電子音楽の原理 10 - 11回：電子音楽は「楽譜・解釈・作品」の概念をどう変えたか 12回：ジョン・ケージと非決定論と賭博 13回：「終わらない時間」をどう音楽化する？ サティからマックス・リヒターまで 14回：同上 アンビエント・ミュージックの功罪 15回：テレパシー音楽は「作品」たりうるか？ シュトックハウゼンの直観音楽とフルクサス											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 岡田暁生 『西洋音楽史』（中公新書）											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系76

科目ナンバリング		U-LET17 33341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		世界文学とドイツ文学									
[授業の概要・目的]											
ゲーテが提唱した「世界文学」の概念は、これまで文学という制度を成り立たせるうえで重要な役割を担ってきた。この概念は近年、再びアクチュアリティを獲得している。国民国家の枠内では完結しない、文化と文化の越境的な相互作用の重要性が、ますます注目されるようになってきているからである。この授業では、この「世界文学」の概念からドイツ文学がどのように捉え直されるのかという問題意識にもとづき、関連する研究文献を読んでいく。											
[到達目標]											
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。											
第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキストの輪読と討論 第15回 まとめ											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



西洋文化学系77

科目ナンバリング		U-LET17 33341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		世界文学とドイツ文学									
[授業の概要・目的]											
<p>ゲーテが提唱した「世界文学」の概念は、これまで文学という制度を成り立たせるうえで重要な役割を担ってきた。この概念は近年、再びアクチュアリティを獲得している。国民国家の枠内では完結しない、文化と文化の越境的な相互作用の重要性が、ますます注目されるようになってきているからである。この授業では、この「世界文学」の概念からドイツ文学がどのように捉え直されるのかという問題意識にもとづき、関連する研究文献を読んでいく。</p>											
[到達目標]											
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文または作品を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。</p> <p>第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価。欠席5回で不可とする。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系78

科目ナンバリング		U-LET17 33343 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Joseph von Eichendorff: Das Marmorbild (1)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、後期ロマン主義の作家アイヒェンドルフの小説『大理石像』（1826）を読む。この作品は、イタリアの町ルッカを舞台にして、主人公の若者フローリオが、詩人フォルトゥナートの導きによって、ヴィーナスの誘惑を逃れ、清純な少女ピアンカと結ばれる物語である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた文学作品の読解力を身につける。</li> <li>・アイヒェンドルフの文学世界に親しむ。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 はじめに： アイヒェンドルフの生涯と作品について解説する。</p> <p>第2回～第14回 テキスト講読： 作品の前半部を精読する。</p> <p>第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>											
[履修要件]											
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的な参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系79

科目ナンバリング		U-LET17 33343 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Joseph von Eichendorff: Das Marmorbild (2)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、後期ロマン主義の作家アイヒェンドルフの小説『大理石像』（1826）を読む。この作品は、イタリアの町ルッカを舞台にして、主人公の若者フローリオが、詩人フォルトゥナートの導きによって、ヴィーナスの誘惑を逃れ、清純な少女ピアンカと結ばれる物語である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた文学作品の読解力を身につける。</li> <li>・アイヒェンドルフの文学世界に親しむ。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回～第14回 テクスト講読： 作品の後半部を精読する。 第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。											
[履修要件]											
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系80

科目ナンバリング		U-LET17 33345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(1)									
【授業の概要・目的】											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。</li> <li>・研究発表とディスカッションの技法を身につける。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回 はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。											
第2回 博士後期課程1回生による研究発表： 前年度に提出した修士論文の内容の報告。											
第3回～第6回 修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。											
第7回～第10回 博士後期課程2・3回生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第11回～第12回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
第13回～第14回 学部4回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告。											
第15回 まとめ： 前期の授業の総括。											
【履修要件】											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習III)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅲ)(2)

**[教科書]**

発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

発表者が、必要に応じて紹介する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系81

科目ナンバリング		U-LET17 33345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(2)									
[授業の概要・目的]											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。</li> <li>・研究発表とディスカッションの技法を身につける。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回～第2回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。											
第3回～第4回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。											
第5回～第9回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第10回～第13回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
第14回～第15回 学部3回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告											
[履修要件]											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系82

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 大輔			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		フランツ・カフカ『歌姫ヨゼフィーネ、あるいはネズミ族』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>フランツ・カフカ(1883 - 1924)の最晩年の動物物語『歌姫ヨゼフィーネ、あるいはネズミ族』(1924)をドイツ語で読みます。</p> <p>フランツ・カフカは多くの動物物語を書き残しましたが、『歌姫ヨゼフィーネ、あるいはネズミ族』もその一つです。この物語では、一匹のネズミが「ヨゼフィーネ」という名の、ネズミの歌姫について語り聞かせます。</p> <p>カフカの他の物語同様、この物語も読者を様々な解釈へと誘いますが、まずはドイツ語の基本的な文法を確認しつつ、叙述表現に注意しながら読み進めます。</p> <p>そのうえで、カフカのドイツ語表現と物語内容の関係性等についても考察したいと思います。</p>											
【到達目標】											
ドイツ語の基礎的な読解能力を身につけること											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入(授業の進め方、作家および作品について)</p> <p>第2~14回 『歌姫ヨゼフィーネ、あるいはネズミ族』を読む</p> <p>第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
ドイツ語初級の授業を履修済みであるか、あるいは同程度の語学力を有すること											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(予習の有無、授業への積極的参加)によって評価する											
【教科書】											
プリントを配布する											
----- ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

輪読形式で授業を進めるため、毎回予習のうえ出席すること

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系83

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 大輔			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		フランツ・カフカ『アカデミーへの報告』を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>フランツ・カフカ(1883 - 1924)の中期の動物物語『アカデミーへの報告』(1917)をドイツ語で読みます。</p> <p>この作品は語り手である一匹の猿が、自身が人間になった過程を語る自伝物語です。カフカの有名な作品である『変身』は、元々は人間であった動物(虫)の物語ですが『アカデミーへの報告』はその鏡写しの作品ともいえます。</p> <p>この授業では、まずドイツ語の基本的な文法を確認しつつテキストを精読します。そのうえで、主人公が報告に用いる語りの視点「私」の機能や、彼が語る内容について検討し、自らが「猿であることをやめた」と語る主人公の自己省察の妥当性などについて考えてみたいと思います。</p>											
[到達目標]											
ドイツ語の基礎的な読解能力を身につけること											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 導入(授業の進め方、作家および作品について)</p> <p>第2~14回 『アカデミーへの報告』を読む</p> <p>第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
ドイツ語初級の授業を履修済みであるか、あるいは同程度の語学力を有すること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(予習の有無、授業への積極的参加)によって評価する											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
輪読形式で授業を進めるため、毎回予習のうえ出席すること											
(その他(オフィスアワー等))											
担当教員への連絡はメールでお願いします(オフィスアワー参照)。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系84

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 飯島 雄太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ペーター・ハントケ『幸せではないが、もういい』を読む。									
【授業の概要・目的】											
<p>ペーター・ハントケの中編小説『幸せではないが、もういい』（1972）をドイツ語で読みます。</p> <p>ペーター・ハントケは戦後のドイツ語圏を代表する作家です。2019年にはノーベル賞を受賞するなど、国際的にも揺るぎない評価を得ています。『幸せではないが、もういい』はハントケの全キャリアを代表する傑作として名高い作品です。自殺したハントケの母の生涯が、比較的平易なドイツ語によって綴られています。</p> <p>本授業ではドイツ語力の涵養を図るのはもちろんのこと、ドイツ語のニュアンスを日本語で表現するにはどうすればよいのか、適宜考察を加えながら読んでいきたいと思えます。</p>											
【到達目標】											
<p>1、ドイツ語の基本的な読解能力を身につけること。</p> <p>2、ドイツ語のテキストを日本語に翻訳するコツを身につけること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ドイツ語のテキストを輪読形式で読み進める。</p> <p>第1回 授業の進め方、ハントケの生涯と作品について            第2~14回 『幸せではないが、もういい』を読む            第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
ドイツ語初級程度の語学力を有することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（予習の有無、授業への積極的参加、ドイツ語読解力が向上したかどうか）によって評価します。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

輪読形式で進めますので、必ず予習して出席してください。予習範囲は授業中に指定します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系85

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ゲーテ『メールヒェン』を読む									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ゲーテの粹物語集『ドイツ避難民閑談集』（1795）の末尾を飾る『メールヒェン』を読む。さまざまな象徴にみちたこの作品をどのように読み解くかについても、考えてみたい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツ語で書かれた文学作品の基礎的な読解力を身につける。</li> <li>・ゲーテの文学世界に親しむ。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 はじめに： ゲーテの生涯と作品について解説する。 第2～14回 テキスト講読： 作品を最初から精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。											
[履修要件]											
ドイツ語初級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的な参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET17 23362 PJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	ドイツ語
題目		Deutsche Kinderbücher									
【授業の概要・目的】											
Deutsche Kinderbücher: Thema dieses Kurses sind Erzählungen und Auszüge aus Romanen für Kinder und Jugendliche vor allem aus dem 19. Jahrhundert. Wir lesen z.B. Texte von Heinrich Hoffmann und Wilhelm Busch. Dabei sprechen wir über die kulturhistorischen Grundlagen und die pädagogischen Ziele, die diesen Texten zu Grunde liegen.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen lernen, sich im Gespräch unter Verwendung einfacher Satzstrukturen frei zu äußern und ihre Meinung zu sagen.											
【授業計画と内容】											
Während des Unterrichts müssen die Teilnehmer die Inhalte der Texte in ihren eigenen Worten zusammenfassen und sagen, was sie darüber denken. Der Lehrer korrigiert die Studenten und gibt grammatische, stilistische sowie kulturhistorische Hinweise. 1. Woche: Einführung in Inhalte und Methode des Unterrichts. 2.-14. Woche: Gemeinsame Diskussion der ausgewählten Texte (s. o.). 15. Woche: Test 16. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung der am häufigsten aufgetretenen Fehler und Erläuterungen zu ihrer Vermeidung											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen Vorkenntnisse im deutschen Wortschatz und der deutschen Grammatik im Umfang etwa eines Studienjahres. Es wird erwartet, dass sie die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (75 %) sowie eines Tests am Ende des Semesters (25 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く											

## ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

### [参考書等]

#### (参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen und im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen.

### [授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

### (その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: [dtrauden@gmail.com](mailto:dtrauden@gmail.com)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 23362 PJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	ドイツ語
題目		Kästner, Ende & Co									
【授業の概要・目的】											
Kästner, Ende & Co.: Thema dieses Kurses sind Erzählungen und Auszüge aus Romanen für Kinder und Jugendliche vor allem aus dem 20. Jahrhundert. Wir lesen unter anderem Texte von Erich Kästner, Michael Ende und Otfried Preußler. Dabei sprechen wir über die kulturhistorischen Grundlagen und die pädagogischen Ziele, die diesen Texten zu Grunde liegen.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen lernen, sich im Gespräch unter Verwendung einfacher Satzstrukturen frei zu äußern und ihre Meinung zu sagen.											
【授業計画と内容】											
Während des Unterrichts müssen die Teilnehmer die Inhalte der Texte in ihren eigenen Worten zusammenfassen und sagen, was sie darüber denken. Der Lehrer korrigiert die Studenten und gibt grammatische, stilistische sowie kulturhistorische Hinweise. 1. Woche: Einführung in Inhalte und Methode des Unterrichts. 2.-14. Woche: Gemeinsame Diskussion der ausgewählten Texte (s. o.). 15. Woche: Test 16. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung der am häufigsten aufgetretenen Fehler und Erläuterungen zu ihrer Vermeidung											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen Vorkenntnisse im deutschen Wortschatz und der deutschen Grammatik im Umfang etwa eines Studienjahres. Es wird erwartet, dass sie die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (75%) sowie eines Tests am Ende des Semesters (25 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

**[参考書等]**

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen und im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen.

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

**(その他(オフィスアワー等))**

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: [dtrauden@gmail.com](mailto:dtrauden@gmail.com)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		The Sidney Psalter研究									
【授業の概要・目的】											
Sir Philip Sidney、Mary Sidney (Mary Herbert, Countess of Pembroke)の兄妹は共にエリザベス朝を代表する詩人であるが、旧約聖書の詩篇を英語の韻文に訳している。本講義では、英文学作品としてのSidney兄妹訳詩篇数篇の講読とこれらに関する小論文執筆を通じて、その特徴をイングランド宗教改革、エリザベス朝文学という歴史的な文脈の中で理解することを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期近代の詩の読み方を身につける。</li> <li>・授業で扱う詩に描かれた当時の社会と英文学の関係を理解する。</li> <li>・英詩に関して論文のテーマを見つけ、小論文を作成できる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
授業では各受講者に予め割り振った作品について以下の2種類の作業を繰り返す。											
a)精読											
b)英訳(等)の聖書や、他の英詩(等)との比較検討を通じて、各々をイングランド宗教改革、また、エリザベス朝文学の中に位置付けるレポートの口頭発表と討論											
受講者は担当作品について上記2種類を担当すると共に、それに基づく小論文を提出することが求められる。											
第1回 イン트로ダクション 以後の進め方を説明し、担当する作品を決定するので受講希望者は「必ず」出席すること											
第2回 詩篇 1 & 3 講読											
第3回 詩篇 23 & 43 講読											
第4回 詩篇 1 & 3 口頭レポートと討論											
第5回 詩篇 23 & 43 口頭レポートと討論											
第6回 詩篇 45 講読											
第7回 詩篇 45 口頭レポートと討論											
第8回 詩篇 103 講読											
第9回 詩篇 103 口頭レポートと討論											
第10回 詩篇 120 - 123 講読											
第11回 詩篇 120 - 123 口頭レポートと討論											
第12回 詩篇 126 & 137 講読											
第13回 詩篇 126 & 137 口頭レポートと討論											
第14回 全体のまとめ											
第15回 フィードバック											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

口頭発表40%、その他授業への貢献10%、小論文（詳細については第1回に指示をする）50%

**【教科書】**

Sir Philip and Mary Sidney 『The Sidney Psalter』（Oxford UP, 2009）ISBN:9780199217939

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

扱う詩については、英英辞典などを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、レポート、小論文作成の準備を行うこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの伝記文学									
【授業の概要・目的】											
イギリス人は伝記好きな国民と言われる。確かに書店に行くと、さまざまな人物に関する伝記が多く置いてある。一方で、こうした伝統のなかに身を浸していた反動なのか、あるいは「伝えられる事実」というものに警戒心があったのか、みずからの伝記を書くことを禁じた作家に、George Orwell (1903-1950) がいる。本講義においては、そのような禁止にもかかわらず、数多くの伝記が書かれた著者が1930年代に残したルポルタージュ作品や体験報告のエッセイを読解した後で、歴代の伝記作家たちの伝記を検証する。そして、それぞれの伝記作家がどのように作品に描かれた記述を「事実」/「虚構」として用い、オーウェル個人の生を描こうとしたかを通時的に検証し、その変遷を批判的に読解する。											
【到達目標】											
伝記文学に関する基本的な知識を獲得するとともに、それを発展的に生かす能力を養う。また、伝記文学を批評的に読解するとは具体的に何をすることなのか、考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
Class 1 Introduction: イギリスと伝記文学について Class 2 George Orwell (1903-1950) に関する伝記の系譜 Class 3 The Hanging (1931); Shooting an Elephant (1933) Class 4 Down and Out in Paris and London (1933) Class 5 Down and Out in Paris and London (1933) Class 6 Road to Piers (1937) Class 7 Road to Piers (1937) Class 8 Marrakech (1939) Class 9 Christopher Hollis, A Study of George Orwell: The Man and His Works (1956) Class 10 Stansky and Abraham, The Unknown Orwell (1972) Class 11 Bernard Crick, George Orwell: A Life (1980) Class 12 Michael Shelden, Orwell: The Authorized Biography (1972) Class 13 Jeffrey Meyers, Orwell: Wintry Conscience of a Generation (2000) Class 14 D. J. Taylor, Orwell: The Life (2003); Gordon Bowker, George Orwell (2003) Class 15 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況（50％）と学期末レポート（50％）によって評価する。

### [教科書]

必要に応じて資料を配布する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13：00～14：30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系90

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
[授業の概要・目的]											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。</li> <li>・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>授業計画（各回のテーマ）</p> <p>第1回：イントロダクション～異文化理解と翻訳</p> <p>第2回：翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</p> <p>第3回：コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</p> <p>第4回：コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</p> <p>第5回：英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</p> <p>第6回：英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</p> <p>第7回：異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</p> <p>第8回：異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</p> <p>第9回：異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</p> <p>第10回：異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</p> <p>第11回：言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</p> <p>第12回：言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</p> <p>第13回：翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能性を探る</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

第14回：翻訳の限界と可能性（2）：ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

第15回：まとめとディスカッション：翻訳にまつわる諸問題について、留学生や外国人教員を交えて受講者全員でディスカッションを行う

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末の翻訳課題（40％）を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』（Penguin）ISBN: 978-0241954300

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、こちらで指定した英文テキスト（短めのもの）を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメール等で提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

\* 本年度の授業で取り上げるテキストは、大半が一昨年度（2020年度）後期に扱ったものと同じになりますのでご注意ください。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系91

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代アメリカ文学における自然とヒト Native Americanの文学を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、主に現代アメリカ文学、とりわけNative Americanの作家による作品を中心に、ヒトと自然の共生について考察する。また、Native Americanの口承文学、異人種間の交流の歴史を学び、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する</li> <li>・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>注意：テキストはあくまでも暫定的なものである。必ず初回授業にて配布するシラバスを参照すること</p> <p>第1回：【序論】Native Americanの文学史          第2回：Leslie Marmon Silko, “Yellow Woman” おける伝承とジェンダー          第3回：Leslie Marmon Silko, “Uncle Tony's Goat”における動物とヒト          第4回：Leslie Marmon Silko, “The Man to Send Rain Clouds”における祈りと天候          第5回：Thomas King, “Borders”における国境          第6回：Gloria Anzaldù, Borderlands/La Fronteraにおける国境とセクシャリティ1          第7回：Gloria Anzaldù, Borderlands/La Fronteraにおける国境とセクシャリティ2          第8回：【異文化体験についてのプレゼンテーション】前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べる          第9回：映画『すべての美しい馬』におけるカウボーイの再定義          第10回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性1          第11回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性2          第12回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性3          第13回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性4          第14回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性5          第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代アメリカ文学を包括的に理解する</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

基本的にテキストはウェブにアップロードする  
すでにネット上で読むことができるものは、その旨指示をする

### 【授業外学修（予習・復習）等】

事前に扱う作品を読んでくること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。</li> <li>・ 言語事象に対する観察力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：認知言語学の理論的概要</p> <p>第3回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化（導入）</p> <p>第4回：言語学と心理学の関わり (1)：図と地の分化（考察）</p> <p>第5回：言語学と心理学の関わり (2)：視線と主観性（導入）</p> <p>第6回：言語学と心理学の関わり (2)：視線と主観性（考察）</p> <p>第7回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー（導入）</p> <p>第8回：カテゴリー化と言語 (1)：プロトタイプ・カテゴリー（考察）</p> <p>第9回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ（導入）</p> <p>第10回：カテゴリー化と言語 (2)：抽象化とスキーマ（考察）</p> <p>第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入）</p> <p>第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察）</p> <p>第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー</p> <p>第14回：文法構文と意味</p> <p>第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート (70%)、授業への取り組みの状況 (30%) から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系93

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston &amp; Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
第1回 語法文法研究とは 第2回 英文のデータベース構築 第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書)											
Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の											
英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 ( Cambridge University Press, 2002 )

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 ( Pearson Education, 1999 )

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系94

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston &amp; Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
第1回 語法文法研究とは 第2回 英文のデータベース構築 第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の											
英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 ( Cambridge University Press, 2002 )

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 ( Pearson Education, 1999 )

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

### (その他 (オフィスアワー等) )

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エイドリアン・リッチの中期詩集を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アメリカの詩人エイドリアン・リッチ（1929-2012）はハーヴァード大学ラドクリフ・カレッジ在学中の1951年、詩集A Change of Worldでデビューした。初期作品のスタイルは内容面においても形式面においても抑制的な傾向がみられるが、第3詩集The Snapshots of a Daughter-in-Law（1963）から、自身の体験を反映したものへと変化をみせる。リッチは60年代から公民権運動や反戦運動、フェミニズム運動に積極的にに関わり、アカデミズムの外からメッセージを発し続けた詩人であり、文学史においては力強い声を持つ詩人と位置づけられている。本授業では、リッチの思想と詩作がもっとも有機的につながり、かつスタイルが劇的に変化した中期の3作品The Will to Change（1971）とDiving into the Wreck（1973）、The Dream of a Common Language（1978）から代表的な詩作品を選び、読解と翻訳を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>リッチは文学の枠を超え、フェミニズムの批評家・運動家としても重要な人物である。リッチが提示した「強制的異性愛」や「レズビアン連続体」といった概念、一人称複数“ We ”をめぐる連帯の限界と可能性をめぐる批判は、今日の問題に接続されるだろう。本授業では、リッチの作品を読むことで、読解力だけではなく、第2波フェミニズム運動の基本的事項を習得する。</p> <p>リッチの作品は彼女の思想的な枠組み（もしくは女性というジェンダーやリッチのセクシュアリティ）から論じられる傾向がある。リッチの作品の「詩的さ」というべきものが、このような批評の言説といかに連動し、テキストの意味を産出してきたか考えることで、作品と批評の相互関係についての視座を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
1.Planetarium 2.Planetarium 3.The Photograph of the Unmade Bed 4.The Photograph of the Unmade Bed 5.A Valediction Forbidding Mourning 6.A Valediction Forbidding Mourning 7.Trying to Talk with a Man 8.Trying to Talk with a Man 9.After Twenty years 10.After Twenty years 11.Power 12.Power 13.The Lioness 14.The Lioness 15.Review											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

**【教科書】**

使用しない  
初回授業でプリントを配布する。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

教員の連絡先は以下の通り。n\_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		19世紀アメリカ小説研究 Herman Melvilleの"Bartleby"を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>Herman Melville (1819-91) の短篇小説 “Bartleby, The Scrivener: A Story of Wall-street” (1853) および本作を扱った先行研究・批評を読む。毎回の授業では、作品にまつわる歴史的・政治社会的事象（作者の伝記や19世紀アメリカン・ルネサンスをめぐる文学史・文化史など）に関する講義もまじえながら、基本的には受講者による発表とディスカッションを中心に、課題範囲を演習形式で考察する。授業の前半では “Bartleby” のテキストおよびコンテキストを吟味し、後半では20世紀以降に書かれた “Bartleby” 論（英文）を粹形式で精読する。19世紀アメリカの先住民問題との関連で Melville を読み解いた Lucy Maddox の <i>Removals: Nineteenth-Century American Literature and the Politics of Indian Affairs</i> (1991) のほか、Gilles Deleuze の “Bartleby; or, The Formula” (1989) や Giorgio Agamben の “Bartleby, or On Contingency” (1993) といった現代思想における “Bartleby” への応答例、あるいは Jenny Odell の <i>How to Do Nothing</i> (2019) のような本作に注目したごく最近のメディア論を取り上げる予定。</p>											
【到達目標】											
<p>比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテキストを読み解く批評眼を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション  第2回 “Bartleby” (1)  第3回 “Bartleby” (2)  第4回 “Bartleby” (3)  第5回 “Bartleby” (4)  第6回 “Bartleby” (5)  第7回 “Bartleby” (6)  第8回 Maddox, “Writing and Silence: Melville” (1)  第9回 Maddox, “Writing and Silence: Melville” (2)  第10回 Deleuze, “Bartleby; or, The Formula” (1)  第11回 Deleuze, “Bartleby; or, The Formula” (2)  第12回 Agamben, “Bartleby, or On Contingency” (1)  第13回 Agamben, “Bartleby, or On Contingency” (2)  第14回 Odell, <i>How to Do Nothing</i>  第15回 授業のまとめ・フィードバック</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

**【教科書】**

プリントを配布する。

**【参考書等】**

（参考書）

Peter Barry 『Beginning theory: An introduction to literary and cultural theory』（Manchester UP, 2017）  
三原芳秋・渡邊英理・鵜戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会い  
なおす』（フィルムアート社、2020）

**【授業外学修（予習・復習）等】**

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学 文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov短編研究									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)の短編を精読する。一つ一つのことばと詳細を丁寧に拾い上げながら読むことによって、凝縮された短編の世界を隅々まで探索する。Nabokovの短編の中から、とりわけ音楽にまつわる作品を選び出し、精読することによって、「音楽嫌い」を公言したNabokovの、音楽に対する反応について考察する。											
【到達目標】											
比較的難解な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 "Music"輪読											
第3回 "Music"輪読											
第4回 "Sounds"輪読											
第5回 "Sounds"輪読											
第6回 "Sounds"輪読											
第7回 "Sounds"輪読											
第8回 "Bachman"輪読											
第9回 "Bachman"輪読											
第10回 "Bachman"輪読											
第11回 "The Assistant Producer"輪読											
第12回 "The Assistant Producer"輪読											
第13回 "The Assistant Producer"輪読											
第14回 "The Assistant Producer"											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。  
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。  
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

### 【教科書】

使用しない  
取り上げる作品のテキストをpdfにして、授業までにアップロードします。

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

一回の授業で3、4ページぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。  
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系98

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 吉田 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳アンソロジーを編む									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、受講生が自ら選んだ未邦訳の英語短編小説を一人一作品日本語に翻訳し、クラスでアンソロジーを編纂します。最終的にはその過程をポートフォリオにまとめ、作業を自ら振り返り評価します。</p> <p>受講生は自分が選んだ短編を紹介し、翻訳にあたっての問題点について発表を行います。また、自分が選んだ作品とは別に、文学作品からの短い抜粋を翻訳する課題を毎週提出してもらいます。授業は受講生の発表と個々の作品の翻訳過程についてのグループワークショップ、そして毎週の課題の解題で進行します。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 英語短編小説を原文で読みその内容を的確に理解できる。  (2) 文法・語彙・文化背景について参考文献で調べることができる。  (3) 原文の味わいを反映した適切な日本語への翻訳過程を吟味できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 短編小説の探し方(1)・ポートフォリオについて  第2回 短編小説の探し方(2)・翻訳演習課題(1)  第3回 翻訳作業のための工具書類(1)・翻訳演習課題(2)  第4回 翻訳作業のための工具書類(2)・翻訳演習課題(3)  第5~13回 学生発表(1~9)・翻訳演習課題(4~12)  第14回 ポートフォリオ提出  第15回 ポートフォリオへのフィードバック・自己評価とふりかえり</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>到達目標の(1)~(3)の達成度について、以下の割合で評価する。</p> <p>課題と授業参加30%  発表20%  ポートフォリオ50%</p> <p>発表とポートフォリオについては授業で説明する。  創意工夫のあるポートフォリオはとりわけ高く評価したい</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する  
未邦訳の短編を探すに当たって、短編アンソロジーや文芸誌、雑誌などを各自入手してもらいます

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

初回授業で説明します

**(その他(オフィスアワー等))**

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系99

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ジョージ・エリオットを読む									
【授業の概要・目的】											
ジョージ・エリオットの小説は、英文学作品の中でも常に高い評価を受けてきた。本授業では、エリオットの代表作Adam BedeやMiddlemarch、さらに評論を取り上げながら、作家エリオットの想像力の働きと彼女が考えた文学の役割について多角的に考察する。											
【到達目標】											
丁寧な辞書を引ながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための基礎的な英語力、小説の技法の基礎知識を身につけている。 先行研究に言及しながら文学作品の読みどころを論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方の説明 George Eliotについて 第2回 Adam Bedeを読む(1) 第3回 Adam Bedeを読む(2) 第4回 Adam Bedeを読む(3) 第5回 Adam Bedeを読む(4) 第6回 George Eliotと美術 第7回 Middlemarchを読む(1) 第8回 Middlemarchを読む(2) 第9回 Middlemarchを読む(3) 第10回 Middlemarchを読む(4) 第11回 George Eliotと田舎の表象 第12回 "The Natural History of German Life"を読む 第13回 "How I Came to Write Fiction"を読む 第14回 先行研究の検証 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- 英語学英文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義) (2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：40%  
期末レポート：60%

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

毎週、次の授業で使用する資料を配布します。目を通して授業に出席してください。また、毎週コメントペーパーを提出してもらいます。

### （その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系100

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・ハーディ『ダーバヴィル家のテス』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ハーディの小説は、英文学作品の中でも常に高く評価されてきた。中でも代表作の一つ『ダーバヴィル家のテス』は、翻訳や映画で、日本でもよく知られた作品である。本授業では、作品執筆の背景や時代背景、これまでの先行研究で挙げられてきた作品の論点などを考慮にいれながらテキストを丁寧に読み解き、作品の読みどころと作家ハーディの想像力について考えることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>丁寧に辞書を引きながら、原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための基礎的な英語力、小説の技法の基礎知識を身につけている。 先行研究に言及しながら文学作品の読みどころを論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の進め方の説明 Thomas Hardyについて</p> <p>第2回 Phase the First, 1~5</p> <p>第3回 Phase the First, 6~11</p> <p>第4回 Phase the Second, 12~15</p> <p>第5回 Phase the Third, 16~19</p> <p>第6回 Phase the Third, 20~24</p> <p>第7回 Phase the Fourth, 25~29</p> <p>第8回 Phase the Fourth, 30~34</p> <p>第9回 Phase the Fifth, 35~40</p> <p>第10回 Phase the Fifth, 41~44</p> <p>第11回 Phase the Sixth, 45~49</p> <p>第12回 Phase the Sixth, 50~52</p> <p>第13回 Phase the Seventh, 53~59</p> <p>第14回 先行研究の検証</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（各回のコメントペーパー）：40%  
期末レポート：60%

**[教科書]**

Thomas Hardy 『Tess of the D'Urbervilles』 ( Norton, 1991 ) ISBN:978-0-393-95903-1 ( Edited by Scott Elledge )

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

**（その他（オフィスアワー等））**

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 1: Language and Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will introduce students to the core concepts and key debates within the discipline of sociolinguistics, which is concerned with the multitudinous ways in which language and society may influence one another. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
【到達目標】											
<p>This course will introduce students to the field of sociolinguistics by means of a series of class discussions touching on key questions and issues in the field, for example the matters of regional and social dialects and how social status can be reflected and reinforced through language. In terms of English language skills, the primary focus will be on the development of academic reading and writing skills. Students will also be able to expand their vocabulary range in order to discuss a variety of topics related to linguistics and gain a better understanding of the complex interrelationship between languages and the societies in which they are used.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for quizzes and for the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise          Week 2 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents)          Week 3 - Class discussion of Fromkin et al. (lexical and syntactic variation)          Week 4 - Class discussion of Fromkin et al. (standardisation of dialects)          Week 5 - Quiz, class discussion of Fromkin et al. (social dialects)          Week 6 - Class discussion of Fromkin et al. (gendered language)          Week 7 - Class discussion of Fromkin et al. (pidgins and creoles)          Week 8 - Test          Week 9 - Class discussion of Fromkin et al. (individual and social bilingualism)          Week 10 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents)          Week 11 - Class discussion of Fromkin et al. (accommodating dialectal differences)          Week 12 - Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (dialectal diversity)          Week 13 - Final essay due, Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (languages)</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 14 - Class presentations on essay research  
Week 15 - Class presentations on essay research

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Homework: 10%  
Quiz: 10%  
Test: 30%  
Essay: 40%  
Presentation: 10%

### 【教科書】

The instructor will provide all the necessary materials for this course, so there is no need for students to buy a textbook. However, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

### (その他(オフィスアワー等))

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at [mfhofmeyr@gmail.com](mailto:mfhofmeyr@gmail.com).

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 2: English in a Global Context									
[授業の概要・目的]											
<p>This course will introduce students to the notion of English as a global language and also to the academic debates surrounding the dominant role that the language has come to assume across a wide range of international arenas. Topics of discussion will include what it means to be a global language, the history of the spread and diversification of the English language across the world and the future prospects of English as a global language. Throughout the course, students will be encouraged to develop and share their own opinions about the role of English both in Japan and in the wider world today. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
[到達目標]											
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today and of the social, cultural, and historical contexts that have shaped its development over past centuries. Group discussions and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the substantial amount of reading required for each class will help to improve reading speed and to expand academic and practical vocabulary. Academic research and writing skills in particular will be further developed through an essay assignment.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Students will be given weekly reading assignments from the prescribed text to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for the class quiz and the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a class quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise          Week 2 - Class discussion of Crystal chapter 1 (What is a global language?)          Week 3 - Class discussion of Crystal chapter 1 (advantages and disadvantages of a global language)          Week 4 - Class discussion of Crystal chapter 2 (Kachru's three circles)          Week 5 - Quiz, class discussion of Crystal chapter 3 (English and the British Empire)          Week 6 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English and the globalisation of culture)          Week 7 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English in the media)</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 8 - Test

Week 9 - Class discussion of Crystal chapter 5 (English in the United States)

Week 10 - Class discussion of Crystal chapter 5 (Global “ Englishes ” )

Week 11 - Class discussion of Crystal chapter 5 (the future of English)

Week 12 - Class discussion on English in Japan (foreign language education in the school system)

Week 13 - Final essay due, Class discussion on English in Japan (the role of English in Japan)

Week 14 - Class presentations on essay research

Week 15 - Class presentations on essay research

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Homework: 10%

Quiz: 10%

Test: 30%

Essay: 40%

Presentation: 10%

### 【教科書】

Crystal, David 『English as a Global Language』 ( Cambridge University Press ) ISBN:1107611806 ( 2nd edition )

Note: Students should ensure that they have the full English edition of the text. There also exists an abridged Japanese-English bilingual edition. However, this bilingual edition does NOT contain all the necessary content for this course. In addition to purchasing the prescribed text, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at [mfhofmeyr@gmail.com](mailto:mfhofmeyr@gmail.com).

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		W.B.イエイツ初期の詩を読む: アイルランド文芸復興を背景に									
【授業の概要・目的】											
<p>アイルランド文芸復興とは、19世紀後半から20世紀前半にかけて起こった、グレート・ブリテンからの精神面での独立を試みた文学・文化運動である。W.B.イエイツ(1865-1939)はその立役者であり、アイルランド国民劇場を創立したことで知られている。本講義では、文芸復興について学ぶとともに、演劇活動を本格化させるに至るまでの初期のイエイツの詩を読み解く。</p> <p>授業の前半は、イエイツ初期の詩集Crossways(1889)、The Rose(1893)、The Wind among the Reeds(1899)所収の詩作品の訳の発表とディスカッションを行う。後半では、作品と関連する社会的・政治的・文化的事象等を教員が解説する。さらに、英詩を読むために必要な知識の導入や草稿との比較などを併せて行うことで、作品への多角的なアプローチを図る。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の精読と翻訳を通じて、詩を読む力を錬成する。</li> <li>2. 作品についての口頭発表やディスカッションを通じて、詩を論じる力を身に付ける。</li> <li>3. アイルランド文芸復興に関する知識を身に付け、社会的背景と関連させながら作品を考察することができる。</li> <li>4. 英詩を読解するために必要な知識を身に付ける。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション：アイルランド文芸復興について概要を説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 W.B.イエイツについて</p> <p>第3回 詩集Crossways所収作品の精読</p> <p>第4回 詩集Crossways所収作品の精読</p> <p>第5回 詩集Crossways所収作品の精読</p> <p>第6回 詩集The Rose所収作品の精読</p> <p>第7回 詩集The Rose所収作品の精読</p> <p>第8回 詩集The Rose所収作品の精読</p> <p>第9回 詩集The Rose所収作品の精読</p> <p>第10回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読</p> <p>第11回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読</p> <p>第12回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読</p> <p>第13回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読</p> <p>第14回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読、まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
授業計画は、状況によって変更することがあります。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

**[教科書]**

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回、一篇、あるいは二編の詩を扱う予定です。

担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。

担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。

**(その他(オフィスアワー等))**

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



西洋文化学系104

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		広島大学 人間社会科学研究所 教授 大地 真介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		William Faulknerの短編小説を読む									
【授業の概要・目的】											
アメリカのノーベル賞受賞作家William Faulknerの代表的短編小説“ A Rose for Emily ”と“ Dry September ”を精読することによってアメリカ文学の特質を学び、なおかつ英語の読解力を高めることが本授業の目的です。											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 . アメリカ文学を代表する作家の一人であるFaulknerの作品を熟読することにより、アメリカ文学の特質を理解する。</li> <li>2 . アメリカ文学の背景となるアメリカの文化（歴史・宗教・風俗習慣等）について学ぶ。</li> <li>3 . ノーベル賞作家Faulknerの磨き抜かれた文章を精読することにより、英語の読解力を高める。</li> <li>4 . 自らの解釈を論理的に表現する力を身につける。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>1 日目（第 1 ～ 3 回）：アメリカ文化・アメリカ文学の特質、Faulknerの略歴を説明。“ A Rose for Emily ”を読解。</p> <p>2 日目（第 4 ～ 7 回）：“ A Rose for Emily ”を読解。読了後、各自、同作品について見解を発表。</p> <p>3 日目（第 8 ～ 1 1 回）：“ Dry September ”を読解。</p> <p>4 日目（第 1 2 ～ 1 5 回）：“ Dry September ”を読解。読了後、各自、同作品について見解を発表。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
担当箇所の日本語訳（ 4 0 % ）、“ A Rose for Emily ”と“ Dry September ” についての見解発表（ 4 0 % ）、授業での質疑応答（ 2 0 % ）で総合的に評価する。											
【教科書】											
William Faulkner 『 A Rose for Emily and Other Stories 』（英宝社）ISBN:9784269020252											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

“ A Rose for Emily ” と “ Dry September ” を精読していきますが、事前に担当割の表をお送りするので、あらかじめ自分の担当箇所を和訳しておいてください。授業中にその場で訳すのではなく、事前にパソコンで日本語訳を作成してそれを授業中に読み上げてください(配布する必要はありません)。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡はメールで行います。私のメールアドレスは、ohchi@hiroshima-u.ac.jpです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Getting at constructions in World Englishes: An applied methods and theory seminar									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業は、客員教授のMarianne Hundt先生（チューリッヒ大学）が担当の予定です。COVID-19の感染状況等により来日ができなくなった場合には、内容や使用言語等が変更になる可能性があります。</p> <p>While the core grammar of standard and standardising World Englishes (WEs) is shared, it is not a monolithic entity, but one that shows variability. Moreover, language-internal factors of variation interact with factors like text type (news vs. academic writing) or mode (speech vs. writing). From the late 1970s, WEs research has worked towards a systematic description of this diverse range of Englishes and their variable grammars. From around 1995 onwards, with the advent of computer corpora specifically compiled for the purpose of comparing (standard/acrolectal) varieties of English in their spoken and written form and across a common set of text categories, research into WEs has increasingly been corpus-based. Recently, research into WEs has further drawn on insights from construction grammar (CxG) for the study of constructions on a cline from highly idiomatic to more abstract (e.g. Goldberg 1995, 2006; Hoffmann 2021).</p> <p>The seminar will draw on material from the International Corpus of English (ICE, see Greenbaum 1996). The ICE components are standard one-million-word reference corpora of first- and second-language varieties of English sampling both spoken and written material. On the basis of a case study #8211 get-constructions #8211 students will learn how to proceed from a topic via a specific research question to data extraction, annotation and analysis to statistical modelling of the variable grammar(s). Step-by-step, easy-to-follow instructions on data retrieval and statistical analysis will be given during the course.</p>											
【到達目標】											
<p>The goal of the course is to provide a hands-on approach to practical research with corpus data from a standard corpus of WEs. Students will learn how to define the variable context (on the basis of theoretical literature), how to operationalise this for the purposes of data retrieval, and how to analyse the data with a view to the research question(s) formulated at the beginning of the seminar. They will learn to interpret the findings against the theoretical model, i.e. CxG, and reflect on variation found across WEs in the constructional network.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Background on Construction Grammar</li> <li>3. Get-constructions in World Englishes</li> <li>4. From Topic to RQ(s)</li> <li>5. Defining the linguistic variable(s)</li> <li>6. Retrieving data on get-constructions from ICE</li> <li>7. Annotating get-constructions and inter-annotator reliability</li> <li>8. Descriptive statistics</li> </ol>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(特殊講義)(2)

9. Definition of predictor variables for multi-factorial analysis
10. Annotation of data for predictor variables
11. Background on multifactorial analysis (trees and forests)
12. Hands-on application of RF and tree analyses
13. Model validation and interpretation
14. Models and modelling: integrating theory and quantitative research results
15. Discussion of the results

### 【履修要件】

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 20%,  
data analyses 30%,  
report (write-up of findings) 50%

### 【教科書】

Course materials (PDFs) will be provided ahead of the seminar.

### 【参考書等】

#### （参考書）

- Adele Goldberg 『Constructions. A Construction Grammar Approach to Argument Structure』 ( Chicago University Press, 1995 )  
Adele Goldberg 『Constructions at Work. The Nature of Generalizations in Language』 ( OUP, 2006 )  
Sidney Hoffmann (ed.) 『Comparing English Worldwide: The International Corpus of English』 ( Clarendon Press, 1996 )  
Thomas Hoffmann 『The Cognitive Foundation of Post-colonial Englishes: Construction Grammar as the Cognitive Theory for the Dynamic Model』 ( CUP, 2021 )  
Douglas Biber and Randi Reppen (eds.) 『The Cambridge Handbook of English Corpus Linguistics』 ( CUP, 2015 )  
Daniel Schreier, Marianne Hundt, Edgar Schneider (eds.) 『The Cambridge Handbook of World Englishes』 ( CUP, 2020 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Data retrieval and analysis.

### （その他（オフィスアワー等））

本授業はMarianne Hundt先生（チューリッヒ大学）がご担当になりますが、授業担当者の家入が補助をいたします。必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会言語学入門									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Graeme Trousdale (著) のAn Introduction to English Sociolinguisticsを講読し、言語を社会という視点から観察する力を養うとともに、両者のかかわりについての理解を深めることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション											
第2回： 英語と方言											
第3回： 世界における英語の役割											
第4回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論											
第5回： 方言研究の手法と社会言語学											
第6回： 英語のスタイル											
第7回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論											
第8回： 言語変化が意味するもの											
第9回： 言語変化と社会的要因											
第10回： 言語接触全般											
第11回： ピジン・クレオール・コード切り換え											
第12回： 社会言語学と言語理論											
第13回： 言語のコミュニティーとネットワーク											
第14回： 言語計画											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

### 【履修要件】

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、Michael Hofmeyr先生の特殊講義も提供しています。アカデミックライティングの授業ですが、前期も後期も社会言語学に関する題材として扱う予定とのことです。本授業と合わせて受講すると、より理解が深まるものと思われます。要件ではありませんが、どうぞご検討ください。

### 【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。

### 【教科書】

Graeme Trousdale 『An Introduction to English Sociolinguistics』（Edinburgh University Press）ISBN: 0748623248

### 【参考書等】

（参考書）

Sali Tagliamonte 『Analysing Sociolinguistic Variation』（CUP）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		William Caxtonの英語									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
William Caxtonの翻訳によるテキストParis and Vienneの講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を変化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法 第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項 第3回： Paris and Vienneの講読および初期印刷本の特徴 第4回： Paris and Vienneの講読および中英語の綴り字 第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論 第6回： Paris and Vienneの講読および中英語の語順 第7回： Paris and Vienneの講読および中英語の名詞・形容詞 第8回： Paris and Vienneの講読および中英語の代名詞全般 第9回： Paris and Vienneの講読および中英語の語彙 第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論 第11回： Paris and Vienneの講読および中英語の前置詞 第12回： Paris and Vienneの講読および中英語の副詞 第13回： Paris and Vienneの講読および中英語の助動詞 第14回： Paris and Vienneの講読および中英語の動詞 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（40％）およびレポート（60％）によって評価を行います。

### [教科書]

Early English Books Online（京都大学図書館所蔵）等を使用します。

### [参考書等]

（参考書）

Norman Davis 『Chaucer Glossary』（Oxford University Press）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

### [授業外学修（予習・復習）等]

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		21世紀英国演劇演習A									
【授業の概要・目的】											
Tom StoppardのLeopoldstadtの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ながら、現代の戯曲を自力で読めるようになる。また、劇の舞台となっている時代についての歴史的知識を通じて、一つひとつの言葉に隠された物語を構成する諸力を理解できるようになる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。</li> <li>英語の戯曲を読むことが出来るようになる。</li> <li>関心をもった事柄について、自ら進んでリサーチできる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回:イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。あわせて第3回に提出するレポートについて説明をする。</p> <p>第2回: Leopoldstadt 3-5ページの講読と討論</p> <p>第3回: 6-9ページの講読と討論</p> <p>第4回: 10-16ページの講読と討論</p> <p>第5回: 17-19ページの講読と討論</p> <p>第6回: 20-23ページの講読と討論</p> <p>第7回: 24-26ページの講読と討論</p> <p>第8回: 27-30ページの講読と討論</p> <p>第9回: 31-33ページの講読と討論</p> <p>第10回: 34-37ページの講読と討論</p> <p>第11回: 38-40ページの講読と討論</p> <p>第12回: 41-44ページの講読と討論</p> <p>第13回: 45-47ページの講読と討論</p> <p>第14回: 48-51ページの講読と討論</p> <p>第15回: 前期の授業のまとめを行う。定期試験は行わない(レポートならびに平常点による)。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加50%）にて評価する。

### [教科書]

Tom Stoppard 『Leopoldstadt』（Faber and Faber）ISBN:978-0571359059

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		21世紀英国演劇演習B									
【授業の概要・目的】											
Tom StoppardのLeopoldstadtの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ながら、現代の戯曲を自力で読めるようになる。また、劇の舞台となっている時代についての歴史的知識を通じて、一つひとつの言葉に隠された物語を構成する諸力を理解できるようになる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。</li> <li>英語の戯曲を読むことが出来るようになる。</li> <li>関心をもった事柄について、自ら進んでリサーチできる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。 Leopoldstadt 52 - 54ページの講読と討論</p> <p>第2回：55 - 58ページの講読と討論</p> <p>第3回：59 - 61ページの講読と討論</p> <p>第4回：62 - 65ページの講読と討論</p> <p>第5回：66 - 68ページの講読と討論</p> <p>第6回：69 - 72ページの講読と討論</p> <p>第7回：73 - 76ページの講読と討論</p> <p>第8回：77 - 79ページの講読と討論</p> <p>第9回：80 - 83ページの講読と討論</p> <p>第10回：84 - 87ページの講読と討論</p> <p>第11回：88 - 91ページの講読と討論</p> <p>第12回：92 - 95ページの講読と討論</p> <p>第13回：96 - 99ページの講読と討論</p> <p>第14回：100 - 102ページの講読と討論。</p> <p>第15回：103 - 105ページの講読と討論。あわせて劇全体についてのまとめと討論を行う。 定期試験は行わない(平常点による)。</p>											
【履修要件】											
原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈50%ならびにディスカッションへの参加50%）にて評価する。

### [教科書]

Tom Stoppard 『Leopoldstadt』（Faber and Faber）ISBN:978-0571359059

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		The Old Man and the Seaを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：The Old Man and the Seaを読む</p> <p>到達目標：The Old Man and the Seaは、いわずとしたHemingwayの代表作である。読書感想文用の指定作品として挙げられることも多い本作に対する専門家の評価は、じつは結構複雑である。そこで、本授業では、前半を本作の読解に費やし、後半はだれもが傑作と認める彼の代表的短篇を5本ほど読む。果たしてThe Old Man and the Seaは名作なのか？Overratedなのか？本講座の終了時に、あらためて受講生のみなさんに考えてもらいたいと思う。</p>											
【到達目標】											
<p>アメリカ文学を代表する作品The Old Man and the Seaを通じて、アメリカ文学および文化の諸側面を捉える。</p> <p>英語で書かれた小説の読み方を学ぶ。</p> <p>小説についての鑑賞眼を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：Introduction: Hemingwayの生涯と小説論について</p> <p>第2回：The Old Man and the Sea を読む(1)</p> <p>第3回：The Old Man and the Sea を読む(2)</p> <p>第4回：The Old Man and the Sea を読む(3)</p> <p>第5回：The Old Man and the Sea を読む(4)</p> <p>第6回：The Old Man and the Sea を読む(5)</p> <p>第7回：The Old Man and the Sea を読む(6)</p> <p>第8回：The Old Man and the Sea を読む(7)</p> <p>第9回：The Old Man and the Sea を読む(8)</p> <p>第10回：“A Clean, Well-Lighted Place” を読む</p> <p>第11回：“Cat in the Rain” を読む</p> <p>第12回：“The Killers” を読む</p> <p>第13回：“Now I Lay Me” を読む</p> <p>第14回：“Fathers and Sons” を読む</p> <p>第15回：まとめ+フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さ</p>											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

する（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートはThe Old Man and the Seaおよび授業で取り上げた短編の内の一つを選んで論じること。

### [教科書]

Hemingway, Ernest 『The Old Man and the Sea』 ( Arrow Books ) ISBN:978-0099908401 ( 授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること )

### [参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読まない（毎回およそ20頁から30頁ほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式については初回授業で説明する。

### ( その他（オフィスアワー等） )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Zora Neale Hurston, Their Eyes Were Watching Godを読む									
【授業の概要・目的】											
20世紀前半、ハーレム・ルネッサンスの時期に活躍したアフリカ系女性作家、Zora Neale Hurstonの長篇小説Their Eyes Were Watching God (1937)を読む。授業では基本的に輪読形式でテキストを丁寧に読んでいく。この形で読み切れない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに全員で話し合うことで理解を確かめる。学期末には、テーマを絞って作品を論じるレポートを提出してもらう。											
【到達目標】											
辞書等を活用しつつ文学作品を妥協なく読み解く姿勢を養うこと、英語読解の精度を高めることを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：第1章を読む 第3回：第2章を読む 第4回：第3～4章を読む 第5回：第5章を読む 第6回：第6章を読む 第7回：第7～8章を読む 第8回：第9～10章を読む 第9回：第11～12章を読む 第10回：第13～14章を読む 第11回：第15～16章を読む 第12回：第17～18章を読む 第13回：第19章を読む 第14回：第20章を読む 第15回：フィードバック (以上は予定です。)											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

**[教科書]**

Zora Neale Hurston 『Their Eyes Were Watching God』（Amistad）ISBN:978-0060838676

**[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する  
教室で随時指示する。

**[授業外学修（予習・復習）等]**

各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は全員必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 43444 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習II) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英国短編小説に関する小論文作成									
【授業の概要・目的】											
The Penguin Books of English Short Storiesに所収されている短編小説の読解と、これに関する小論文の作成、ならびに討論を通じて、英文学作品から論文のテーマを見つけ出し、英語の論文を執筆する訓練を行う。											
【到達目標】											
英文テキストの読解力を発展させ、アカデミックな論文作成の基礎を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>テキストの精読と内容の理解は各自で済ませていることを前提として、毎回の授業では以下の二種類の作業を繰り返す。詳細については第1週に説明するので必ず出席すること。</p> <p>a) 討論を通じて作品の理解を深め、問題点を共有する。</p> <p>b) 担当者（受講者数に左右されるが毎回1-2名）がその作品についての短い論文（英文1,500語程度）を予め全員に回覧した上で、口頭発表する。その後全員でその論文について討論する。</p> <p>毎回の予定は以下の通り。一覧中のa)、b)はそれぞれ上記の二種類の作業を示す。</p> <p>第1週 イン트로ダクション</p> <p>2 Charles Dickens, 'The Signal Man' a)</p> <p>3 Thomas Hardy, 'The Withered Hand' a)</p> <p>4 'The Signal Man' b)</p> <p>5 'The Withered Hand' b)</p> <p>6 Joseph Conrad, 'The Outpost of Progress' a)</p> <p>7 'The Outpost of Progress' b)</p> <p>8 Rudyard Kipling, 'At the End of the Passage' a)</p> <p>9 'At the End of the Passage' b)</p> <p>10 H. G. Wells, 'The Country of the Blind' a)</p> <p>11 'The Country of the Blind' b)</p> <p>12 W. Somerset Maugham, 'The Force of Circumstance' a)</p> <p>13 'The Force of Circumstance' b)</p> <p>14 全体のまとめと補足の討論</p> <p>15 フィードバック</p>											
----- 英語学英文学(演習II)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習II)(2)

**[履修要件]**

後期の英語学英文学演習IIと今年度中に合わせて履修するのが望ましい。

**[成績評価の方法・観点]**

討論を含む授業参加30%、授業中に発表される小論文70%

**[教科書]**

Christopher Dolley, ed. 『The Penguin Book of English Short Stories』 ( Penguin, 2011 ) ISBN: 9780241952856

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

テキスト、担当者の小論文とも十分に内容を理解した上で授業に臨むこと。

**( その他(オフィスアワー等) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 43444 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習II) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英国短編小説に関する小論文作成									
【授業の概要・目的】											
The Penguin Books of English Short Storiesに所収されている短編小説の読解と、これに関する小論文の作成、ならびに討論を通じて、英文学作品から論文のテーマを見つけ出し、英語の論文を執筆する訓練を行う。											
【到達目標】											
英文テキストの読解力を発展させ、アカデミックな論文作成の基礎を理解する。											
【授業計画と内容】											
前期の演習IIに引き続きThe Penguin Books of English Short Storiesに所収されている短編小説の読解と、これに関する小論文作成、討論を通じて、英文学作品から論文のテーマを見つけ出し、英語で論じる訓練を行う。											
テキストの精読と内容の理解は各自で済ませていることを前提として、毎回の授業では以下の二種類の作業を繰り返す。詳細については第1週に説明するので必ず出席すること。											
a) 討論を通じて作品の理解を深め、問題点を共有する。											
b) 担当者(受講者数に左右されるが毎回1-2名)がその作品についての短い論文(英文1,500語程度)を予め全員に回覧した上で、口頭発表する。その後全員でその論文について討論する。											
毎回の予定は以下の通り。一覧中のa)、b)はそれぞれ上記の二種類の作業を示す。											
第1週 イン트로ダクション											
2 Virginia Woolf, 'Kew Gardens' a)											
3 D. H. Lawrence, 'Fannie and Annie' a)											
4 'Kew Gardens' b)											
5 'Fannie and Annie' b)											
6 Katherine Mansfield, 'The Voyage' a)											
7 'The Voyage' b)											
8 Joyce Cary, 'The Breakout' a)											
9 'The Breakout' b)											
10 Aldus Huxley, 'The Gioconda Smile' a)											
11 'The Gioconda Smile' b)											
12 V. S. Pritchett, 'The Fly in the Ointment' a)											
13 'The Fly in the Ointment' b)											
14 全体のまとめと補足の討論											
15 フィードバック											
----- 英語学英文学(演習II)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習II)(2)

**【履修要件】**

前期の英語学英文学演習IIと今年度中に合わせて履修するのが望ましい。

**【成績評価の方法・観点】**

討論を含む授業参加30%、授業中に発表される小論文70%

**【教科書】**

Christopher Dolley, ed. 『The Penguin Book of English Short Stories』 ( Penguin, 2011 ) ISBN: 9780241952856

**【参考書等】**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

テキスト、担当者の小論文とも十分に内容を理解した上で授業に臨むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系114

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代英国演劇講読									
【授業の概要・目的】											
Alan Ayckbourn作Confusionの精読を通じて、英語の戯曲の読み方の基本を身につけるとともに英国演劇とその言語についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語による戯曲テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。</li> <li>・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクション 現代英国演劇について概説を行う。あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 戯曲の精読と内容についての討論。</p> <p>場面ごとの難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね2頁程度を読み進めることになる。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
2-4回生を対象とした講読の授業											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点にて評価する。正当な理由なく2回欠席した場合は、以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。											
【教科書】											
Alan Ayckbourn 『Confusions』 ( Bloomsbury, 2017 ) ISBN:9780713685510 ( Methuen Drama Student Edition )											
【参考書等】											
( 参考書 ) 授業中に紹介する											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予め辞書（特に英英辞典）を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系115

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Klara and the Sun 購読 2									
【授業の概要・目的】											
<p>Kazuo IshiguroのKlara and the Sun (2021)の精読を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。同作はIshiguroによるノーベル賞受賞後の第一作であり、AIを搭載したロボットが一人称で語る実験的な小説である。人間や動物の生活空間のなかに応答機能や知能をもった機械が同居するようになった今、同小説は大きなアクチュアリティをもつ。本講義では、人工知能を搭載した機械の知覚と内受容感覚を模した語りの仕掛けに着眼しつつ、近年興隆している感情史の文脈からAIと共生する世界の問題を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。</p> <p>(2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。</p> <p>(3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 テキストの精読 担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。おおよそ2回の授業で一部を読み進め、学期末までにPart 6までを読み終わる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（50％）とレポート（50％）で総合的に評価する。

### [教科書]

Kazuo Ishiguro 『Klara and the Sun 』（Knopf, 2021）ISBN: #8206978-0593318171

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Fitzgerald, The Last Tycoonを読む									
【授業の概要・目的】											
20世紀前半を代表するアメリカの小説家の一人、F. Scott Fitzgerald (1896-1940)の遺作、The Last Tycoon (1941)を読む。未完ながらもハリウッド小説の傑作と呼ばれるこの作品を、参加者間で意見を交わしながら輪読形式で丁寧に読み進めたい。この形で読みきれない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに全員で話し合うことで理解を確かめる。学期末には、テーマを絞って作品を論じるレポートを提出してもらう。											
【到達目標】											
丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：第1章を読む(1) 第3回：第1章を読む(2) 第4回：第1章を読む(3) 第5回：第2章を読む 第6回：第3章を読む(1) 第7回：第3章を読む(2) 第8回：第4章を読む(1) 第9回：第4章を読む(2) 第10回：第5章を読む(1) 第11回：第5章を読む(2) 第12回：第5章を読む(3) 第13回：第6章を読む(1) 第14回：第6章を読む(2) 第15回：フィードバック (以上は予定です。)											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

**[教科書]**

F. Scott Fitzgerald 『The Last Tycoon』（Penguin Classics）ISBN:9780141185637

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Edgar Allan Poeの短編を読む									
【授業の概要・目的】											
Edgar Allan Poeの短編は、日本でも愛読者が多い。前知識ゼロで読んでも面白い作品揃いだ。当時流布していた疑似科学的言説や人種表象など、19世紀米国社会に蔓延していたイデオロギーを巧みに取り込んだ作品群であることを知ると、いっそうPoeの天才ぶりが身にしみて分かるだろう。											
【到達目標】											
Edgar Allan Poeの代表的短篇の講読を通じて、19世紀米国文化を学ぶ 英語で書かれた小説の読解法を学ぶ											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション--Edgar Allan Poeの生涯と作品受容について 第2回：MS. Found in a Bottle 講読 第3回：Ligeia 講読 第4回：The Man that was Used Up 講読 第5回：The Fall of the House of Usher 講読 第6回：William Wilson 講読 第7回：The Man of the Crowd 講読 第8回：The Murders in the Rue Morgue 講読 第9回：The Mask of the Read Death 講読 第10回：The Tell-Tale Heart 講読 第11回：The Gold-Bug 講読 第12回：The Black Cat 講読 第13回：The Purloined Letter 講読 第14回：The Facts in the Case of M. Valdemar 第15回：まとめ+フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当作品に関するもので、25分から30分ほどの長さとする。残りの時間は参加者全員によるディスカッションに充てられる。読まずに授業に参加した場合、欠席扱いとなるので注意すること。											
【教科書】											
Poe, Edgar Allan 『The Fall of the House of Usher and Other Writings: Poems, Tales, Essays, and Reviews (Penguin Classics)』 (Penguin Classics) ISBN:978-0141439815 (随時参照するので、必ずこの版を入											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

手すること)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎授業、全員参加のディスカッションを行うので、予習は必須である。発表とレポートの形式については授業内で詳細を説明する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
[授業の概要・目的]											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
[到達目標]											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>本年度前期はShakespeare(1564-1616)によるsonnet作品を読む。</p> <p>第1回：導入。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力(intercultural competence)</li> <li>・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質</li> <li>・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること</li> <li>・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違</li> <li>・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果</li> <li>・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違)</li> <li>・rhymeの技法とその表現法の由来と影響</li> <li>・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け</li> <li>・散文と韻文との相違</li> <li>・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質</li> <li>・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響</li> <li>・英語史上における異文化交流の実例</li> <li>・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき</li> </ul> <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
[履修要件]											
特になし											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験（あるいはレポート試験）の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

### [教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

岡村真紀子他(編)『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』（英宝社）ISBN:9784269060387、9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

### [授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

### （その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度後期は、Sir Thomas Wyatt (1503-42)、Earl of Surrey (1517-47)、Sir Walter Raleigh (1552-1618)、Donne (1572-1631)、Wordsworth (1770-1850)、Coleridge (1772-1834)、Keats (1795-1821)、Alfred, Lord Tennyson (1809-92)、Dante Gabriel Rossetti (1828-82)、Hopkins (1844-89)、Dylan Thomas (1914-53)による多様なsonnet作品を読む。</p> <p>第1回：導入。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力(intercultural competence)</li> <li>・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質</li> <li>・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること</li> <li>・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違</li> <li>・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果</li> <li>・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違)</li> <li>・rhymeの技法とその表現法の由来と影響</li> <li>・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け</li> <li>・散文と韻文との相違</li> <li>・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質</li> <li>・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響</li> <li>・英語史上における異文化交流の実例</li> <li>・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき</li> </ul> <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(講読)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験（あるいはレポート試験）の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

### [教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

岡村真紀子他(編)『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』（英宝社）ISBN:9784269060387、9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

### [授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

### （その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, written assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.											
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.											
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”											
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.											
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures ( <a href="http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A">http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A</a> ).											
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”											
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples											
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” ( <a href="https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc">https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc</a> ).											
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji Reading: “ Chionji ” (handout)											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(外国語実習)(2)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan  
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures  
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures  
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions  
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)  
Written assignments (25%)  
Class presentations (30%)  
Review test (25%)

### 【教科書】

All readings will posted on Panda.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系121

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film “ Water, the Lifeblood of Kyoto ” (<a href="http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P">http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P</a>).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 “ Dry Landscapes ” ; pp. 133-138 “ Tea Garden ” “ Tea Room ” .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, “ The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan ” (2011, <a href="http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research">http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research</a>)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, “ Machiya Townhouses ” (<a href="https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses">https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses</a>); Kyoto Machiya Revitalization Project (<a href="http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/">http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/</a>).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film “ Traditional Skills in the Kyoto State Guest House ” (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p> <p>9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls</p>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(外国語実習)(2)

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

### 【教科書】

All readings will be posted on Panda.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters from textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

英語学英文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - 100 Years of Assimilation									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. The second wave, in the 1950's, were those written by the 'Beat' poets in the U.S.A. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the history of the genre using reading texts and examples. (In the second semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku!) Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. Students will anthologise and critique their selection of the best American and British haiku during the first semester and present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Origins in Japan and literary ground in UK and USA</li> <li>3. Oriental translations</li> <li>4. Orientalism</li> <li>5. Imagism</li> <li>6. Western view of Zen</li> <li>7. Beat poets</li> <li>8. 1960s</li> <li>9. Haiku Society of America</li> <li>10. British Haiku Society</li> <li>11. World Haiku</li> <li>12. Haiku radio</li> <li>13. Haiku in other Western media</li> <li>14. Internet haiku (and critiqued anthology reports)</li> <li>15. Future of world haiku (and critiqued anthology reports)</li> </ol>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## 英語学英文学(外国語実習)(2)

### 【履修要件】

Active participation in our online class.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,  
tests 10%,  
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

### 【教科書】

使用しない

Teaching texts for each lecture (with poem examples) will be provided by the teacher and posted as pdf files on the class PandA site.

### 【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Handbook』 ISBN:0070287864

Kacian, J., Rowland, P. & Burns, A. 『Haiku in English: the First Hundred Years』 ISBN:9780393239478

Gill, Stephen Henry 『From the Cottage of Visions - Genjuan Haibun』 ISBN:9784990082291

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarize themselves with a short text in advance of the class. They must revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher via the class PandA page during or before the 14th week.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - Characteristics									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku! Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. During the semester, students will choose one characteristic of English haiku (e.g. punctuation, lineation, Western season words) for special attention and, illustrating their ideas with their own researched haiku examples, present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural and linguistic comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature. This course may also help develop seasonal consciousness.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and links from last semester</li> <li>2. Japanese and English: linguistic differences</li> <li>3. pond frog plop!</li> <li>4. Lineation, translation workshop</li> <li>5. Break, image contrast (cf. famous poets' work)</li> <li>6. Seasons in English Haiku I: spring</li> <li>7. Seasons in English Haiku II: summer</li> <li>8. Seasons in English Haiku III: autumn</li> <li>9. Creating an English haiku, composition workshop</li> <li>10. Seasons in English Haiku IV: winter</li> <li>11. Seasons in English Haiku V: all/no season</li> <li>12. Humour and influence of senryu on US/UK haiku</li> <li>13. Haiku 'moment' and hints on researching examples</li> <li>14. Rensaku, rengay and report preparation/submission</li> <li>15. Haibun and report preparation/submission</li> </ol>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											



## 英語学英文学(外国語実習)(2)

### 【履修要件】

Active participation in class.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,  
tests 10%,  
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

### 【教科書】

使用しない  
Handouts will be provided by the teacher in every class.

### 【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Seasons』 ISBN:9781933330655

Higginson, William J. 『Haiku World』 ISBN:4770020902

Gill, Stephen Henry 『Enhaiklopedia』 ISBN:4990082222

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。</li> <li>・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画（各回のテーマ）</p> <p>第1回：イントロダクション～異文化理解と翻訳</p> <p>第2回：翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</p> <p>第3回：コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</p> <p>第4回：コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</p> <p>第5回：英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</p> <p>第6回：英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</p> <p>第7回：異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</p> <p>第8回：異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</p> <p>第9回：異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</p> <p>第10回：異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</p> <p>第11回：言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</p> <p>第12回：言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</p> <p>第13回：翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能性を探る</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

第14回：翻訳の限界と可能性(2)：ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

第15回：まとめとディスカッション：翻訳にまつわる諸問題について、留学生や外国人教員を交えて受講者全員でディスカッションを行う

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点(60%)と期末の翻訳課題(40%)を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』 (Penguin) ISBN: 978-0241954300

### 【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、こちらで指定した英文テキスト(短めのもの)を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメール等で提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

\* 本年度の授業で取り上げるテキストは、大半が一昨年度(2020年度)後期に扱ったものと同じになりますのでご注意ください。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代アメリカ文学における自然とヒト Native Americanの文学を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業は、主に現代アメリカ文学、とりわけNative Americanの作家による作品を中心に、ヒトと自然の共生について考察する。また、Native Americanの口承文学、異人種間の交流の歴史を学び、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する</li> <li>・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する</li> <li>・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>注意：テキストはあくまでも暫定的なものである。必ず初回授業にて配布するシラバスを参照すること</p> <p>第1回：【序論】Native Americanの文学史  第2回：Leslie Marmon Silko, “Yellow Woman” おける伝承とジェンダー  第3回：Leslie Marmon Silko, “Uncle Tony's Goat”における動物とヒト  第4回：Leslie Marmon Silko, “The Man to Send Rain Clouds”における祈りと天候  第5回：Thomas King, “Borders”における国境  第6回：Gloria Anzaldù, Borderlands/La Fronteraにおける国境とセクシャリティ1  第7回：Gloria Anzaldù, Borderlands/La Fronteraにおける国境とセクシャリティ2  第8回：【異文化体験についてのプレゼンテーション】前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、自らの異文化体験を英語で述べる  第9回：映画『すべての美しい馬』におけるカウボーイの再定義  第10回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性1  第11回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性2  第12回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性3  第13回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性4  第14回：Willa Cather, The Professor's HouseにおけるNative Americanと白人男性5  第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての現代アメリカ文学を包括的に理解する</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当するテキストに関するもので、25分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

基本的にテキストはウェブにアップロードする  
すでにネット上で読むことができるものは、その旨指示をする

### 【授業外学修（予習・復習）等】

事前に扱う作品を読んでくること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		The Sidney Psalter研究									
【授業の概要・目的】											
Sir Philip Sidney、Mary Sidney (Mary Herbert, Countess of Pembroke)の兄妹は共にエリザベス朝を代表する詩人であるが、旧約聖書の詩篇を英語の韻文に訳している。本講義では、英文学作品としてのSidney兄妹訳詩篇数篇の講読とこれらに関する小論文執筆を通じて、その特徴をイングランド宗教改革、エリザベス朝文学という歴史的な文脈の中で理解することを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期近代の詩の読み方を身につける。</li> <li>・授業で扱う詩に描かれた当時の社会と英文学の関係を理解する。</li> <li>・英詩に関して論文のテーマを見つけ、小論文を作成できる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
授業では各受講者に予め割り振った作品について以下の2種類の作業を繰り返す。											
a)精読											
b)英訳(等)の聖書や、他の英詩(等)との比較検討を通じて、各々をイングランド宗教改革、また、エリザベス朝文学の中に位置付けるレポートの口頭発表と討論											
受講者は担当作品について上記2種類を担当すると共に、それに基づく小論文を提出することが求められる。											
第1回 インTRODクシヨN											
以後の進め方を説明し、担当する作品を決定するので受講希望者は「必ず」出席すること											
第2回 詩篇 1 & 3 講読											
第3回 詩篇 23 & 43 講読											
第4回 詩篇 1 & 3 口頭レポートと討論											
第5回 詩篇 23 & 43 口頭レポートと討論											
第6回 詩篇 45 講読											
第7回 詩篇 45 口頭レポートと討論											
第8回 詩篇 103 講読											
第9回 詩篇 103 口頭レポートと討論											
第10回 詩篇 120 - 123 講読											
第11回 詩篇 120 - 123 口頭レポートと討論											
第12回 詩篇 126 & 137 講読											
第13回 詩篇 126 & 137 口頭レポートと討論											
第14回 全体のまとめ											
第15回 フィードバック											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

口頭発表40%、その他授業への貢献10%、小論文（詳細については第1回に指示をする）50%

**【教科書】**

Sir Philip and Mary Sidney 『The Sidney Psalter』（Oxford UP, 2009）ISBN:9780199217939

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

扱う詩については、英英辞典などを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、レポート、小論文作成の準備を行うこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの伝記文学									
【授業の概要・目的】											
イギリス人は伝記好きな国民と言われる。確かに書店に行くと、さまざまな人物に関する伝記が多く置いてある。一方で、こうした伝統のなかに身を浸していた反動なのか、あるいは「伝えられる事実」というものに警戒心があったのか、みずからの伝記を書くことを禁じた作家に、George Orwell (1903-1950) がいる。本講義においては、そのような禁止にもかかわらず、数多くの伝記が書かれた著者が1930年代に残したルポルタージュ作品や体験報告のエッセイを読解した後で、歴代の伝記作家たちの伝記を検証する。そして、それぞれの伝記作家がどのように作品に描かれた記述を「事実」/「虚構」として用い、オーウェル個人の生を描こうとしたかを通時的に検証し、その変遷を批判的に読解する。											
【到達目標】											
伝記文学に関する基本的な知識を獲得するとともに、それを発展的に生かす能力を養う。また、伝記文学を批評的に読解するとは具体的に何をすることなのか、考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
Class 1 Introduction: イギリスと伝記文学について Class 2 George Orwell (1903-1950) に関する伝記の系譜 Class 3 The Hanging (1931); Shooting an Elephant (1933) Class 4 Down and Out in Paris and London (1933) Class 5 Down and Out in Paris and London (1933) Class 6 Road to Piers (1937) Class 7 Road to Piers (1937) Class 8 Marrakech (1939) Class 9 Christopher Hollis, A Study of George Orwell: The Man and His Works (1956) Class 10 Stansky and Abraham, The Unknown Orwell (1972) Class 11 Bernard Crick, George Orwell: A Life (1980) Class 12 Michael Shelden, Orwell: The Authorized Biography (1972) Class 13 Jeffrey Meyers, Orwell: Wintry Conscience of a Generation (2000) Class 14 D. J. Taylor, Orwell: The Life (2003); Gordon Bowker, George Orwell (2003) Class 15 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点・授業への参加状況（50％）と学期末レポート（50％）によって評価する。

### [教科書]

必要に応じて資料を配布する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13：00～14：30。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 谷口 一美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。</li> <li>・ 言語事象に対する観察力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。											
第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり(1)：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり(1)：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり(2)：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり(2)：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語(1)：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語(1)：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語(2)：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語(2)：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート(70%)、授業への取り組みの状況(30%)から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エイドリアン・リッチの中期詩集を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アメリカの詩人エイドリアン・リッチ(1929-2012)はハーヴァード大学ラドクリフ・カレッジ在学中の1951年、詩集A Change of Worldでデビューした。初期作品のスタイルは内容面においても形式面においても抑制的な傾向がみられるが、第3詩集The Snapshots of a Daughter-in-Law(1963)から、自身の体験を反映したものへと変化をみせる。リッチは60年代から公民権運動や反戦運動、フェミニズム運動に積極的にに関わり、アカデミズムの外からメッセージを発し続けた詩人であり、文学史においては力強い声を持つ詩人と位置づけられている。本授業では、リッチの思想と詩作がもっとも有機的につながり、かつスタイルが劇的に変化した中期の3作品The Will to Change(1971)とDiving into the Wreck(1973)、The Dream of a Common Language(1978)から代表的な詩作品を選び、読解と翻訳を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>リッチは文学の枠を超え、フェミニズムの批評家・運動家としても重要な人物である。リッチが提示した「強制的異性愛」や「レズビアン連続体」といった概念、一人称複数“ We ”をめぐる連帯の限界と可能性をめぐる批判は、今日の問題に接続されるだろう。本授業では、リッチの作品を読むことで、読解力だけではなく、第2波フェミニズム運動の基本的事項を習得する。</p> <p>リッチの作品は彼女の思想的な枠組み(もしくは女性というジェンダーやリッチのセクシュアリティ)から論じられる傾向がある。リッチの作品の「詩的さ」というべきものが、このような批評の言説といかに連動し、テキストの意味を産出してきたか考えることで、作品と批評の相互関係についての視座を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Planetarium</li> <li>2.Planetarium</li> <li>3.The Photograph of the Unmade Bed</li> <li>4.The Photograph of the Unmade Bed</li> <li>5.A Valediction Forbidding Mourning</li> <li>6.A Valediction Forbidding Mourning</li> <li>7.Trying to Talk with a Man</li> <li>8.Trying to Talk with a Man</li> <li>9.After Twenty years</li> <li>10.After Twenty years</li> <li>11.Power</li> <li>12.Power</li> <li>13.The Lioness</li> <li>14.The Lioness</li> <li>15.Review</li> </ol>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

### 【教科書】

使用しない  
初回授業でプリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n\_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 後藤 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		19世紀アメリカ小説研究 Herman Melvilleの"Bartleby"を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>Herman Melville (1819-91) の短篇小説 “Bartleby, The Scrivener: A Story of Wall-street” (1853) および本作を扱った先行研究・批評を読む。毎回の授業では、作品にまつわる歴史的・政治社会的事象（作者の伝記や19世紀アメリカン・ルネサンスをめぐる文学史・文化史など）に関する講義もまじえながら、基本的には受講者による発表とディスカッションを中心に、課題範囲を演習形式で考察する。授業の前半では “Bartleby” のテキストおよびコンテキストを吟味し、後半では20世紀以降に書かれた “Bartleby” 論（英文）を粹形式で精読する。19世紀アメリカの先住民問題との関連で Melville を読み解いた Lucy Maddox の <i>Removals: Nineteenth-Century American Literature and the Politics of Indian Affairs</i> (1991) のほか、Gilles Deleuze の “Bartleby; or, The Formula” (1989) や Giorgio Agamben の “Bartleby, or On Contingency” (1993) といった現代思想における “Bartleby” への応答例、あるいは Jenny Odell の <i>How to Do Nothing</i> (2019) のような本作に注目したごく最近のメディア論を取り上げる予定。</p>											
【到達目標】											
<p>比較的難易度の高いテキストの解釈に取り組むことにより、文章の一語一句に込められた微妙なニュアンスが読み取れるような英文解釈のセンスに磨きをかける。同時に、批評理論・文化理論や関連する欧米の文化事象についての知識と理解を深めるなかで、作品のテキスト/コンテキストを読み解く批評眼を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション  第2回 “Bartleby” (1)  第3回 “Bartleby” (2)  第4回 “Bartleby” (3)  第5回 “Bartleby” (4)  第6回 “Bartleby” (5)  第7回 “Bartleby” (6)  第8回 Maddox, “Writing and Silence: Melville” (1)  第9回 Maddox, “Writing and Silence: Melville” (2)  第10回 Deleuze, “Bartleby; or, The Formula” (1)  第11回 Deleuze, “Bartleby; or, The Formula” (2)  第12回 Agamben, “Bartleby, or On Contingency” (1)  第13回 Agamben, “Bartleby, or On Contingency” (2)  第14回 Odell, <i>How to Do Nothing</i>  第15回 授業のまとめ・フィードバック</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

期末レポート50%と発表課題30%、平常点20%（毎回の授業中の発言やディスカッションへの貢献、授業後のコメント提出）を総合的に判断する。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

Peter Barry 『Beginning theory: An introduction to literary and cultural theory』（Manchester UP, 2017）  
三原芳秋・渡邊英理・鵜戸聡編 『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会い  
なおす』（フィルムアート社、2020）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

辞書・辞典類、アメリカ言語文化および批評理論・文化理論、現代思想に関する文献資料あるいはインターネット資料を積極的に参照し、毎回の範囲を丁寧に予習した上で授業に臨むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系131

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学 文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov短編研究									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)の短編を精読する。一つ一つのことばと詳細を丁寧に拾い上げながら読むことによって、凝縮された短編の世界を隅々まで探索する。Nabokovの短編の中から、とりわけ音楽にまつわる作品を選び出し、精読することによって、「音楽嫌い」を公言したNabokovの、音楽に対する反応について考察する。											
【到達目標】											
比較的難解な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 "Music"輪読											
第3回 "Music"輪読											
第4回 "Sounds"輪読											
第5回 "Sounds"輪読											
第6回 "Sounds"輪読											
第7回 "Sounds"輪読											
第8回 "Bachman"輪読											
第9回 "Bachman"輪読											
第10回 "Bachman"輪読											
第11回 "The Assistant Producer"輪読											
第12回 "The Assistant Producer"輪読											
第13回 "The Assistant Producer"輪読											
第14回 "The Assistant Producer"											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。  
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。  
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

### 【教科書】

使用しない  
取り上げる作品のテキストをpdfにして、授業までにアップロードします。

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

一回の授業で3、4ページぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。  
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系132

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 吉田 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳アンソロジーを編む									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義では、受講生が自ら選んだ未邦訳の英語短編小説を一人一作品日本語に翻訳し、クラスでアンソロジーを編纂します。最終的にはその過程をポートフォリオにまとめ、作業を自ら振り返り評価します。</p> <p>受講生は自分が選んだ短編を紹介し、翻訳にあたっての問題点について発表を行います。また、自分が選んだ作品とは別に、文学作品からの短い抜粋を翻訳する課題を毎週提出してもらいます。授業は受講生の発表と個々の作品の翻訳過程についてのグループワークショップ、そして毎週の課題の解題で進行します。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 英語短編小説を原文で読みその内容を的確に理解できる。  (2) 文法・語彙・文化背景について参考文献で調べることができる。  (3) 原文の味わいを反映した適切な日本語への翻訳過程を吟味できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 短編小説の探し方(1)・ポートフォリオについて  第2回 短編小説の探し方(2)・翻訳演習課題(1)  第3回 翻訳作業のための工具書類(1)・翻訳演習課題(2)  第4回 翻訳作業のための工具書類(2)・翻訳演習課題(3)  第5~13回 学生発表(1~9)・翻訳演習課題(4~12)  第14回 ポートフォリオ提出  第15回 ポートフォリオへのフィードバック・自己評価とふりかえり</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>到達目標の(1)~(3)の達成度について、以下の割合で評価する。</p> <p>課題と授業参加30%  発表20%  ポートフォリオ50%</p> <p>発表とポートフォリオについては授業で説明する。  創意工夫のあるポートフォリオはとりわけ高く評価したい</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [教科書]

授業中に指示する  
未邦訳の短編を探すに当たって、短編アンソロジーや文芸誌、雑誌などを各自入手してもらいます

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

初回授業で説明します

### (その他(オフィスアワー等))

授業前後の相談、メールでの問い合わせを受けつけます

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学大学院言語教育情報研究科 滝沢 直宏 教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語語法文法研究									
【授業の概要・目的】											
<p>英語の語法文法の研究をする際には、まずもって英語の一次資料を分析的な目で常に読み、聞き、見る癖をつけることが大切である。受講生には、語彙・語法・文法・表現・言語理論の観点はもとより文化的視点、文体的・修辭的視点など幅広い観点から英語を観察し、興味深い例を発見することを求める。その上で、受講生各自が一週間の間に発見した例のうち、特に興味深いと思われる数例をMailing Listで紹介し合い、それを全員で検討しながら、英語の語法文法に関する理解を深める。</p> <p>収集した各例には、その例を特徴づける分類タグをできるだけ多く付与することが求められる。付与した分類タグの分だけ、一つの例を多角的に見たことになる。分類タグには、関連する言語学上の専門用語を正確に用いることも重要になってくるので、言語学関係の用語辞典を頻繁に参照することも必要となる。同時に、Quirk et al. (1985)、Huddleston &amp; Pullum (2002)、Biber et al. (1999)など、既存の文法書を随時参照することも重視される。</p>											
【到達目標】											
日常的に触れている何気ない英文を分析的・複眼的に見る目が培われると同時に、言語学的な概念が習得される。											
【授業計画と内容】											
第1回 語法文法研究とは 第2回 英文のデータベース構築 第3回-第14回 興味深い英文の紹介と英語学的・言語学的検討 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
日頃の課題提出を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書)											
Quirk et al. 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 (Longman, 1985) (20世紀最大の アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 ( Cambridge University Press, 2002 )

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 ( Pearson Education, 1999 )

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 英文法書)

Huddleston and Pullum 『The Cambridge Grammar of the English Language』 ( Cambridge University Press, 2002 )

Biber et al. 『A Longman Grammar of Spoken and Written English』 ( Pearson Education, 1999 )

他にも参照すべき語法書、文法書は多い。適宜、授業で紹介する。

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

多くの英文を日常的に読み、英語語法文法の観点、言語学的観点から例文を収集し、全員が加入するMailing Listに投稿することを求める。不断の努力を怠らないこと。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

用事・質問がある場合には、メールでご連絡ください。必要に応じて、Zoomで面談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系135

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ジョージ・エリオットを読む									
【授業の概要・目的】											
ジョージ・エリオットの小説は、英文学作品の中でも常に高い評価を受けてきた。本授業では、エリオットの代表作Adam BedeやMiddlemarch、さらに評論を取り上げながら、作家エリオットの想像力の働きと彼女が考えた文学の役割について多角的に考察する。											
【到達目標】											
丁寧な辞書を引ながら原書を楽しんで読むことができる。 小説読解のための基礎的な英語力、小説の技法の基礎知識を身につけている。 先行研究に言及しながら文学作品の読みどころを論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN 授業の進め方の説明 George Eliotについて 第2回 Adam Bedeを読む(1) 第3回 Adam Bedeを読む(2) 第4回 Adam Bedeを読む(3) 第5回 Adam Bedeを読む(4) 第6回 George Eliotと美術 第7回 Middlemarchを読む(1) 第8回 Middlemarchを読む(2) 第9回 Middlemarchを読む(3) 第10回 Middlemarchを読む(4) 第11回 George Eliotと田舎の表象 第12回 "The Natural History of German Life"を読む 第13回 "How I Came to Write Fiction"を読む 第14回 先行研究の検証 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：40%  
期末レポート：60%

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

毎週、次の授業で使用する資料を配布します。目を通して授業に出席してください。また、毎週コメントペーパーを提出してもらいます。

### （その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系136

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都ノートルダム女子大学 木島 菜菜子 国際言語文化学部 講師			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・ハーディ『ダーバヴィル家のテス』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ハーディの小説は、英文学作品の中でも常に高く評価されてきた。中でも代表作の一つ『ダーバヴィル家のテス』は、翻訳や映画で、日本でもよく知られた作品である。本授業では、作品執筆の背景や時代背景、これまでの先行研究で挙げられてきた作品の論点などを考慮にいれながらテキストを丁寧に読み解き、作品の読みどころと作家ハーディの想像力について考えることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>丁寧に辞書を引きながら、原書を楽しんで読むことができる。          小説読解のための基礎的な英語力、小説の技法の基礎知識を身につけている。          先行研究に言及しながら文学作品の読みどころを論じることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション          授業の進め方の説明          Thomas Hardyについて          第2回 Phase the First, 1~5          第3回 Phase the First, 6~11          第4回 Phase the Second, 12~15          第5回 Phase the Third, 16~19          第6回 Phase the Third, 20~24          第7回 Phase the Fourth, 25~29          第8回 Phase the Fourth, 30~34          第9回 Phase the Fifth, 35~40          第10回 Phase the Fifth, 41~44          第11回 Phase the Sixth, 45~49          第12回 Phase the Sixth, 50~52          第13回 Phase the Seventh, 53~59          第14回 先行研究の検証          第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（各回のコメントペーパー）：40%  
期末レポート：60%

### 【教科書】

Thomas Hardy 『Tess of the D'Urbervilles』 ( Norton, 1991 ) ISBN:978-0-393-95903-1 ( Edited by Scott Elledge )

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

### （その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 1: Language and Society									
【授業の概要・目的】											
<p>This course will introduce students to the core concepts and key debates within the discipline of sociolinguistics, which is concerned with the multitudinous ways in which language and society may influence one another. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
【到達目標】											
<p>This course will introduce students to the field of sociolinguistics by means of a series of class discussions touching on key questions and issues in the field, for example the matters of regional and social dialects and how social status can be reflected and reinforced through language. In terms of English language skills, the primary focus will be on the development of academic reading and writing skills. Students will also be able to expand their vocabulary range in order to discuss a variety of topics related to linguistics and gain a better understanding of the complex interrelationship between languages and the societies in which they are used.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Students will be given weekly reading assignments to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for quizzes and for the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise          Week 2 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents)          Week 3 - Class discussion of Fromkin et al. (lexical and syntactic variation)          Week 4 - Class discussion of Fromkin et al. (standardisation of dialects)          Week 5 - Quiz, class discussion of Fromkin et al. (social dialects)          Week 6 - Class discussion of Fromkin et al. (gendered language)          Week 7 - Class discussion of Fromkin et al. (pidgins and creoles)          Week 8 - Test          Week 9 - Class discussion of Fromkin et al. (individual and social bilingualism)          Week 10 - Class discussion of Fromkin et al. (dialects and accents)          Week 11 - Class discussion of Fromkin et al. (accommodating dialectal differences)          Week 12 - Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (dialectal diversity)          Week 13 - Final essay due, Class discussion of sociolinguistic issues in Japan (languages)</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 14 - Class presentations on essay research

Week 15 - Class presentations on essay research

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Homework: 10%

Quiz: 10%

Test: 30%

Essay: 40%

Presentation: 10%

### 【教科書】

The instructor will provide all the necessary materials for this course, so there is no need for students to buy a textbook. However, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

### (その他(オフィスアワー等))

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at [mfhofmeyr@gmail.com](mailto:mfhofmeyr@gmail.com).

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 特任講師 HOFMEYR, Michael Frederick			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Academic Writing 2: English in a Global Context									
[授業の概要・目的]											
<p>This course will introduce students to the notion of English as a global language and also to the academic debates surrounding the dominant role that the language has come to assume across a wide range of international arenas. Topics of discussion will include what it means to be a global language, the history of the spread and diversification of the English language across the world and the future prospects of English as a global language. Throughout the course, students will be encouraged to develop and share their own opinions about the role of English both in Japan and in the wider world today. As this is a content-focussed course taught through the medium of English, students will be expected to read a substantial amount of authentic academic materials in English, to summarise in their own words what they have read, and to engage in in-depth classroom discussion of the content. This will help to hone their academic writing abilities and also to improve their general English language proficiency.</p>											
[到達目標]											
<p>This course will increase students' knowledge and understanding of the various roles that the English language plays in the world today and of the social, cultural, and historical contexts that have shaped its development over past centuries. Group discussions and presentations will develop students' oral communication skills and turn them into more confident English speakers, while the substantial amount of reading required for each class will help to improve reading speed and to expand academic and practical vocabulary. Academic research and writing skills in particular will be further developed through an essay assignment.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Students will be given weekly reading assignments from the prescribed text to prepare before each class. They will also receive sets of text review questions for homework which serve the threefold purpose of directing them to the most important information for note-taking during reading, providing support during group discussion seminars and facilitating revision for the class quiz and the final test. Classroom sessions will take the form of small-group discussion seminars and short interactive lectures to clarify and explain relevant concepts. Evaluation will consist of a class quiz and a test to evaluate students' ability to express in writing their understanding of and opinions regarding the course content. Students will also write a research essay on a topic related to the work discussed in class and present their findings to the whole class at the end of the semester.</p> <p>Week 1 - Introduction to the course, diagnostic writing exercise  Week 2 - Class discussion of Crystal chapter 1 (What is a global language?)  Week 3 - Class discussion of Crystal chapter 1 (advantages and disadvantages of a global language)  Week 4 - Class discussion of Crystal chapter 2 (Kachru's three circles)  Week 5 - Quiz, class discussion of Crystal chapter 3 (English and the British Empire)  Week 6 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English and the globalisation of culture)  Week 7 - Class discussion of Crystal chapter 4 (English in the media)</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 8 - Test

Week 9 - Class discussion of Crystal chapter 5 (English in the United States)

Week 10 - Class discussion of Crystal chapter 5 (Global “ Englishes ” )

Week 11 - Class discussion of Crystal chapter 5 (the future of English)

Week 12 - Class discussion on English in Japan (foreign language education in the school system)

Week 13 - Final essay due, Class discussion on English in Japan (the role of English in Japan)

Week 14 - Class presentations on essay research

Week 15 - Class presentations on essay research

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Homework: 10%

Quiz: 10%

Test: 30%

Essay: 40%

Presentation: 10%

### 【教科書】

Crystal, David 『English as a Global Language』 ( Cambridge University Press ) ISBN:1107611806 ( 2nd edition )

Note: Students should ensure that they have the full English edition of the text. There also exists an abridged Japanese-English bilingual edition. However, this bilingual edition does NOT contain all the necessary content for this course. In addition to purchasing the prescribed text, students are expected to bring a notebook to every class as well as a file or binder for storing handouts.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修 ( 予習・復習 ) 等】

Weekly reading preparation for class discussion. Revision for quiz and test. Research essay and final presentation will also be prepared outside of class.

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

If students have any questions or concerns about the course, they are welcome to contact the instructor directly via email at [mfhofmeyr@gmail.com](mailto:mfhofmeyr@gmail.com).

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 准教授 西谷 茉莉子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		W.B.イエイツ初期の詩を読む: アイルランド文芸復興を背景に									
【授業の概要・目的】											
<p>アイルランド文芸復興とは、19世紀後半から20世紀前半にかけて起こった、グレート・ブリテンからの精神面での独立を試みた文学・文化運動である。W.B.イエイツ(1865-1939)はその立役者であり、アイルランド国民劇場を創立したことで知られている。本講義では、文芸復興について学ぶとともに、演劇活動を本格化させるに至るまでの初期のイエイツの詩を読み解く。</p> <p>授業の前半は、イエイツ初期の詩集Crossways(1889)、The Rose(1893)、The Wind among the Reeds(1899)所収の詩作品の訳の発表とディスカッションを行う。後半では、作品と関連する社会的・政治的・文化的事象等を教員が解説する。さらに、英詩を読むために必要な知識の導入や草稿との比較などを併せて行うことで、作品への多角的なアプローチを図る。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の精読と翻訳を通じて、詩を読む力を錬成する。</li> <li>2. 作品についての口頭発表やディスカッションを通じて、詩を論じる力を身に付ける。</li> <li>3. アイルランド文芸復興に関する知識を身に付け、社会的背景と関連させながら作品を考察することができる。</li> <li>4. 英詩を読解するために必要な知識を身に付ける。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション：アイルランド文芸復興について概要を説明する。授業の進め方や準備の仕方について周知し、発表の担当を決める。</p> <p>第2回 W.B.イエイツについて</p> <p>第3回 詩集Crossways所収作品の精読</p> <p>第4回 詩集Crossways所収作品の精読</p> <p>第5回 詩集Crossways所収作品の精読</p> <p>第6回 詩集The Rose所収作品の精読</p> <p>第7回 詩集The Rose所収作品の精読</p> <p>第8回 詩集The Rose所収作品の精読</p> <p>第9回 詩集The Rose所収作品の精読</p> <p>第10回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読</p> <p>第11回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読</p> <p>第12回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読</p> <p>第13回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読</p> <p>第14回 詩集The Wind among the Reeds所収作品の精読、まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
授業計画は、状況によって変更することがあります。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業参加度(20点)、発表(30点)、レポート(50点)で総合的に評価する。

### 【教科書】

テキストや注釈等については、授業内でプリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業内で紹介する文献は積極的に手にとってください。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

毎回、一篇、あるいは二編の詩を扱う予定です。

担当者は、訳を作成して、前日までに西谷まで提出してください。

担当者以外の履修者も、作品を読んでディスカッションに備えてくること。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡先等は初回の授業でお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系140

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		広島大学 人間社会科学研究所 教授 大地 真介			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		William Faulknerの短編小説を読む									
【授業の概要・目的】											
アメリカのノーベル賞受賞作家William Faulknerの代表的短編小説“ A Rose for Emily ”と“ Dry September ”を精読することによってアメリカ文学の特質を学び、なおかつ英語の読解力を高めることが本授業の目的です。											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 . アメリカ文学を代表する作家の一人であるFaulknerの作品を熟読することにより、アメリカ文学の特質を理解する。</li> <li>2 . アメリカ文学の背景となるアメリカの文化（歴史・宗教・風俗習慣等）について学ぶ。</li> <li>3 . ノーベル賞作家Faulknerの磨き抜かれた文章を精読することにより、英語の読解力を高める。</li> <li>4 . 自らの解釈を論理的に表現する力を身につける。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>1 日目（第 1 ～ 3 回）：アメリカ文化・アメリカ文学の特質、Faulknerの略歴を説明。“ A Rose for Emily ”を読解。</p> <p>2 日目（第 4 ～ 7 回）：“ A Rose for Emily ”を読解。読了後、各自、同作品について見解を発表。</p> <p>3 日目（第 8 ～ 1 1 回）：“ Dry September ”を読解。</p> <p>4 日目（第 1 2 ～ 1 5 回）：“ Dry September ”を読解。読了後、各自、同作品について見解を発表。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
担当箇所の日本語訳（ 4 0 % ）、“ A Rose for Emily ”と“ Dry September ” についての見解発表（ 4 0 % ）、授業での質疑応答（ 2 0 % ）で総合的に評価する。											
【教科書】											
William Faulkner 『 A Rose for Emily and Other Stories 』（英宝社）ISBN:9784269020252											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

“ A Rose for Emily ” と “ Dry September ” を精読していきますが、事前に担当割の表をお送りするので、あらかじめ自分の担当箇所を和訳しておいてください。授業中にその場で訳すのではなく、事前にパソコンで日本語訳を作成してそれを授業中に読み上げてください(配布する必要はありません)。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡はメールで行います。私のメールアドレスは、ohchi@hiroshima-u.ac.jpです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Getting at constructions in World Englishes: An applied methods and theory seminar									
[授業の概要・目的]											
<p>この授業は、客員教授のMarianne Hundt先生（チューリッヒ大学）が担当の予定です。COVID-19の感染状況等により来日ができなくなった場合には、内容や使用言語等が変更になる可能性があります。</p> <p>While the core grammar of standard and standardising World Englishes (WEs) is shared, it is not a monolithic entity, but one that shows variability. Moreover, language-internal factors of variation interact with factors like text type (news vs. academic writing) or mode (speech vs. writing). From the late 1970s, WEs research has worked towards a systematic description of this diverse range of Englishes and their variable grammars. From around 1995 onwards, with the advent of computer corpora specifically compiled for the purpose of comparing (standard/acrolectal) varieties of English in their spoken and written form and across a common set of text categories, research into WEs has increasingly been corpus-based. Recently, research into WEs has further drawn on insights from construction grammar (CxG) for the study of constructions on a cline from highly idiomatic to more abstract (e.g. Goldberg 1995, 2006; Hoffmann 2021).</p> <p>The seminar will draw on material from the International Corpus of English (ICE, see Greenbaum 1996). The ICE components are standard one-million-word reference corpora of first- and second-language varieties of English sampling both spoken and written material. On the basis of a case study #8211 get-constructions #8211 students will learn how to proceed from a topic via a specific research question to data extraction, annotation and analysis to statistical modelling of the variable grammar(s). Step-by-step, easy-to-follow instructions on data retrieval and statistical analysis will be given during the course.</p>											
[到達目標]											
<p>The goal of the course is to provide a hands-on approach to practical research with corpus data from a standard corpus of WEs. Students will learn how to define the variable context (on the basis of theoretical literature), how to operationalise this for the purposes of data retrieval, and how to analyse the data with a view to the research question(s) formulated at the beginning of the seminar. They will learn to interpret the findings against the theoretical model, i.e. CxG, and reflect on variation found across WEs in the constructional network.</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Background on Construction Grammar</li> <li>3. Get-constructions in World Englishes</li> <li>4. From Topic to RQ(s)</li> <li>5. Defining the linguistic variable(s)</li> <li>6. Retrieving data on get-constructions from ICE</li> <li>7. Annotating get-constructions and inter-annotator reliability</li> <li>8. Descriptive statistics</li> </ol>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(特殊講義)(2)

9. Definition of predictor variables for multi-factorial analysis
10. Annotation of data for predictor variables
11. Background on multifactorial analysis (trees and forests)
12. Hands-on application of RF and tree analyses
13. Model validation and interpretation
14. Models and modelling: integrating theory and quantitative research results
15. Discussion of the results

### 【履修要件】

Active participation in discussions, data retrieval and analysis.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 20%,  
data analyses 30%,  
report (write-up of findings) 50%

### 【教科書】

Course materials (PDFs) will be provided ahead of the seminar.

### 【参考書等】

#### (参考書)

- Adele Goldberg 『Constructions. A Construction Grammar Approach to Argument Structure』 ( Chicago University Press, 1995 )  
Adele Goldberg 『Constructions at Work. The Nature of Generalizations in Language』 ( OUP, 2006 )  
Sidney Hoffmann (ed.) 『Comparing English Worldwide: The International Corpus of English』 ( Clarendon Press, 1996 )  
Thomas Hoffmann 『The Cognitive Foundation of Post-colonial Englishes: Construction Grammar as the Cognitive Theory for the Dynamic Model』 ( CUP, 2021 )  
Douglas Biber and Randi Reppen (eds.) 『The Cambridge Handbook of English Corpus Linguistics』 ( CUP, 2015 )  
Daniel Schreier, Marianne Hundt, Edgar Schneider (eds.) 『The Cambridge Handbook of World Englishes』 ( CUP, 2020 )

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Data retrieval and analysis.

### (その他(オフィスアワー等))

本授業はMarianne Hundt先生(チューリッヒ大学)がご担当になりますが、授業担当者の家入が補助をいたします。必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		The Old Man and the Seaを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：The Old Man and the Seaを読む</p> <p>到達目標：The Old Man and the Seaは、いわずとしたHemingwayの代表作である。読書感想文用の指定作品として挙げられることも多い本作に対する専門家の評価は、じつは結構複雑である。そこで、本授業では、前半を本作の読解に費やし、後半はだれもが傑作と認める彼の代表的短篇を5本ほど読む。果たしてThe Old Man and the Seaは名作なのか？Overratedなのか？本講座の終了時に、あらためて受講生のみなさんに考えてもらいたいと思う。</p>											
【到達目標】											
<p>アメリカ文学を代表する作品The Old Man and the Seaを通じて、アメリカ文学および文化の諸側面を捉える。</p> <p>英語で書かれた小説の読み方を学ぶ。</p> <p>小説についての鑑賞眼を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：Introduction: Hemingwayの生涯と小説論について</p> <p>第2回：The Old Man and the Sea を読む(1)</p> <p>第3回：The Old Man and the Sea を読む(2)</p> <p>第4回：The Old Man and the Sea を読む(3)</p> <p>第5回：The Old Man and the Sea を読む(4)</p> <p>第6回：The Old Man and the Sea を読む(5)</p> <p>第7回：The Old Man and the Sea を読む(6)</p> <p>第8回：The Old Man and the Sea を読む(7)</p> <p>第9回：The Old Man and the Sea を読む(8)</p> <p>第10回：“A Clean, Well-Lighted Place” を読む</p> <p>第11回：“Cat in the Rain” を読む</p> <p>第12回：“The Killers” を読む</p> <p>第13回：“Now I Lay Me” を読む</p> <p>第14回：“Fathers and Sons” を読む</p> <p>第15回：まとめ+フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表時間は25分から30分ほどの長さとする。</p>											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

する（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートはThe Old Man and the Seaおよび授業で取り上げた短編の内の一つを選んで論じること。

### [教科書]

Hemingway, Ernest 『The Old Man and the Sea』 ( Arrow Books ) ISBN:978-0099908401 ( 授業中、常時参照するのでかならずこの版を購入すること )

### [参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読まない（毎回およそ20頁から30頁ほどの分量）、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式については初回授業で説明する。

### ( その他（オフィスアワー等） )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Zora Neale Hurston, Their Eyes Were Watching Godを読む									
【授業の概要・目的】											
20世紀前半、ハーレム・ルネッサンスの時期に活躍したアフリカ系女性作家、Zora Neale Hurstonの長篇小説Their Eyes Were Watching God (1937)を読む。授業では基本的に輪読形式でテキストを丁寧に読んでいく。この形で読み切れない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに全員で話し合うことで理解を確かめる。学期末には、テーマを絞って作品を論じるレポートを提出してもらう。											
【到達目標】											
辞書等を活用しつつ文学作品を妥協なく読み解く姿勢を養うこと、英語読解の精度を高めることを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：第1章を読む 第3回：第2章を読む 第4回：第3～4章を読む 第5回：第5章を読む 第6回：第6章を読む 第7回：第7～8章を読む 第8回：第9～10章を読む 第9回：第11～12章を読む 第10回：第13～14章を読む 第11回：第15～16章を読む 第12回：第17～18章を読む 第13回：第19章を読む 第14回：第20章を読む 第15回：フィードバック (以上は予定です。)											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

### [教科書]

Zora Neale Hurston 『Their Eyes Were Watching God』（Amistad）ISBN:978-0060838676

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する  
教室で随時指示する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は全員必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会言語学入門									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Graeme Trousdale (著) のAn Introduction to English Sociolinguisticsを講読し、言語を社会という視点から観察する力を養うとともに、両者のかかわりについての理解を深めることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション											
第2回： 英語と方言											
第3回： 世界における英語の役割											
第4回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論											
第5回： 方言研究の手法と社会言語学											
第6回： 英語のスタイル											
第7回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論											
第8回： 言語変化が意味するもの											
第9回： 言語変化と社会的要因											
第10回： 言語接触全般											
第11回： ピジン・クレオール・コード切り換え											
第12回： 社会言語学と言語理論											
第13回： 言語のコミュニティーとネットワーク											
第14回： 言語計画											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### 【履修要件】

英語学英文学専修・アメリカ文学専修では、関連の授業として、Michael Hofmeyr先生の特殊講義も提供しています。アカデミックライティングの授業ですが、前期も後期も社会言語学に関する題材として扱う予定とのことです。本授業と合わせて受講すると、より理解が深まるものと思われます。要件ではありませんが、どうぞご検討ください。

### 【成績評価の方法・観点】

授業への貢献度（40％）およびレポート（60％）によって評価を行います。

### 【教科書】

Graeme Trousdale 『An Introduction to English Sociolinguistics』（Edinburgh University Press）ISBN: 0748623248

### 【参考書等】

（参考書）

Sali Tagliamonte 『Analysing Sociolinguistic Variation』（CUP）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

### 【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系145

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		William Caxtonの英語									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
William Caxtonの翻訳によるテキストParis and Vienne の講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を変化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法 第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項 第3回： Paris and Vienne の講読および初期印刷本の特徴 第4回： Paris and Vienne の講読および中英語の綴り字 第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論 第6回： Paris and Vienne の講読および中英語の語順 第7回： Paris and Vienne の講読および中英語の名詞・形容詞 第8回： Paris and Vienne の講読および中英語の代名詞全般 第9回： Paris and Vienne の講読および中英語の語彙 第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論 第11回： Paris and Vienne の講読および中英語の前置詞 第12回： Paris and Vienne の講読および中英語の副詞 第13回： Paris and Vienne の講読および中英語の助動詞 第14回： Paris and Vienne の講読および中英語の動詞 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（40％）およびレポート（60％）によって評価を行います。

### [教科書]

Early English Books Online（京都大学図書館所蔵）等を使用します。

### [参考書等]

（参考書）

Norman Davis 『Chaucer Glossary』（Oxford University Press）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

### [授業外学修（予習・復習）等]

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		21世紀英国演劇演習A									
【授業の概要・目的】											
Tom StoppardのLeopoldstadtの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ながら、現代の戯曲を自力で読めるようになる。また、劇の舞台となっている時代についての歴史的知識を通じて、一つひとつの言葉に隠された物語を構成する諸力を理解できるようになる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。</li> <li>英語の戯曲を読むことが出来るようになる。</li> <li>関心をもった事柄について、自ら進んでリサーチできる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回:イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。あわせて第3回に提出するレポートについて説明をする。</p> <p>第2回: Leopoldstadt 3-5ページの講読と討論</p> <p>第3回: 6-9ページの講読と討論</p> <p>第4回: 10-16ページの講読と討論</p> <p>第5回: 17-19ページの講読と討論</p> <p>第6回: 20-23ページの講読と討論</p> <p>第7回: 24-26ページの講読と討論</p> <p>第8回: 27-30ページの講読と討論</p> <p>第9回: 31-33ページの講読と討論</p> <p>第10回: 34-37ページの講読と討論</p> <p>第11回: 38-40ページの講読と討論</p> <p>第12回: 41-44ページの講読と討論</p> <p>第13回: 45-47ページの講読と討論</p> <p>第14回: 48-51ページの講読と討論</p> <p>第15回: 前期の授業のまとめを行う。定期試験は行わない(レポートならびに平常点による)。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点(担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加50%)にて評価する。											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### [教科書]

Tom Stoppard 『Leopoldstadt』 (Faber and Faber) ISBN:978-0571359059

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		21世紀英国演劇演習B									
【授業の概要・目的】											
Tom StoppardのLeopoldstadtの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ながら、現代の戯曲を自力で読めるようになる。また、劇の舞台となっている時代についての歴史的知識を通じて、一つひとつの言葉に隠された物語を構成する諸力を理解できるようになる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。</li> <li>英語の戯曲を読むことが出来るようになる。</li> <li>関心をもった事柄について、自ら進んでリサーチできる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。</p> <p>Leopoldstadt 52 - 54ページの講読と討論</p> <p>第2回：55 - 58ページの講読と討論</p> <p>第3回：59 - 61ページの講読と討論</p> <p>第4回：62 - 65ページの講読と討論</p> <p>第5回：66 - 68ページの講読と討論</p> <p>第6回：69 - 72ページの講読と討論</p> <p>第7回：73 - 76ページの講読と討論</p> <p>第8回：77 - 79ページの講読と討論</p> <p>第9回：80 - 83ページの講読と討論</p> <p>第10回：84 - 87ページの講読と討論</p> <p>第11回：88 - 91ページの講読と討論</p> <p>第12回：92 - 95ページの講読と討論</p> <p>第13回：96 - 99ページの講読と討論</p> <p>第14回：100 - 102ページの講読と討論。</p> <p>第15回：103 - 105ページの講読と討論。</p> <p>あわせて劇全体についてのまとめと討論を行う。</p> <p>定期試験は行わない(平常点による)。</p>											
【履修要件】											
原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回到担当者申し出て指示を受けること。											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加50%）にて評価する。

### [教科書]

Tom Stoppard 『Leopoldstadt』（Faber and Faber）ISBN:978-0571359059

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心をもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系148

科目ナンバリング		U-LET19 43544 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習II) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカの短篇小説を読む									
[授業の概要・目的]											
アメリカの現代作家Joyce Carol Oatesが編んだアメリカ短篇小説のアンソロジーを読む。20世紀前半までのアメリカ文学の全体的なパースペクティブを獲得するのが授業の主な目的である。なお、卒業論文作成のための指導も同時に行う。											
[到達目標]											
文学テキストを緻密に読み解く力を養うこと。20世紀前半までのアメリカ文学の全体像を掴み直すこと。卒業論文の作成を着実に進めること。											
[授業計画と内容]											
授業においては、Joyce Carol Oatesが編集したアンソロジーをテキストとして、毎週1篇の短篇小説を読む。授業の形式としては、あらかじめ発表当番を決めておき、その当番の報告という形を取る。スケジュールは以下の通り。 第1回 イントロダクション 第2～14回 短篇講読 第15回 フィードバック これと並行して、卒業論文作成のための指導を適宜行う。											
[履修要件]											
アメリカ文学専修4回生のみ受講可能。											
[成績評価の方法・観点]											
上記の到達目標に基づき、平常点100%で評価する。											
[教科書]											
Joyce Carol Oates (ed.) 『The Oxford Book of American Short Stories, 2nd Ed.』 (Oxford UP) ISBN:978-0199744398											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の授業で扱う作品について綿密な予習をしたうえで授業に臨むこと。同時に、卒業論文の作成に向けて計画的に努力すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系149

科目ナンバリング	U-LET19 43544 SJ36										
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(演習II) American Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 小林 久美子				
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	アメリカの短篇小説を読む										
[授業の概要・目的]											
前期の演習IIに引き続いて、アメリカの現代作家Joyce Carol Oatesが編んだアメリカ短篇小説のアンソロジーを読む。20世紀後半におけるアメリカ文学の全体的なパースペクティブを獲得するのが授業の主な目的である。なお、卒業論文作成のための指導も同時に行う。											
[到達目標]											
文学テキストを緻密に読み解く力を養うこと。20世紀後半のアメリカ文学の全体像を掴み直すこと。卒業論文の作成を着実に進めること。											
[授業計画と内容]											
授業においては、Joyce Carol Oatesが編集したアンソロジーをテキストとして、毎週1篇の短篇小説を読む。スケジュールは以下の通り。 第1回 イントロダクション 第2～14回 短篇講読 第15回 フィードバック  これと並行して、卒業論文作成のための指導を適宜行う。											
[履修要件]											
アメリカ文学専修4回生のみ受講可能。											
[成績評価の方法・観点]											
上記の到達目標に基づき、平常点100%で評価する。											
[教科書]											
Joyce Carol Oates (ed.) 『The Oxford Book of American Short Stories, 2nd Ed.』 (Oxford UP) ISBN:978-0199744398											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の授業で扱う作品について綿密な予習をしたうえで授業に臨むこと。同時に、卒業論文の作成に向けて計画的に努力すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
卒業論文ドラフトについての面接指導の曜日・時間については、受講生と相談の上決定する。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系150

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 森 慎一郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Fitzgerald, The Last Tycoonを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀前半を代表するアメリカの小説家の一人、F. Scott Fitzgerald (1896-1940)の遺作、The Last Tycoon (1941)を読む。未完ながらもハリウッド小説の傑作と呼ばれるこの作品を、参加者間で意見を交わしながら輪読形式で丁寧に読み進めたい。この形で読みきれない範囲については、受講者の当番制でその内容、問題点等について簡単に報告してもらい、それをもとに全員で話し合うことで理解を確かめる。学期末には、テーマを絞って作品を論じるレポートを提出してもらう。</p>											
【到達目標】											
<p>丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画            第1回：イントロダクション            第2回：第1章を読む(1)            第3回：第1章を読む(2)            第4回：第1章を読む(3)            第5回：第2章を読む            第6回：第3章を読む(1)            第7回：第3章を読む(2)            第8回：第4章を読む(1)            第9回：第4章を読む(2)            第10回：第5章を読む(1)            第11回：第5章を読む(2)            第12回：第5章を読む(3)            第13回：第6章を読む(1)            第14回：第6章を読む(2)            第15回：フィードバック            (以上は予定です。)</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

### [教科書]

F. Scott Fitzgerald 『The Last Tycoon』（Penguin Classics）ISBN:9780141185637

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系151

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Edgar Allan Poeの短編を読む									
【授業の概要・目的】											
Edgar Allan Poeの短編は、日本でも愛読者が多い。前知識ゼロで読んでも面白い作品揃いだ。当時流布していた疑似科学的言説や人種表象など、19世紀米国社会に蔓延していたイデオロギーを巧みに取り込んだ作品群であることを知ると、いっそうPoeの天才ぶりが身にしみて分かるだろう。											
【到達目標】											
Edgar Allan Poeの代表的短篇の講読を通じて、19世紀米国文化を学ぶ 英語で書かれた小説の読解法を学ぶ											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション--Edgar Allan Poeの生涯と作品受容について 第2回：MS. Found in a Bottle 講読 第3回：Ligeia 講読 第4回：The Man that was Used Up 講読 第5回：The Fall of the House of Usher 講読 第6回：William Wilson 講読 第7回：The Man of the Crowd 講読 第8回：The Murders in the Rue Morgue 講読 第9回：The Mask of the Red Death 講読 第10回：The Tell-Tale Heart 講読 第11回：The Gold-Bug 講読 第12回：The Black Cat 講読 第13回：The Purloined Letter 講読 第14回：The Facts in the Case of M. Valdemar 第15回：まとめ+フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントはPandAにアップロードする。発表は担当作品に関するもので、25分から30分ほどの長さとする。残りの時間は参加者全員によるディスカッションに充てられる。読まずに授業に参加した場合、欠席扱いとなるので注意すること。											
【教科書】											
Poe, Edgar Allan 『The Fall of the House of Usher and Other Writings: Poems, Tales, Essays, and Reviews (Penguin Classics)』 (Penguin Classics) ISBN:978-0141439815 (随時参照するので、必ずこの版を入											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

手すること)

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎授業、全員参加のディスカッションを行うので、予習は必須である。発表とレポートの形式については授業内で詳細を説明する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系152

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代英国演劇講読									
【授業の概要・目的】											
Alan Ayckbourn作Confusionの精読を通じて、英語の戯曲の読み方の基本を身につけるとともに英国演劇とその言語についての理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語による戯曲テキストの特徴を理解し、自力で読めるようになる。</li> <li>・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 現代英国演劇について概説を行う。あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 戯曲の精読と内容についての討論。</p> <p>場面ごとの難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね2頁程度を読み進めることになる。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
2-4回生を対象とした講読の授業											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点にて評価する。正当な理由なく2回欠席した場合は、以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。											
【教科書】											
Alan Ayckbourn 『Confusions』 ( Bloomsbury, 2017 ) ISBN:9780713685510 ( Methuen Drama Student Edition )											
【参考書等】											
( 参考書 ) 授業中に紹介する											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											



アメリカ文学(講読)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予め辞書（特に英英辞典）を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Klara and the Sun 購読 2									
【授業の概要・目的】											
Kazuo IshiguroのKlara and the Sun (2021)の精読を通じて、その作家の語彙や文体、表現技法に習熟しながら、テキストの記述を支えている歴史的・文化的背景を考察する。同作はIshiguroによるノーベル賞受賞後の第一作であり、AIを搭載したロボットが一人称で語る実験的な小説である。人間や動物の生活空間のなかに応答機能や知能をもった機械が同居するようになった今、同小説は大きなアクチュアリティをもつ。本講義では、人工知能を搭載した機械の知覚と内受容感覚を模した語りの仕掛けに着眼しつつ、近年興隆している感情史の文脈からAIと共生する世界の問題を考察する。											
【到達目標】											
(1) 文学テキストの言葉を文化や歴史と関連づけて理解し、それを自身の知と結びつけて説得的に説明することができる。 (2) 文学テキストの読解を通じて各自の興味・関心を発展させ、有益で適切な学術的資料・文献を見つけることができる。 (3) 先行研究と自身の関心をもとに文学テキストの読解を行うなかで、ものの見方を変える視点をもつことができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 作者と作品についての解説と、時代背景の概説、関連文献の紹介を行い、今後の演習の進め方について説明する。											
第2-15回 テキストの精読 担当部分を割り振り、受講者の発表を通じてディスカッションを行う。おおよそ2回の授業で一部を読み進め、学期末までにPart 6までを読み終わる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点(50%)とレポート(50%)で総合的に評価する。											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(講読)(2)

### [教科書]

Kazuo Ishiguro 『Klara and the Sun 』 ( Knopf, 2021 ) ISBN:978-0593318171

### [参考書等]

( 参考書 )  
授業中に紹介する

### [授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]

予習として、Oxford English Dictionary及び授業中に指定する注釈書・論文等を参照しながら、原文の一字一句も疎かにせず、どの一語にも未だ知られざる事実と解釈が眠っていると想定して、その意味とテキストにおける役割を考察すること。復習としては、当該授業回で扱った範囲を読み返すことに加え、特に関心のもった語句や事象を発展的に理解するための関連文献調査を行い、自身の自由な関心を育てること。

### ( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーは火曜13:00から14:30までとする。研究室を訪れる場合は、あらかじめメールで連絡をすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系154

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度前期はShakespeare(1564-1616)によるsonnet作品を読む。</p> <p>第1回：導入。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力(intercultural competence)</li> <li>・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質</li> <li>・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること</li> <li>・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違</li> <li>・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果</li> <li>・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違)</li> <li>・rhymeの技法とその表現法の由来と影響</li> <li>・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け</li> <li>・散文と韻文との相違</li> <li>・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質</li> <li>・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響</li> <li>・英語史上における異文化交流の実例</li> <li>・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき</li> </ul> <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(講読)(2)

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験（あるいはレポート試験）の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

### [教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

岡村真紀子他(編)『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』（英宝社）ISBN:9784269060387、9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

### [授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

### （その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度後期は、Sir Thomas Wyatt (1503-42)、Earl of Surrey (1517-47)、Sir Walter Raleigh (1552-1618)、Donne (1572-1631)、Wordsworth (1770-1850)、Coleridge (1772-1834)、Keats (1795-1821)、Alfred, Lord Tennyson (1809-92)、Dante Gabriel Rossetti (1828-82)、Hopkins (1844-89)、Dylan Thomas (1914-53)による多様なsonnet作品を読む。</p> <p>第1回：導入。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間能力(intercultural competence)</li> <li>・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質</li> <li>・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること</li> <li>・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違</li> <li>・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果</li> <li>・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違)</li> <li>・rhymeの技法とその表現法の由来と影響</li> <li>・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け</li> <li>・散文と韻文との相違</li> <li>・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質</li> <li>・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響</li> <li>・英語史上における異文化交流の実例</li> <li>・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき</li> </ul> <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(講読)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験（あるいはレポート試験）の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

### [教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

岡村真紀子他(編)『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』（英宝社）ISBN:9784269060387、9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

### [授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

### （その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.											
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.											
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 " Inui Mitsutaka, Shrine Priest. "											
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three " City of Buddhism " pp. 37-59.											
5. Mt. Hiei, " Mother Mountain of Japanese Buddhism, " and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 " Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. " Assigned Viewing: " The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, " Journeyman Pictures ( <a href="http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A">http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A</a> ).											
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five " City of Zen " pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 " Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ' in Temple. "											
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples											
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ' s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ' s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: " Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project " ( <a href="https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc">https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc</a> ).											
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji Reading: " Chionji " (handout)											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											



## アメリカ文学(外国語実習)(2)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan  
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures  
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures  
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions  
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)  
Written assignments (25%)  
Class presentations (30%)  
Review test (25%)

### 【教科書】

All readings will be posted on Panda.

### 【参考書等】

(参考書)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系157

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film "Water, the Lifeblood of Kyoto" (<a href="http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P">http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P</a>).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 "Dry Landscapes"; pp. 133-138 "Tea Garden" "Tea Room".</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, "The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan" (2011, <a href="http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research">http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research</a>)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, "Machiya Townhouses" (<a href="https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses">https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses</a>); Kyoto Machiya Revitalization Project (<a href="http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/">http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/</a>).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film "Traditional Skills in the Kyoto State Guest House" (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p> <p>9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls</p>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(外国語実習)(2)

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

### 【教科書】

All readings will be posted on Panda.

### 【参考書等】

( 参考書 )

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Readings and discussion questions will be assigned for each class.

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

-----  
アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(3)

オフィスパワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - 100 Years of Assimilation									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. The second wave, in the 1950's, were those written by the 'Beat' poets in the U.S.A. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the history of the genre using reading texts and examples. (In the second semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku!) Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. Students will anthologise and critique their selection of the best American and British haiku during the first semester and present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Origins in Japan and literary ground in UK and USA</li> <li>3. Oriental translations</li> <li>4. Orientalism</li> <li>5. Imagism</li> <li>6. Western view of Zen</li> <li>7. Beat poets</li> <li>8. 1960s</li> <li>9. Haiku Society of America</li> <li>10. British Haiku Society</li> <li>11. World Haiku</li> <li>12. Haiku radio</li> <li>13. Haiku in other Western media</li> <li>14. Internet haiku (and critiqued anthology reports)</li> <li>15. Future of world haiku (and critiqued anthology reports)</li> </ol>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(外国語実習)(2)

### 【履修要件】

Active participation in our online class.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,  
tests 10%,  
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

### 【教科書】

使用しない

Teaching texts for each lecture (with poem examples) will be provided by the teacher and posted as pdf files on the class PandA site.

### 【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Handbook』 ISBN:0070287864

Kacian, J., Rowland, P. & Burns, A. 『Haiku in English: the First Hundred Years』 ISBN:9780393239478

Gill, Stephen Henry 『From the Cottage of Visions - Genjuan Haibun』 ISBN:9784990082291

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarize themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher via the class PandA page by or before the 14th class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - Characteristics									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku! Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at cultivating the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. During the semester, students will choose one characteristic of English haiku (e.g. punctuation, lineation, Western season words) for their special attention and, illustrating their ideas with their own researched haiku examples, present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural and linguistic comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature. This course may also help develop seasonal consciousness.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and links from last semester</li> <li>2. Japanese and English: linguistic differences</li> <li>3. pond frog plop!</li> <li>4. Lineation, translation workshop</li> <li>5. Break, image contrast (cf. famous poets' work)</li> <li>6. Seasons in English Haiku I: spring</li> <li>7. Seasons in English Haiku II: summer</li> <li>8. Seasons in English Haiku III: autumn</li> <li>9. Creating an English haiku, composition workshop</li> <li>10. Seasons in English Haiku IV: winter</li> <li>11. Seasons in English Haiku V: all/no season</li> <li>12. Humour and influence of senryu on US/UK haiku</li> <li>13. Haiku 'moment' and hints on researching examples</li> <li>14. Rensaku, rengay and report preparation/submission</li> <li>15. Haibun and report preparation/submission</li> </ol>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

## アメリカ文学(外国語実習)(2)

### 【履修要件】

Active participation in class.

### 【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,  
tests 10%,  
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

### 【教科書】

使用しない

Handouts will be provided by the teacher in every class.

### 【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Seasons』 ISBN:9781933330655

Higginson, William J. 『Haiku World』 ISBN:4770020902

Gill, Stephen Henry 『Enhaiklopedia』 ISBN:4990082222

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ラシーヌ『ミトリダート』研究									
【授業の概要・目的】											
<p>フランス古典悲劇を代表する作家ラシーヌJean Racine (1639-1699) がローマ史を題材として創作した『ミトリダート』(Mithridate, 1673) を取り上げ、悲劇ジャンルと歴史との関係、悲劇の劇作法、およびラシーヌ悲劇の特質について考察する。</p> <p>ラシーヌとともに17世紀を代表する劇作家であるコルネイユはすでに悲劇『ニコメード』(1651)においてローマ帝国の覇権への反抗者を主人公にすることで、ローマ帝国を「外から描く」ことを試みていた。ラシーヌの『ミトリダート』も同様の試みであるといえるが、コルネイユによって定式化された「政治悲劇」 政治的論理と私的論理との葛藤、権力をめぐる抗争劇 をラシーヌがどのように受け継ぎ、またどのように改変したかを検証することによって、コルネイユ劇とラシーヌ劇の特質を比較することを試みる。</p>											
【到達目標】											
フランス古典悲劇の劇作法を理解する。フランス古典悲劇を代表する作家であるコルネイユとラシーヌの作品の特質を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下のようなプランで授業を進める予定である。											
第1週 イン트로ダクション フランス17世紀悲劇の流れ											
第2～3週 フランス17世紀の「ローマ悲劇」 - ロトルー、コルネイユの場合											
第4週 ラシーヌの「ローマ悲劇」											
第5週 『ミトリダート』の創作経緯、初演、受容											
第6～第13週 『ミトリダート』の読解											
第14週 まとめ ラシーヌ作品における『ミトリダート』の位置											
第15週 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表(20%) および期末レポート(80%)											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

プリント等を配布する

**[参考書等]**

(参考書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		マラルメとフランス現代思想									
【授業の概要・目的】											
<p>フランス象徴主義の代表的詩人であるステファヌ・マラルメは20世紀の文学のみならず思想・哲学に対しても大きな影響を与えたことで知られています。たとえば、フーコーの60年代の記念碑的著作『言葉と物』（1966）の結論部分には、近代的な「人間」の「終焉」を予見させる存在としてニーチェに並んでマラルメの名前が挙げられていました。この授業では、マラルメのテクストを具体的に読解する一方で、その今日における反響をランシエール、バディウ、メイヤスといった現代思想の哲学者たちのうちに探っていきます。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。</li> <li>・複雑な構文、豊富な語彙をもつテクストをある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。</li> <li>・文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>イントロダクション 授業の概要、進め方、分担割り当て  Mallarmé, À la nue accablante tu (p. 44)原文講読 + Marchal  Mallarmé, Un coup de dés原文講読 1 : 367-377  詩の構文についてはMarchal, p. 289-293参照  Mallarmé, Un coup de dés原文講読 2 : 378-387  Marchal, Lecture de Mallarmé, Un coup de dés...原文講読 : p. 269-279  Marchal, Lecture de Mallarmé, Un coup de dés...原文講読 : p. 279-288  中間まとめ  Rancière, Le poète chez le philosophe : Mallarmé et Badiou 原文講読 1  Rancière, Le poète chez le philosophe : Mallarmé et Badiou 原文講読 2  Rancière, Le poète chez le philosophe : Mallarmé et Badiou 原文講読 3  Rancière, Le poète chez le philosophe : Mallarmé et Badiou 原文講読 4  Rancière, Le poète chez le philosophe : Mallarmé et Badiou 原文講読 5  カント・メイヤス - 「『賽の一振り』あるいは仮定の唯物論的神格化」(熊谷謙介訳、『亡霊のジレンマ 思弁的唯物論の展開』所収) 講読  定期試験  フィードバック</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

フランス語文法の概要を習得し一定の読解力を持っていること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点50%、定期試験50%

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

詩篇についてはBertrand MarchalのLectures de MallarméおよびPierre Citronによる註解を参考書として精読します。詩篇も哲学者のテキストも、それぞれ担当を決めて訳読していきますが、担当者以外も必ず予習をして授業に臨んでください。「読み合わせ」の機会は外国語の読解力を獲得するうえで極めて重要です。予習をするなかで自分なりに問題点を洗い出し、「ひとりでも読んで・調べて分かること」と「ひとりでは分からないこと」を腑分けして自覚できるようになることは、文学研究だけでなく、社会人となっても広く役に立つはずです。

### (その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 佐藤 淳二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「ルソーの時代」とは何か？（１）：ルソーとデリダ									
【授業の概要・目的】											
ジャン＝ジャック・ルソーの思想と作品は、18世紀以降現代に至るまで広範な領域で深い影響を与えてきた。特に彼の音楽と言語をめぐる思考は、声と文字をめぐる現代の根源的な問題意識においても、いまだわれわれに呼びかけることを止めていない。ここでは、ルソーのいくつかのメジャー作品（『不平等起源論』『社会契約論』『エミール』）の概要に触れ、さらにいくつかのマイナー作品（『言語起源論』『ダランベール氏への手紙』など）を通じて、「ルソーの時代」の特色を考察する。「ルソーの時代」を独自の哲学によって描き出したジャック・デリダの読解を参照しないわけには、もはやいかない。いまや古典的ともいえる読解『グラマトロジーについて』にも論及しつつ、われわれと「ルソーの時代」との関係を考えていく。											
【到達目標】											
この講義を通じて、近代フランスを代表する思想家・文学者であるジャン＝ジャック・ルソーのテキストに直接触れると共に、18世紀の文脈と、その20世紀における受容の大筋を理解することができる。古典的テキストへのアプローチと同時に、その哲学的な読解にも習熟することができる。											
【授業計画と内容】											
講義の概要 1) 「時代」とは何か？ 導入として、自然と人工、時間と歴史などの対立の中に、「時代」の意味を考える。（1-3回）； 2) 「ルソー」とは誰か？ ルソーの理論的著作の概要を論じる。（4-9回）； 3) 「ルソーの時代」とは何か？ デリダのルソー読解を考える。その理解に必要な最低限の範囲で、デリダの諸概念も考察する。（10-13回）； 4) 質疑と討論を行う。（14-15回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（70%）、授業内での発言（30%）を組み合わせ、6段階で評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業でとりあげた参考書や論文を、できるだけ読むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィス・アワー登録参照 KULASISを通じてメールにて事前連絡・予約などをお願いしたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系163

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		Les contes de Perrault : lectures, usages et réécritures									
【授業の概要・目的】											
<p>Les contes de Charles Perrault constituent un apport majeur pour l'histoire littéraire, tant les personnages, les récits et les discours moraux contenus dans cette œuvre nourrissent l'imaginaire et les représentations contemporaines. Une analyse fine des textes permettra de dégager les enjeux esthétiques et éthiques de cette écriture aussi naïve et enjouée que cruelle. Le cours veillera aussi à situer cette œuvre dans son contexte socio-historique de parution, notamment en montrant sa place dans la Querelle des Anciens et des Modernes, et en mettant en visibilité l'importance de la production contemporaine de contes par les auteurs et autrices des XVIIe et XVIIIe siècles. Une grande part du cours sera consacrée aux enjeux de réception des contes, à travers ses illustrations et mises en scène, ses interprétations dans différentes disciplines des sciences humaines et sociales (anthropologie, psychanalyse et études de genre) et ses réécritures.</p>											
【到達目標】											
<p>Ce cours permettra aux étudiants d'enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises, tout en se familiarisant avec différentes méthodes d'analyse littéraire.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Introduction générale. (séance 1) Analyse littéraire, histoire littéraire, histoire de la réception, analyse d'images, littérature françaises du XVIIe siècle, littérature des XXe et XXIe siècles. (séances 2-14) La semaine 15 sera dédiée à un moment d'échange. (feedback)</p>											
【履修要件】											
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants désireux d'approfondir leur connaissance de la culture françaises. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Les connaissances seront évaluées par contrôle continu. La note finale tiendra compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation lors des séances.</p>											
【教科書】											
<p>Le cours s'appuie sur un travail de lecture régulier en français d'œuvres du XVIIe siècle (Perrault, Marie-Catherine d'Aulnoy, etc.) et d'œuvres des XXe-XXIe siècles (Joel Pommerat, Tahar Ben Jelloun, Nelly Arcan, Tiphaine D., etc.). Les textes seront fournis par l'enseignante.</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

Environ 15-20 pages seront données à lire chaque semaine. Un dossier personnel sera à rédiger sur un conte au choix et sur ses réécritures.

**（その他（オフィスアワー等））**

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 佐藤 淳二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>ジャン＝ジャック・ルソーの思想と作品は、18世紀以降現代に至るまで広範な領域で深い影響を与えてきた。特に彼の音楽と言語をめぐる思考は、声と文字をめぐる現代の根源的な問題意識においても、いまだわれわれに呼びかけることを止めていない。ここでは、ルソーのいくつかのメジャー作品（『不平等起源論』『社会契約論』『エミール』）の概要に触れ、さらにいくつかのマイナー作品（『言語起源論』『ダランベール氏への手紙』など）を通じて、「ルソーの時代」の特色を考察する。「ルソーの時代」とジャック・デリダの読解を行った前期に引き続き、フーコーの古典的なルソー読解（『対話』への序文）を振り返り、併せて、「古典時代」という「時代」の狂気をめぐるフーコーとデリダの有名な論争を考える。そのうえで、ルソーの「自伝」諸作品（『対話』はもちろん、『告白』『孤独な散歩者の夢想』）の現代的な意味を考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>この講義を通じて、近代フランスを代表する思想家・文学者であるジャン＝ジャック・ルソーのテキストに直接触れると共に、18世紀の文脈と、その20世紀における受容の大筋を理解することができる。古典的テキストへのアプローチと同時に、その哲学的な読解にも習熟することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>講義の概要 1) 「自伝」とは何か？ルソーにおいて自己はいかにして問題となったのか。自伝を書くとはどのような行為なのかという問題についての導入的議論を行う。（1－3回）； 2) フーコーのルソー『対話』読解について。（4－7回）； 3) 「古典主義時代の狂気」についてのフーコーとデリダの論争。何が問題だったのか？（8－13回）； 4) 自伝、自己、主体というテーマを考えて、討論を行う。（14－15回）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（70%）、授業内での発言（30%）を組み合わせ、6段階で評価する。											
【教科書】											
ルソーのテキストなどは、必要に応じてプリントして配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業でとりあげた参考書や論文を、できるだけ読むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィス・アワー登録するけれども KULASISを通じてメールにて事前連絡・予約などをお願いしたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系165

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プルースト『ゲルマントのほう』を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>マルセル・プルースト(1871-1922)の小説『失われた時を求めて』第3篇『ゲルマントのほう』第2部(1921年刊行)第2章は、第1章で描かれた祖母の死を経て、性的欲望、友情、スノビズム、人種、同性愛、歴史等のテーマが複雑に絡み合う二つの夕食会を通し、主人公が象徴的に脱ユダヤ化され、キリスト教貴族社会の閉鎖的社交圏へと参入してゆく様子を描いている。本授業では、この二つの場面を、その着想源、生成過程、文体、作品全体の構造等に注目しながら多角的に読解することで、文学作品と社会・歴史との関係を考察するとともに、プルーストに特有の小説技法を浮かび上がらせる。</p>											
[到達目標]											
<p>文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の歴史的文脈にしたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判能力を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>授業は以下のプランに即して進められる。          第1回 『ゲルマントのほう』の概要、生成過程を解説。          第2回～第15回 『ゲルマントのほう』第2部第2章を講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの初期作品や書簡、草稿資料、同時代の他の作品や新聞雑誌等の文献と照合しながら解説を加える。</p>											
[履修要件]											
フランス語文献を読む能力が必要とされる。											
[成績評価の方法・観点]											
<p>レポート(一回、100点満点、60点以上で合格)          到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
[教科書]											
授業中にプリント等を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に別途指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ステファヌ・マラルメ「詩と散文」II(2022)									
【授業の概要・目的】											
<p>昨年度より開始したステファヌ・マラルメの詩と散文を精読する授業です。昨年度からの継続ですが、個々の詩篇・テキストは独立したものですので、今年度からの受講でもまったく問題ありません。</p> <p>マラルメはフランス象徴主義の代表的な存在で、抒情的主体の表現を基本とするロマン主義の後を受けて、むしろ詩における発話主体の消滅や言語の非人称性にきわめて自覚的であった詩人でした。と同時に、『ディヴァガシオン』に収められた散文(「批評詩」)は、演劇やバレエ、見世物から穴掘りの労働者にいたるまで、同時代の社会事象に着目し、それを散文的な詩篇にまで高めたものとして知られています。詩・散文とも19世紀にとどまらず、20世紀に入ってから、ヴァレリーからサルトル、ブランショを経てデリダ、ランシエール、メイヤスと、現在にいたるまで大きな影響を与え続けています。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。</li> <li>・複雑な構文、豊富な語彙をもつテキストをある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。</li> <li>・文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>イントロダクション 授業の概要、進め方、分担割り当て</p> <p>Le Guignon Renouveau Brise marine Hérodiade - Scène (1) + Marchal Hérodiade - Scène (2) + Marchal Ouverture ancienne d' Hérodiade (1) + Marchal Ouverture ancienne d' Hérodiade (2) + Marchal Cantique de Saint Jean + Marchal 中間まとめ Sainte + Marchal Quand l' ombre menaçait... + Marchal Autre éventail de Mlle Mallarmé + Marchal まとめ 期末試験 フィードバック</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

フランス語文法の概要を習得し一定の読解力を持っていること。

**[成績評価の方法・観点]**

平常点50%、期末試験50%

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

詩篇についてはBertrand MarchalのLectures de MallarméおよびPierre Citronによる註解を参考書として精読します。それぞれ担当者を決めて訳読していきますが、担当者以外も必ず予習をして授業に臨んでください。「読み合わせ」の機会が外国語の読解力を獲得するうえで極めて重要です。予習をするなかで自分なりに問題点を洗い出し、「ひとりでも読んで・調べて分かること」と「ひとりでは分からないこと」を腑分けして自覚できるようになることは、文学研究だけでなく、社会人となっても広く役に立つはずで

**(その他(オフィスアワー等))**

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		フランス16世紀文学研究：プレイヤッド派の詩									
【授業の概要・目的】											
<p>フランスの16世紀は、中世から近代へと至る過程にあって、言語的・文学的にも宗教的・思想的にも極めて大きな変革を経験した時代である。著作家たちは、この時代特有の雑多にして豊潤、そして極めて柔軟なフランス語を縦横に駆使して、多彩で豊かな作品を数多く生み出した。本講義ではそうした16世紀文学の動向を象徴するプレイヤッド派の詩人の作品を様々な角度から読み解いていきたい。彼らがどのような詩の概念を持ち、詩人をどのような存在として捉え、どのような過去の作品を模範とし、どのような題材を扱い、そしてどのような言語形式を用いて作品を練り上げていったかを、原典を精読しつつ論じていきたい。具体的なテキストとしては、プレイヤッド派の中心的存在であったロンサールと、幼い時からの学友であり良きライバルでもあったジャン＝アントワーヌ・ド・バイフの作品を中心に扱う。</p>											
【到達目標】											
<p>プレイヤッド派を中心に16世紀フランス詩についての知見を深め、その文学史的意義を理解するとともに、それを同時代の他のヨーロッパ文学と比較して考察することができるようになる。現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語の語彙と文法（とりわけ統語法）に関する基礎知識を習得するとともに、テキストをより正確に読み解く上で有用な各種参考文献の活用の仕方を学び、文献の読解に取り組むために必要な能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回	フランス16世紀文学とプレイヤッド派 - 若き詩人たちの学び：ジャン・ドラとコクレ学寮										
第2回	ギリシアの響き1 オード										
第3回	ギリシアの響き2 古典悲劇										
第4回	ギリシアの響き3 ヘレニズム詩										
第5回	恋愛叙情詩1										
第6回	恋愛叙情詩2										
第7回	恋愛叙情詩3										
第8回	自然学と詩1										
第9回	自然学と詩2										
第10回	自然学と詩3										
第11回	政治および宗教と詩1										
第12回	政治および宗教と詩2										
第13回	政治および宗教と詩3										
第14回	政治および宗教と詩4										
第15回	プレイヤッド派における詩の概念										
----- フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点(40%)と学期末のレポート(60%)で、成績を評価する。  
授業で学ぶテキスト読解上の基本事項を踏まえているか、またその上で自分なりの解釈を説得的に示しているかを評価する。

**【教科書】**

教材プリントを配布する。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系168

科目ナンバリング		U-LET21 33645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to introduce students to French contemporary society and culture while increasing their conversation ability. It will address cultural, social and political issues. Various documents will be used, such as articles, movies, podcasts, documentaries, songs, etc. Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- develop a deeper understanding of French contemporary society and culture</li> <li>- explore intercultural issues</li> <li>- engage in critical thinking and debate with others</li> <li>- improve their argumentative skills</li> <li>- gain confidence and experience in public speaking</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes, through written and visual documents (weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>This course uses a project-based pedagogy. Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts, but also listening carefully to others and asking questions. The students will be evaluated through continuous assessment : this includes oral participation, interaction with the others, but also oral presentation in front of the class.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											



フランス語学フランス文学(演習)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Regular readings before class will be required.

**(その他(オフィスアワー等))**

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系169

科目ナンバリング		U-LET21 43647 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習II) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也 文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文演習									
[授業の概要・目的]											
研究論文を読み、様々な文学批評の方法について理解を深めると同時に、卒業論文の準備として文献調査の方法や論文作成の方法を習得する。											
[到達目標]											
フランス語学フランス文学についての卒業論文を作成するための基本的方法を理解し、文献調査や論文執筆に必要な基礎力を養う。											
[授業計画と内容]											
文学理論や批評のテキストの抜粋を読むことで、抽象的なテキストの読解力を高め、同時に様々な文学批評の方法について理解を深めるとともに、文献調査の方法などを学ぶ。 第1回 授業の趣旨説明 第2回～第5回 文献調査の方法、学术论文などの講読 第6回～第10回 口頭発表 各人が卒業論文の計画を発表し、全教員と受講者で討議を行う 第11回～第15回 課題研究 発表で指摘された問題点の改善、さらなる文献調査などを行う											
[履修要件]											
本年度に卒業論文を提出する予定であること。 フランス語学フランス文学専修の4回生にとっては必修科目。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系170

科目ナンバリング		U-LET21 43647 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習II) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也 文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文演習									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の中間発表を定期的に行う。その都度進捗状況に応じてテーマ、論点、参考文献などについてアドバイスを受け、自らもさらに考え直しながら、論文の完成を目指す。											
[到達目標]											
各自が自分のテーマを明確化し論点を整理した上で、実際の執筆にあたり、論文を完成する。											
[授業計画と内容]											
卒業論文執筆のための個人指導と定期的な進捗状況の発表にあてる 第1ー第5週 口頭発表 各人が卒業論文の計画を発表し、全教員と受講者で討議を行う 第6ー第10週 課題研究 発表で指摘された問題点の改善、さらなる文献調査などを行う 第11ー第15週 執筆とブラッシュアップ 個人指導と並行して、各人がさらに詳しい発表を行い、論文完成を目指す フィードバック 卒業論文の試問を行う											
[履修要件]											
本年度に卒業論文を提出する予定であること。 卒業論文演習 を履修していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により評価する											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習I) French Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction à l'analyse des textes littéraires									
【授業の概要・目的】											
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、テキスト解釈法 explication de texte やコメンタリー執筆 commentaire composéを通じてフランス文学の研究方法の入門指導をする。											
【到達目標】											
文学的テキストの分析手法やコメンタリー執筆の手順を身につけることによってフランス文学研究の基本的な技法を身につけることをめざす。											
【授業計画と内容】											
第1回	イントロダクション	テキスト解釈法 explication de texte の方法									
第2回	イントロダクション	コメンタリー執筆 commentaire composé の手順									
第3回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(1)									
第4回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(2)									
第5回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(3)									
第6回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(4)									
第7回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(5)									
第8回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(6)									
第9回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(7)									
第10回	中間レポートのフィードバック										
第11回	コメンタリー執筆の実際	分析結果の文章化(1)									
第12回	コメンタリー執筆の実際	分析結果の文章化(2)									
第13回	コメンタリー執筆の実際	分析結果の文章化(3)									
第14回	口頭発表										
第15回	フィードバック										
【履修要件】											
中級程度のフランス語の語学力が必要。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(授業での発表と課題の提出)が重視される(60%)。そのほかに、中間レポート、学期末レポート、口頭発表が課される(40%)。											
----- フランス語学フランス文学(演習I)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

平常点が重視されるので、次回授業分の予習を全員がすることが求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修科目である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学（演習I） French Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction à l'analyse des textes littéraires									
【授業の概要・目的】											
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、批評的文章の和訳・要約を通じてフランス文学の研究方法の入門指導をする。 フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修の授業。											
【到達目標】											
文学的テキストの分析手法を身につけること、中級程度のフランス語で書かれたフランス文学に関する研究文献を読めるようになること。											
【授業計画と内容】											
批評的文章や研究書・研究論文の読解への入門を行う。文学研究において重要となる概念や理論、あるいは文学史に関する論文を読解の対象とし、和訳や要約のプロセスを通して内容の理解を目指すとともに、アカデミックな文体のフランス語の読み方を学ぶ。卒業論文準備の過程でフランス語の研究文献を参照する際に、内容を正確に理解するための訓練ともなる。授業は以下のプランに沿って進める。											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 文学批評テキストの抜粋を和訳（1）											
第3回 文学批評テキストの抜粋を和訳（2）											
第4回 文学批評テキストの抜粋を和訳（3）											
第5回 文学批評テキストの抜粋を和訳（4）											
第6回 文学批評テキストの抜粋を和訳（5）											
第7回 文学批評テキストの抜粋を要約（1）											
第8回 文学批評テキストの抜粋を要約（2）											
第9回 文学批評テキストの抜粋を要約（3）											
第10回 文学批評テキストの抜粋を要約（4）											
第11回 受講者による発表（1）											
第12回 受講者による発表（2）											
第13回 受講者による発表（3）											
第14回 受講者による発表（4）											
第15回 受講者による発表（5）											
【履修要件】											
中級程度のフランス語の語学力が必要。											
----- フランス語学フランス文学（演習I）(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

**【成績評価の方法・観点】**

平常点評価

**【教科書】**

授業中にプリント等を配布する。

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

平常点が重視されるので、次回授業分の訳読の予習を全員がすることが求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系173

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		フランス文学の古典を読む									
[授業の概要・目的]											
フランス18世紀の作家・思想家ルソー（Jean-Jacques Rousseau, 1712-1778）晩年の自伝的作品『孤独な散歩者の夢想』Les Rêveries du promeneur solitaire（1782）の抜粋を精読する。											
[到達目標]											
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第15回 音読も重視しつつ、訳読を進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。											
[履修要件]											
受講者には丁寧な予習と授業への積極的な参加が求められる。											
[成績評価の方法・観点]											
授業での発表（90%）と期末課題（10%）											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
テキストの音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業内での積極的な質問を歓迎する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



## 西洋文化学系174

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36											
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語	
題目	シャルリュス男爵の肖像：人物描写を通して読むプルースト											
[授業の概要・目的]												
小説家マルセル・プルースト(1871-1922)の代表作『失われた時を求めて (À la recherche du temps perdu)』(全7篇, 1913-1927年刊行)のなかから、同性愛、サドマゾヒズム、反ユダヤ主義、対独敗北主義などのテーマを体現する主要人物、シャルリュス男爵が登場する代表的場面を取り上げ、フランス語原典で精読する。必要に応じて関連する同時代の文献も併読する。												
[到達目標]												
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。												
[授業計画と内容]												
該当場面をフランス語原文で、音読も重視しつつ丁寧に読み進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。授業は以下のプランに沿って進める。												
第1回 イントロダクション(作者と作品の紹介。授業の進め方の説明) 第2回~第14回 Marcel Proust, À la recherche du temps perdu, Paris, Gallimard, "Bibliothèque de la Pléiade", 4 vol. 1987-1989 の抜粋をフランス語原典で精読 第15回 総括												
[履修要件]												
受講者には丁寧な予習が求められる。												
[成績評価の方法・観点]												
平常点評価												
[教科書]												
プリントを配布する												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
単語の発音および構文の把握。また未習の語彙、表現、固有名を辞書等で調べておくこと。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 柴田 秀樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ミシェル・フーコーの対談"Le beau danger"を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、20世紀フランスの思想家ミシェル・フーコーに関する基礎的な知識を身につけ、フランス語の読解能力を高める目的で、1968年に行われたフーコーとクロード・ボンヌフォワの対談"Le beau danger"を精読する。フーコーは生前にさまざまな思想家・批評家と対談を行ったが、その中でも本対談は、フーコー自身の生涯と「エクリチュール」との関係について率直かつ詳細に語られている点で注目に値する。またフーコーが対談に先立つ60年代中葉まで精力的に論じたレーモン・ルーセルなどの文学作品や、対談後の1969年に公刊された『知の考古学』における「言説」概念と「エクリチュール」との関係にも頻繁に言及されている。それゆえ本対談は、自らの生涯について多くを語ることのなかったフーコーその人と著作との関係に光を当て、また60年代のフーコーの思想的な変遷を浮き彫りにするうえで、格好のテキストであるということができよう。この授業では毎週、輪読形式で進めてゆく。担当者は割り当てられた箇所について訳文を作成し、適宜コメントを加えて発表を行う。担当者ではない出席者も必ず予習をして臨み、意見・質問を出すこととする。</p>											
【到達目標】											
フーコーの思想に関する基本的事項を理解する。また、フランス語の構造を把握し、的確な日本語に翻訳することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の進め方の説明。フーコーとその思想の紹介、および本対談の位置づけと背景の解説。各回担当者の決定。</p> <p>第2回～第14回 Entretien avec Claude Bonnefoy通読 毎回、担当者は指定された箇所の訳文を作成し、コメントを加えて発表する。それを基として、読解に必要な文法・内容上の解説を教員が行い、出席者全員で議論する。</p> <p>第15回 まとめ 全体の内容を振りかえり、この対談の特徴やフーコーの思想全体に関してもつ意義について総括する。</p>											
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----											

## フランス語学フランス文学(講読)(2)

### **[履修要件]**

フランス語文法の基礎的な知識があること。

### **[成績評価の方法・観点]**

訳読に基づいた平常点で評価する。

### **[教科書]**

プリントを配布する。

### **[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

### **[授業外学修(予習・復習)等]**

予習：担当者は訳文を準備し、コメントする内容を考えること。担当者以外も次回の範囲を訳読したうえで授業に臨むこと。  
復習：読解した箇所の構文や表現を理解し、次回以降に活かすこと。

### **(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 中筋 朋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		19世紀パントマイム台本を読む									
【授業の概要・目的】											
フランス語での文献講読をおこなう。今年度前期は、19世紀のパントマイムの台本を読む。世紀前半の作品と後半の作品を読み比べることで、「白いピエロから黒いピエロへ」とも言われる19世紀フランスにおけるピエロのイメージの変容についての理解を深める。											
【到達目標】											
将来の研究のために必要なフランス語の読解能力および文学作品の分析能力を高めることを目指す。											
【授業計画と内容】											
『舞台の上のピエロ－19世紀フランスのパントマイム台本のアンソロジー』を輪読する。このアンソロジーには、ノディエ、ゴーティエ、フロベール、ユイスマンス、ポール・マルグリット、ラフォルクやヴェルレーヌらのパントマイム台本が掲載されている。授業では、このうちいくつかをとりあげて読解を進めていく。 また、作品を読み終えた段階で、各自に作品解釈の発表をおこなってもらう。授業の最後には、19世紀前半の作品と後半の作品の比較について議論をおこなう。											
1. オリエンテーション 2. 台本読解 3. 「作品解釈」発表と検討 4. 読み終えた台本の比較 5. まとめ											
各段階について、数回授業をおこなう。 第1回 イントロダクション 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第15回 訳読を進める。途中、読解した作品についての議論をしながら読解を深めていく。											
【履修要件】											
フランス語の初級文法の学習を終えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当部分の訳および発表内容）によって評価する。											
【教科書】											
プリント配布											
----- フランス語学フランス文学(講読) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(講読) (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

その回に読む部分について、翻訳をしてくること。  
発表の担当のときには、発表の準備をすること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 中筋 朋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ランシエール『アイステーシス』からみるモダンダンスの源流									
【授業の概要・目的】											
フランス語での文献講読をおこなう。今年度後期は、ジャック・ランシエールの『アイステーシス』をとりあげる。この著作は、ランシエールの考える美学的体制へのパラダイムシフトを、鍵となる14のテキストをめぐるそれぞれのシーンを描写しながら浮き彫りにするものである。今年、ロイ・フラーによる光の舞踊を扱った第6シーンの読解をおこなう。ロイ・フラーの光の舞踊は、2017年の映画『ザ・ダンサー』で再現されたのも記憶にあたりしが、19世紀当時にはマラルメも来たるべき芸術の姿としてとりあげた興味深いものである。はじめにこの背景を説明したあとで、読解をはじめていく。											
【到達目標】											
研究のために必要なフランス語の読解能力および分析能力を高めることを目指す。											
【授業計画と内容】											
ランシエールの『アイステーシス』の輪読をおこなう。基本的に逐語訳をしながら読解を進めていくが、院生による要約発表で進める箇所もある。											
第1回 イン트로ダクション 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第14回 論旨の展開に注意しながら訳読を進める。 第15回 まとめ											
各段階について、数回授業をおこなう。 本文中で扱われている具体例についても解説しながらゆっくり読解を進めて行く。 必要に応じて、テキスト中に出てくる作品を鑑賞したり、受講生のなかで興味がある人がいれば紹介してもらったりしながら授業を進めていく。											
【履修要件】											
独学でもよいので、フランス語の初級文法の学習を終えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当部分の訳および発表内容）によって評価する。											
----- フランス語学フランス文学(講読) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(講読) (2)

**[教科書]**

プリント配布

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

その回に読む部分を翻訳してくる事。  
発表を担当するときには、発表の準備をすること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 藤野 志織			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロラン・バルト「作者の死 (La mort de l'auteur)」(1968)を読む									
【授業の概要・目的】											
フランスを代表する哲学者、批評家であるロラン・バルトの代表的なエッセー「作者の死」は、発表から半世紀を経た今日でも「作者」について考えるうえで重要な参照項であり続けている。本講読では、フランス語原典で読むことによって、フランス語を正確に読み取る読解能力を養うとともに、バルトが「作者」の支配と戦ってきた先達として挙げている、マラルメ、ブルースト、シュルレアリスムの自動記述などの文学的営みに足を止めながら、「作者」についての理解を深めることを目的とする。											
【到達目標】											
「作者の死」として語られる文学の変容について考察し理解を深めるとともに、将来の研究の基礎となるフランス語読解能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション（作者と作品の紹介。授業の進め方についての説明） 第2回~第13回 論旨の展開に注意しながら訳読を進める。翻訳を担当した回に、担当箇所、もしくは批評文全体についてコメントをつけてもらい、それについて議論しながら読解を深めていく。 第14回 総括 期末レポート 第15回 フィードバック フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
フランス語の初級文法の学習を終えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（翻訳とコメント）70%と期末レポート30%											
【教科書】											
教科書は使用しない。プリントを配布する。											
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----											



## フランス語学フランス文学(講読)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習：次回に進む部分の文法事項を確認し、訳してくること。翻訳担当になった場合には、併せてコメントを準備してくること。

復習：自分が間違ったところをしっかりと理解しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 藤野 志織			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロラン・バルト『明るい部屋 写真についての覚書』(1980)を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>今日に至るまで活発に議論されている写真と文学の関係を考えるうえで、必読の書と言われるロラン・バルトの写真論『明るい部屋』のうち、前期に講読した「作者の死」と関係が深いと考えられる数篇をフランス語原典で精読する。</p> <p>原文を丁寧に読み進めることにより、フランス語読解能力の向上を目指すとともに、機械を介して生成される「写真」と人間の手により綴られる「文学」との違いに留意しながら、とりわけ20世紀前半の技術的背景、文学潮流を踏まえ、両者の特性や差異について理解を深めることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
研究のために必要なフランス語の読解能力および、写真と文学について考察するための基礎的な知識を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション(作者と作品の紹介。授業の進め方の説明)</p> <p>第2回~第14回 論旨の展開に注意しながら訳読を進める。翻訳の担当回には、担当箇所を中心にコメントをつけてもらい、それについて議論しながら読解を深めていく。</p> <p>第15回 総括</p>											
【履修要件】											
フランス語の初級文法の学習を終えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価(翻訳、コメントおよび議論への参加)											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----											

## フランス語学フランス文学(講読)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習：次回に進む部分を自ら訳しておくこと。  
復習：自分が間違ったところをしっかりと理解しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系180

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学（外国語実習） French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 特任准教授 AVOCAT, Eric			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	実習	使用 言語	フランス語
題目		Initiation to linguistic and stylistic analyses.									
[授業の概要・目的]											
This course offers an introduction to the study of literary stylistics. Students will learn how to identify, analyze and interpret specific linguistic features in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical skills.											
[到達目標]											
This class is designed to help students:											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- use the linguistic structures which are the most appropriate to express what they intend to say</li> <li>- identify and analyze specific formal features in French literary texts</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercises of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercises on grammatical structures, lexical fields, stylistic, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)											
[履修要件]											
This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French language in their research can find an interest in it.											
[成績評価の方法・観点]											
The students will be evaluated through continuous assessment : written essays, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
It is necessary to read the texts before the class.											
(その他（オフィスアワー等）)											
Please discuss any appointment with the teacher.											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系181

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学（外国語実習） French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Justine LE FLOCH			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	実習	使用 言語	フランス語
題目		Initiation to linguistic and stylistic analyses.									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to the study of literary stylistics. Students will learn how to identify, analyze and interpret specific linguistic features in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical skills.											
【到達目標】											
This class is designed to help students:  - use the linguistic structures which are the most appropriate to express what they intend to say - identify and analyze specific formal features in French literary texts											
【授業計画と内容】											
After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercises of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercises on grammatical structures, lexical fields, stylistical, linguistical and rhetorical features (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)											
【履修要件】											
This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French language in their research can find an interest in it.											
【成績評価の方法・観点】											
The students will be evaluated through continuous assessment : written essays, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work)											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
In class, we will read, explain and analyze each texts. After class, writing exercises will sometimes be assigned.											
(その他（オフィスアワー等）)											
Please discuss any appointment with the teacher.  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系182

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Torquato TassoのDialoghi									
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやトスカーナ詩やインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。前期の授業では、タッソの対話篇“ Il Rangone overo de la pace ”を精読しながら、当時の貴族階級の道德観・価値観とタッソの散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il Rangone overo de la pace ”の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、予習が重要です。毎回簡単な和訳問題を提示して予習の精度を確認します。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系183

科目ナンバリング	U-LET22 33731 LJ36										
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	Torquato TassoのDialoghi										
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテやトスカーナ詩やインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。後期の授業では、タッソの対話篇“ Il Malpiglio overo de la corte ”を精読しながら、当時の宮廷における価値観とタッソの散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il Malpiglio overo de la corte ”の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、予習がすべてです。毎回提示する和訳問題で予習の精度を確認します。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso istituzionale di Letteratura italiana. Imitare, emulare, contraffare. Teorie e pratiche dell ' imitatio.									
<b>【授業の概要・目的】</b>											
<p>Il corso di letteratura italiana di quest ' anno prendera' in esame il tema dell ' imitazione letteraria nelle sue diverse declinazioni, dalla emulazione al plagio. Dopo una introduzione teorica sul tema dell ' imitazione, considerato nel suo stretto nesso con quello della memoria, il seminario analizzera' alcuni esempi significativi di autori alle prese con la pratica mimetica. Imitare significa innanzitutto ricordare e la memoria gioca un ruolo fondamentale nel processo di creazione artistica. Se e' certo che senza assidue letture e illustri modelli non e' possibile comporre buona poesia, allo stesso tempo il processo imitativo comporta dei rischi, perche', come ricorda Vittorio Alfieri, "chi molto legge prima di comporre ruba senza avvedersene e perde l ' originalita'". Ma quale e' allora il confine tra imitazione e plagio? E come e' possibile smascherare un testo contraffatto, con gli strumenti della filologia?</p> <p>Seguirà, nel secondo semestre, un modulo monografico su Leopardi.</p>											
<b>【到達目標】</b>											
<p>Gli studenti approfondiranno il tema della imitazione letteraria nel suo stretto nesso con quello della memoria. Leggeranno e studieranno alcuni importanti testi teorici sull ' imitazione. Analizzeranno gli esempi proposti di autori alle prese con la pratica mimetica. Apprenderanno l ' uso degli strumenti e dei metodi filologici che guidano gli studiosi nell ' individuazione di un testo contraffatto. Dimostreranno queste competenze con una loro presentazione orale durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
<b>【授業計画と内容】</b>											
<p>Primo semestre. Letteratura italiana. Imitare, emulare, contraffare. Teorie e pratiche dell ' imitatio.</p> <p>1: Introduzione. 2-5: La teoria dell ' imitazione letteraria. 6-13: Gli autori alle prese con la pratica mimetica. 14: Smascherare un testo contraffatto. 15: Presentazioni a cura degli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
<b>【履修要件】</b>											
E' richiesto un ottimo livello di italiano.											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
<p>La valutazione sara' basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni e' fondamentale per superare l ' esame. E' consentita una sola assenza.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

---

**[教科書]**

I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme alle indicazioni bibliografiche di approfondimento.

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

**(その他(オフィスアワー等))**

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso istituzionale di Letteratura italiana. Memoria e imitazione in Leopardi									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di letteratura italiana di quest'anno, inaugurato da un primo semestre sul tema dell'imitazione letteraria, si conclude con un modulo monografico dedicato a Leopardi. Dopo una introduzione al contesto storico-culturale ottocentesco e alla biografia di Leopardi, il seminario prenderà in esame l'opera dell'autore. Sarà così possibile indagare il rapporto tra memoria e imitazione, ascoltando la voce di uno dei maggiori poeti italiani, che ha dedicato a questo tema un'ampia e articolata riflessione. Il punto di partenza dell'indagine è costituito dalle prime considerazioni, suscitate dal dibattito classico-romantico, su questo tema; si procederà poi a studiarne le implicazioni sul pensiero e sulla poetica degli anni successivi, attraverso un'analisi delle fonti, filosofiche e letterarie. La questione messa a fuoco nella lettera del 1816 ai compilatori della Biblioteca italiana riguarda la distinzione proposta da Madame de Staël, in polemica con Giordani, tra 'conoscere' e 'imitare'. Al contrario della baronessa, Leopardi non crede nella possibilità di conciliare lo studio degli antichi e l'originalità, memoria e invenzione. La lettura e l'assimilazione di testi letterari non possono che condurre lo scrittore alla loro imitazione, spegnendo la "divina scintilla" dell'ispirazione poetica. La valorizzazione della novità; in campo poetico si accompagna, nelle speculazioni leopardiane, alla nostalgia per un passato irrevocabile, dove, in assenza di modelli esemplari, fosse possibile l'imitazione diretta della natura, la vera creazione artistica. Fedele al classicismo, ai cui canoni formalmente aderisce, ma irrimediabilmente attratto dai motivi romantici, Leopardi continua a vagheggiare quella condizione primitiva e mitica, ormai inattuabile: una contraddizione che segnerà tutta la sua opera.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e le opere di uno dei maggiori poeti italiani, Giacomo Leopardi, e sapranno contestualizzarle nell'ambito della letteratura dell'Ottocento. Leggeranno e studieranno i testi leopardiani proposti, con particolare attenzione al rapporto tra memoria e imitazione. Dimostreranno queste competenze con una loro presentazione orale durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Secondo semestre. Letteratura italiana. Memoria e imitazione in Leopardi.</p> <p>1-2: Introduzione e contesto storico-culturale.</p> <p>3-15: Analisi dei testi e presentazioni orali preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

E' richiesto un ottimo livello di italiano.

### 【成績評価の方法・観点】

La valutazione sara' basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni e' fondamentale per superare l' esame. E' consentita una sola assenza.

### 【教科書】

G. Leopardi, Poesie e Prose, a cura di R. Damiani e M. A. Rigoni, Milano, Mondadori, 2003.

G. Leopardi, Zibaldone di pensieri, a cura di R. Damiani, Milano, Mondadori, 2014.

Lessico leopardiano, a cura di N. Belluci, F. D'Intino, S. Gensini, Roma, Sapienza Universita' Editrice, 2014-2020 (consultabile online).

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

### (その他(オフィスアワー等))

L' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana contemporanea. Letteratura e potere nella poesia italiana dal secondo dopoguerra a oggi.									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di letteratura italiana contemporanea prendera' in esame le opere di alcuni dei piu' importanti poeti italiani dal secondo dopoguerra a oggi, con particolare attenzione al tema chiave del rapporto tra letteratura e potere. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sui caratteri distintivi e i modelli della poesia del XX e XXI secolo, si procedera' a una lettura dei testi poetici. Di ciascun autore verra' fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Verranno dunque commentati alcuni componimenti significativi, con un' attenzione rivolta tanto al riconoscimento dei riferimenti culturali e delle fonti, quanto agli usi lessicali, alle figure retoriche e metriche. Ascoltando alcune delle voci piu' intense della letteratura italiana contemporanea, sara' possibile riflettere sul rapporto tra letteratura e potere nell' eta' contemporanea e acquisire gli strumenti per una autonoma lettura e analisi tematico-stilistica dei testi poetici. Seguira', nel secondo semestre, un approfondimento su Pier Paolo Pasolini nel centenario della sua nascita.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti impareranno a conoscere la poesia italiana contemporanea e il contesto storico-culturale del secondo Novecento. Leggeranno e commenteranno le opere di alcuni degli autori fondamentali di questa stagione letteraria, tra cui Eugenio Montale, Amelia Rosselli, Vittorio Sereni, Edoardo Sanguineti, Antonella Anedda, Milo De Angelis. Acquisiranno una buona capacita' di analisi del testo poetico, padroneggiando le piu' importanti figure metriche e retoriche. Dimostreranno queste competenze in una presentazione orale, nella quale illustreranno alla classe una poesia a loro scelta, tra quelle raccolte nell' antologia indicata in bibliografia. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Primo semestre: Corso Monografico di Letteratura Italiana. Letteratura e potere nella poesia italiana dal secondo Novecento a oggi.</p> <p>1: Letteratura e potere nella poesia contemporanea: Introduzione.</p> <p>2-15: Poeti italiani dal secondo dopoguerra a oggi. Lettura e commento dei testi. Presentazioni orali preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

E' richiesto un ottimo livello di italiano.

### 【成績評価の方法・観点】

La valutazione sara' basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni e' fondamentale per superare l' esame. E' consentita una sola assenza.

### 【教科書】

La bibliografia indicata in “ References ” costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

### 【参考書等】

( 参考書 )

授業中に紹介する

Dopo la lirica, Poeti italiani 1960-2000, a cura di E. Testa, Torino, Einaudi, 2005.

Poesia del Novecento italiano. Dal secondo dopoguerra ad oggi, a cura di N. Lorenzini, Roma, Carocci, 2004.

P.G. Beltrami, Gli strumenti della poesia. Guida alla metrica italiana, Bologna, Il Mulino, 2012.

G. Mazzoni, Sulla poesia moderna, Bologna, Il Mulino, 2015.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Dopo ogni lezione verranno assegnate delle letture da svolgere a casa. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

### （その他（オフィスアワー等））

L' orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Letteratura italiana contemporanea. Letteratura e potere nell' opera di Pier Paolo Pasolini (nel centenario dalla nascita).									
【授業の概要・目的】											
Inaugurato da un primo semestre sul rapporto tra letteratura e potere nella poesia italiana dal secondo dopoguerra a oggi, il corso di letteratura italiana contemporanea si conclude con un modulo monografico dedicato a uno dei piu' importanti autori italiani del Novecento, che ha dedicato al tema ampio spazio di riflessione: Pier Paolo Pasolini. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sulla biografia di Pasolini, si procedera' alla lettura e all'analisi di alcuni dei suoi piu' significativi testi poetici, narrativi e saggistici. Due lezioni saranno dedicate alla proiezione e al commento di un film di Pasolini.											
【到達目標】											
Gli studenti analizzeranno la biografia e le opere di uno dei maggiori scrittori italiani, Pier Paolo Pasolini, e sapranno contestualizzarle nell' ambito della letteratura del Novecento. Leggeranno e studieranno una selezione di suoi testi poetici, narrativi e saggistici. Conosceranno gli elementi centrali del pensiero e dell' opera di Pasolini, con particolare attenzione al tema del rapporto tra letteratura e potere. Assisteranno alla proiezione di un film di Pasolini e lo commenteranno in classe. Dimostreranno queste competenze con una loro presentazione orale durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.											
【授業計画と内容】											
Primo semestre: Letteratura italiana contemporanea. Letteratura e potere nell' opera di Pier Paolo Pasolini (nel centenario dalla nascita).											
1-2: Introduzione e contesto storico-culturale.											
3-13: Letteratura e potere nell' opera di Pier Paolo Pasolini. Lettura e commento dei testi.											
14-15: Proiezione e commento di un film di Pasolini.											
【履修要件】											
E' richiesto un ottimo livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni e' fondamentale per superare l' esame. E' consentita una sola assenza.											
【教科書】											
授業中に指示する											
La bibliografia indicata in "References" costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

-----  
bibliografiche di approfondimento.

### **[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

P.P. Pasolini, Opere. Romanzi e racconti, a cura di W. Siti e S. De Laude, Mondadori, 2010.

P.P. Pasolini, Opere. Saggi sulla Letteratura e sull'arte, a cura di W. Siti e S. De Laude, Mondadori, 2008.

P.P. Pasolini, Opere. Saggi sulla Politica e sulla società, a cura di W. Siti e S. De Laude, Mondadori, 2012.

P.P. Pasolini, Opere. Per il cinema, a cura di W. Siti e F. Zabagli, Mondadori, 2001.

P.P. Pasolini, Opere. Teatro, a cura di W. Siti e S. De Laude, Mondadori, 2001.

P.P. Pasolini, Opere. Tutte le poesie, a cura di W. Siti, Mondadori, 2015.

### **[授業外学修(予習・復習)等]**

Dopo ogni lezione verranno assegnate delle letture da svolgere a casa. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti

### **(その他(オフィスアワー等))**

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトラルカの抒情詩									
[授業の概要・目的]											
イタリアの抒情詩の源泉であるフランチェスコ・ペトラルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。 古典文学の魅力を体感する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで作品の内容を精査していきます。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、十分な予習が求められます。毎回簡単な和訳問題を提示して予習の精度を確認します。原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトラルカの抒情詩									
[授業の概要・目的]											
前期につづいて、フランチェスコ・ペトラルカの抒情詩を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。 古典文学の魅力を体感する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察。 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで作品の内容を精査していきます。必要に応じてヴァチカン収蔵写本の表記を確かめながらテキストの校訂作業についても検証します。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、十分な予習が求められます。毎回簡単な和訳の問題を提示して予習の精度を確認します。原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フィチーノのスピリト論の概説と『ペストに対する助言』の考察									
【授業の概要・目的】											
15世紀の思想家マルシリオ・フィチーノの『ペストに対する助言』の講読を通じて、ギリシャ語のプネウマ、ラテン語のスピリトゥスに対応するイタリア語のスピリトの概念を検討しつつ、当時の医学、養生訓に触れることによって、文学や文化の理解を深める。また、フィチーノを中心に15世紀、16世紀の文献を読むことによって、イタリア語の古典の読解力を養う。本授業は大学院と共通であるが、学部生は、文献の集め方、文献による研究の進め方についても学ぶものである。											
【到達目標】											
まず何よりもイタリア語の古典に慣れ親しむ。さらには15世紀当時の思想を学習することによって、主に文学への考察の幅を広げるようになる。他方、毎回、読んだことをディスカッションすることによって、イタリア語の読解力だけでなく、学んだ知識を基礎的な文献に即して発表する力を養う。											
【授業計画と内容】											
通常授業14回、定期試験、フィードバック1回 第1回 文学史、思想史からのイントロダクション 第2回 14～16世紀の医学史についてのイントロダクション 第3回 マルシリオ・フィチーノについてのイントロダクション 第4回～第11回 主にフィチーノの『ペストに対する助言』を読みながら、適宜、評論なども訳読しつつ、ディスカッションをする。 第12回～第14回 フィチーノを中心に当時のスピリト論についてまとめていく。 期末試験 第15回 フィードバック 受講者の解答に対してコメントをして、論理の発展をはかる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験(80%)を中心に、平常点(20%)授業での訳読・発言などを加味して評価する。3名以下の場合は、平常点を重視することにする。その場合は、授業時において、評価方法について改めて告知する。											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

### [教科書]

授業中に指示する  
入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業時に精読・訳出する部分については、その都度指定するので、必ず読んでくること。

### (その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。大きな質問、および相談はその都度、遠隔(zoom使用)で受けます(要予約)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系191

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 グローバル教育センター 教授 河合 成雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		マルシリオ・フィチーノの思想とその文学的影響									
【授業の概要・目的】											
マルシリオ・フィチーノ(1433-1499)は、16世紀の文学に大きな影響を与えている。その著作の中でも『愛について』と『生について』は16世紀に版を重ね、全ヨーロッパでのベストセラーであった。本演習では、フィチーノの多岐にわたる思想を学習しながら、彼の同時代や次世紀の著作について、文学のみならず、ダヴィンチなど様々な著述において、その痕跡をたどり、15、16世紀の著述についての理解を深める。											
【到達目標】											
まずは何よりも古典の基礎的な読解力を身に着ける。さらには15世紀当時の思想や様々な言葉の概念を学習することによって、主に文学への考察の幅を広げることができるようになる。他方、毎回、読んだことをディスカッションすることによって、イタリア語の読解力だけでなく、学んだ知識を基礎的な文献に即して発表する力を養う。											
【授業計画と内容】											
通常授業14回、定期試験、フィードバック1回 第1回 フィチーノについてイントロダクション 第2回 フィチーノについての思想史的イントロダクション 第3回～第12回 フィチーノのイタリア語著作の精読をしつつ、同時に、2週ずつ、授業参加者の希望も聞きながら、6人の著作を読む。選んだ著作について、フィチーノの影響という観点から考察を行う。 第13回～第14回 授業のテーマにそって、受講者各自が選んだテキストの紹介をし、さらには、ディスカッションをする。 期末試験 第15回 フィードバック 受講者の解答に対してコメントをして、論理の発展をはかる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験(80%)を中心に、平常点(20%)授業での訳読・発言などを加味して評価する。3名以下の場合は、平常点を重視することにする。その場合は、授業時において、評価方法について改めて告知する。											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

## イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

### [教科書]

授業中に指示する  
入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業時に精読・訳出する部分については、その都度指定するので、必ず読んでくること。

### (その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。大きな質問、および相談はその都度、遠隔(zoom使用)で受けます(要予約)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系192

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語およびイタリア語
題目		卒論演習									
【授業の概要・目的】											
卒業論文執筆のための準備と訓練を目的とする演習です。「勉強」と「研究」の相違を明確にすることから始めて、問題の設定と論証のプロセス、それらの表現方法、また参考文献リストの作り方や註や引用の仕方まで、実際の作業に即して論文作成についての理解を深めます。											
【到達目標】											
卒業論文提出年次に当たる参加者にとっては、これを完成させることが目標となります。そうでない場合は、発表を聞いて疑問点を見いだすことによって発表者の研究を支援することが求められます。こうした経験を通じて自らの研究においても「何を」「どのように追求し」「どのように発表」すればよいのかを学ぶことになるはずで、3回生の場合は、この作業を通じて自身の卒業論文のテーマを絞り込むことが授業の目標になります。											
【授業計画と内容】											
初回 ガイダンス：研究発表の手順について説明を行い、おおよそのスケジュールを確認します。											
2-3回 前年度の修士論文・卒業論文提出者の報告。											
4-14回 大学院生及び卒業論文提出予定者の研究報告。 卒業論文の計画段階から各自の研究テーマについて順次発表をします。他の参加者にも自由に意見を述べてもらいながら検討を行います。発表の合間に、註・参考文献・引用方法など学術論文の形式・体裁について説明します。また必要に応じて学術雑誌に掲載された論文を講読しながら、論文執筆の技術と注意事項を確認する予定です。3回生の参加者には、卒業論文のテーマにかんするレポートを作成してもらいます。											
15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：発表の内容、授業での発言などに基づく。											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

発表者は事前に、レジュメ・資料などを研究室メンバー宛てにメール送信しておきましょう。

**(その他(オフィスアワー等))**

原則的には隔週開講の授業ですが、希望があればこれに限定されることなく発表の場を設定します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀のイタリアを概観したSimona Colariziの“Storia del Novecento italiano”の第3章：Il crollo dello stato liberale (1919-1922)の冒頭から精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえに、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>本書の文章は明晰なイタリア語散文であり、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。</li> <li>・イタリア近現代史の基礎知識を習得すること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回(イントロダクション)											
授業の進め方、小テスト、評価方法について説明します。あわせて使用テキストと講読する章を紹介し、またテキストの一部を実際に読みながらイタリア語の読解にあたって注意すべき点を確認する予定です。											
2回～14回											
必要に応じて文法事項を確認しながら読み進めます。文法の知識にしたがって正確に読解することを重視します。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。											
15回 フィードバック											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳問題(別名小テスト)をもとに評価します。											
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----											



## イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

### [教科書]

プリント配布。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに把握することに努めてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを見直しておきましょう。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>ルイーゼ・サルヴァトレッリのイタリア史の概説書“Sommaro della storia d'Italia”から、第9章&lt;Papato, Angiò, e Signorie&gt;を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずで</p> <p>また著者サルヴァトレッリの文章はオーソドックスなイタリア語散文であり、これを精読することで伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリア語文献を自力で読み解くことができるようになること。</li> <li>・イタリア史の基礎知識を習得すること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション) 授業の進め方、小テスト、評価方法について確認をします。あわせて後期の講読テキストについて簡単に説明をします。</p> <p>2回～14回(講読) 文法の知識にしたがって正確にイタリア語を読み進めます。重要な文法事項についてはその都度確認をします。また専門用語や固有名詞については適宜補足説明をする予定です。</p> <p>15回(フィードバック)</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法を学んでいること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回提示する簡単な和訳問題をもとに評価します。											
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習がすべての授業です。原文にきちんと目を通し、単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに理解することを心がけてください。授業終了後は、読み違えた箇所、文法知識の曖昧なところを見直しておきましょう。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系195

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36											
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語	
題目	イタリア語講読(前期)											
[授業の概要・目的]												
比較的平易な小説、エッセイ、新聞記事を精読します。イタリア語の読解力を養成することが授業の目的となります。												
[到達目標]												
平易なイタリア語の文章を自力で読解できるようになること。												
[授業計画と内容]												
初回(ガイダンス)												
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながらイタリア語の文章を精読します。												
15回 フィードバック												
[履修要件]												
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。												
[成績評価の方法・観点]												
毎回提示する簡単な和訳の課題(別名小テスト)に基づいて評価します。												
[教科書]												
プリント配布。												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介します。												
[授業外学修(予習・復習)等]												
予習がすべての授業です。単語の意味を調べるだけでなく、文章の内容を把握するよう努めてください。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

## 西洋文化学系196

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36										
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻 菊池 正和 准教授				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	イタリア語講読(後期)										
[授業の概要・目的]											
ルイジ・ピランデッロ(1867-1936)の短編小説を精読します。イタリア語の読解力を養成することが授業の目的となります。											
[到達目標]											
イタリア語文献を辞書を引いて自力で読解できる。 小説を味読することで、イタリアの社会や文化についての理解を深める。											
[授業計画と内容]											
初回(ガイダンス)											
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを精読します。											
15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への参加状況(60%)と小レポート(40%)に基づいて評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習がすべての授業です。単語の意味を調べるだけでなく文章の内容を理解するよう心がけてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業の前後に直接、あるいはメールで質問等は受け付けます。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33764 PJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(外国語実習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Narrativa italiana contemporanea. I. Per leggere									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Esercitazioni di lingua italiana di quest'anno è dedicato alla narrativa italiana contemporanea. Perfezioneremo la conoscenza della lingua leggendo e analizzando racconti di importanti scrittori italiani come Dino Buzzati, Italo Calvino, Umberto Eco, Carlo Emilio Gadda, Elsa Morante, Anna Maria Ortese, Antonio Tabucchi. Gli studenti avranno modo di esercitarsi su diversi tipi di testo, guidati dalla perizia narrativa di questi maestri di scrittura.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno i testi di importanti narratori italiani. Acquisiranno una maggiore dimestichezza con la lingua scritta: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell'italiano.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Narrativa italiana contemporanea. I. Per leggere</p> <p>1. Introduzione</p> <p>3-15. Lettura e commento di racconti di importanti scrittori italiani (Dino Buzzati, Italo Calvino, Umberto Eco, Carlo Emilio Gadda, Elsa Morante, Anna Maria Ortese, Antonio Tabucchi). Esercitazioni e presentazioni preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

**[教科書]**

I testi da leggere e studiare verranno distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

**(その他(オフィスアワー等))**

L'orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33764 PJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(外国語実習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Narrativa italiana contemporanea. II. Per scrivere									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Esercitazioni di lingua italiana di quest'anno è dedicato alla narrativa italiana contemporanea. Perfezioneremo la conoscenza della lingua leggendo e analizzando racconti di importanti scrittori italiani come Dino Buzzati, Italo Calvino, Umberto Eco, Carlo Emilio Gadda, Elsa Morante, Anna Maria Ortese, Antonio Tabucchi. Gli studenti avranno modo di esercitarsi su diversi tipi di testo, guidati dalla perizia narrativa di questi maestri di scrittura.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno i testi di importanti narratori italiani. Acquisiranno una maggiore dimestichezza con la lingua scritta: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell'italiano.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Narrativa italiana contemporanea. II. Per scrivere</p> <p>1. Introduzione</p> <p>3-15. Lettura e commento di racconti di importanti scrittori italiani (Dino Buzzati, Italo Calvino, Umberto Eco, Carlo Emilio Gadda, Elsa Morante, Anna Maria Ortese, Antonio Tabucchi). Esercitazioni e presentazioni preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)へ続く -----											



イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

**[教科書]**

I testi da leggere e studiare verranno distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

**(その他(オフィスアワー等))**

L'orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29675 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）I Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。          授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソ          ドックスなものを想定している。          イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>											
【到達目標】											
<p>現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションがで          できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：オリエンテーションと発音          第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞]          第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere]          第4週：Lezione 3 [形容詞]          第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞]          第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞]          第7週：Lezione 6 [人称代名詞]          第8週：Lezione 7 [再起動詞]          第9週：テストと解説          第10週：Lezione 8 [命令法]          第11週：Lezione 9 [直説法近過去]          第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去]          第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来]          第14週：Lezione 12 [受動態]          第15週：テストと解説</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>各課の締めくくりで行う小テスト（30%）          前期中2回行うまとめのテスト(70%)</p>											
【教科書】											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5											
----- イタリア語（初級4時間コース）I(2)へ続く -----											

イタリア語（初級4時間コース）I(2)

---

**[参考書等]**

（参考書）

『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020

『フリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

**[授業外学修（予習・復習）等]**

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系200

科目ナンバリング		U-LET49 29676 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）II Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級II）									
[授業の概要・目的]											
イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。											
[到達目標]											
条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1週：Lezione 13 [比較級・最上級] 第2週：Lezione 14 [関係詞] 第3週：Lezione 15 [ジェルンディオ・ciとneの解説] 第4週：Lezione 16 [条件法] 第5週：Lezione 17 [接続法] 第6週：Lezione 17 [接続法・仮定文] 第7週：テスト 第8 - 14週：遠過去および講読 第15週：テスト・フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
各課終了ごとの小テスト(30%) 後期に2回行われるまとめのテスト(70%)											
[教科書]											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5 講読用のテキストは適宜こちらが用意する。											
[参考書等]											
（参考書） 『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020 『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各授業前に60分前後の予習が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 西洋文化学系201

科目ナンバリング		U-LET49 29663 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Lingua italiana e cinema - I									
【授業の概要・目的】											
Attraverso un percorso alla scoperta del cinema italiano, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un ' ampia varieta' di argomenti, che includono l ' arte e la musica, la letteratura, la politica e il tempo libero. Grazie al cinema, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti piu' affascinanti della cultura italiana e acquisiranno una piu' sicura padronanza della lingua, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.											
【到達目標】											
Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarita' con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base in periodiche esercitazioni. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua, di progettare una presentazione orale e di eseguirla di fronte alla classe.											
【授業計画と内容】											
Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano (livello intermedio).											
1: Introduzione											
2-13: Lingua italiana e cinema. Nella scelta dei copioni e degli spezzoni di film da analizzare, verranno tenuti in particolare considerazione gli interessi degli studenti.											
14-15: Presentazioni orali preparate dagli studenti su un film italiano che ha suscitato il loro interesse.											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni e' fondamentale per superare l ' esame. E' consentita una sola assenza.											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											

## イタリア語（会話）(2)

### **[教科書]**

Handouts

### **[参考書等]**

（参考書）

授業中に紹介する

F. Rossi, *Lingua italiana e cinema*, Roma, Carocci, 2012.

### **[授業外学修（予習・復習）等]**

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

### **（その他（オフィスアワー等））**

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 西洋文化学系202

科目ナンバリング		U-LET49 29663 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Lingua italiana e cinema - II									
【授業の概要・目的】											
<p>Attraverso un percorso alla scoperta del cinema italiano, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un ' ampia varieta' di argomenti, che includono l ' arte e la musica, la letteratura, la politica e il tempo libero. Grazie al cinema, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti piu' affascinanti della cultura italiana e acquisiranno una piu' sicura padronanza della lingua, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarita' con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base in periodiche esercitazioni. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua, di progettare una presentazione orale e di eseguirla di fronte alla classe.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano (livello intermedio).</p> <p>1: Introduzione            2-13: Lingua italiana e cinema. Nella scelta dei copioni e degli spezzoni di film da analizzare, verranno tenuti in particolare considerazione gli interessi degli studenti.            14-15: Presentazioni orali preparate dagli studenti su un film italiano che ha suscitato il loro interesse.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sara' basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni e' fondamentale per superare l ' esame. E' consentita una sola assenza.											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											

## イタリア語（会話）(2)

### [教科書]

Handouts

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

F. Rossi, *Lingua italiana e cinema*, Roma, Carocci, 2012.

### [授業外学修（予習・復習）等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

### （その他（オフィスアワー等））

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET49 29673 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）I Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>スペイン語の発音および基礎文法（直説法過去時制まで）を教科書に沿って学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法の過去時制までを一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。</li> <li>・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。</li> <li>・初級Ⅱ（接続法、命令法、初級文法発展）の学習に繋げる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入  第2回：第0課 [ アルファベット、発音、音節の分け方 ]  第3回：第1課 [ 名詞の性数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞と動詞ser ]  第4回：第2課 [ 動詞estar、存在のhay、指示詞、所有形容詞 ]  第5回：第3課 [ 直説法現在：規則動詞と不規則動詞 ]  第6回：復習（1）第1課～第3課の作文および応用問題  第7回：第4課 [ 直説法現在：その他の不規則動詞、接続詞 ]  第8回：第5課 [ 目的格人称代名詞、動詞gustar、時刻・日付の表現 ]  第9回：第6課 [ 前置詞、過去分詞、直説法現在完了 ]  第10回：復習（2）第4課～第6課の作文および応用問題  第11回：第7課 [ 再帰動詞、不定主語文、現在分詞 ]  第12回：第8課 [ 直説法点過去、天候の表現 ]  第13回：第9課 [ 直説法線過去、時間表現のhacer、直説法過去完了 ]  第14回：復習（3）第7課～第9課の作文および応用問題  第15回：期末試験・フィードバック</p>											
----- ス페인語（初級）I (2)へ続く -----											

## スペイン語（初級）I (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。  
期末試験 90%：既習の文法事項を理解・習得しているか判定する。

### 【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087  
必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

### 【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系204

科目ナンバリング		U-LET49 29674 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）II Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
<p>前期開講の「スペイン語 初級I」と同じ教科書を用い、引き続きスペイン語の初級文法を学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち接続法、命令文、条件文までを学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>CEFRのA 1程度のレベルを修得する。</p> <p>辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>各回の主たる学習項目は以下の通りである。</p> <p>第1回：ガイダンス [教科書第0課～9課の振り返り、第10課導入]          第2回：第10課 [関係詞]          第3回：第11課 [比較級、最上級]          第4回：第12課 [不定語・否定語、受身文]          第5回：第13課 [直説法の未来・過去未来・未来完了・過去未来完了]          第6回：復習(1) 第10課～第13課の作文および応用問題          第7回：第14課 [接続法現在：名詞節における用法]          第8回：第15課 [接続法現在：関係詞節・副詞節における用法、命令文]          第9回：復習(2) 第14課～第15課の作文および応用問題          第8回：第16課 [接続法現在完了、接続法現在完了、接続法過去完了]          第9回：第17課 [条件文、譲歩文、話法]          第10回：復習(3) 第16課～第17課の作文および応用問題          第11～14回：文法発展 [テキスト講読または中級文法]          第15週：期末試験・フィードバック</p>											
----- スペイン語（初級）II (2)へ続く -----											

## スペイン語（初級）Ⅱ(2)

### 【履修要件】

前期開講の「スペイン語 初級I」の学修者であること、もしくは同等（教科書第9課まで）のスペイン語知識を有していることが望まれる。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 10%：発音を中心に評価する。  
期末試験 90%：既習の文法事項を理解・習得しているか判定する。

### 【教科書】

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087

### 【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系205

科目ナンバリング		U-LET49 29668 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級I）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級I）									
【授業の概要・目的】											
教科書に沿ってスペイン語初級文法を復習し、ニュース形式のテキストを通して実践的語彙を獲得し、読解力のみならず聴解力の向上を図り、併せてスペイン語圏の社会、文化、政治への関心を広げる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFRのA2程度のレベルを修得する。</li> <li>・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事を読解することができる。</li> <li>・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。</li> <li>・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。</li> <li>・中級II（接続法、条件法など文法発展）の学習に繋げる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。各回のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。											
<p>第1回 ガイダンス、第1課導入（発音と直説法現在・再帰動詞の確認）</p> <p>第2回 第1課 Las redes sociales y el ocio（SNS）：直説法現在 / 再帰動詞</p> <p>第3回 第2課 El tenista espan'ol Rafael Nadal（ナダル選手）：gustarの用法と不定詞を伴う表現</p> <p>第4回 第3課 El restaurante ma's antiguo del mundo: Boti'n（世界最古のレストラン）：過去時制の使い分け（1）現在完了/点過去</p> <p>第5回 第4課 La moda（ファッション）：過去時制の使い分け（2）線過去</p> <p>第6回 第5課 La adopcio'n（養子縁組）：過去時制の使い分け（3）点過去/線過去/過去完了</p> <p>第7回 第6課 La energi'a eo'lica（風力発電）：未来と過去未来</p> <p>第8回 第7課 Co'mo preparar un buen cafe'（コーヒー）：不定詞を伴う助動詞的表現</p> <p>第9回 第8課 El programa Erasmus（エラスムス留学制度）：比較級</p> <p>第10回 第9課 La polici'a comunitaria en Honduras（ホンジュラスの交番）：接続法現在（1）</p> <p>第11回 第10課 Equiparacio'n de los permisos de maternidad y paternidad（育休取得）：接続法現在（2）</p> <p>第12回 第11課 Aporofobia（アポロフォビア）：接続法現在（3）</p> <p>第13回 第12課 Consejos para aprender japone's（日本語学習）：接続法現在（4）</p> <p>第14回 第13課 La eutanasia en Espan'a（安楽死）：接続法過去（1）</p> <p>第15回 期末試験・フィードバック</p>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各課の文法例文の読解より練習問題の解答・解説とテキストのリスニングおよび講読に重点を置く。</li> <li>・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。</li> <li>・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</li> </ul>											
----- ス페인語(中級I)(語学)(2)へ続く -----											

## スペイン語（中級I）（語学）(2)

### 【履修要件】

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 20% [ 発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する ]

期末試験 80% [ リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する ]

### 【教科書】

中島聡子 他 『ニュースで学ぶ中級スペイン語 [ 改訂版 ] 』（三修社,2022年）ISBN:978-4-384-42021-0 C1087

### 【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2

辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳）のうえ授業に参加すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29669 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級II）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級II）									
【授業の概要・目的】											
教科書掲載のスペイン語テキストの講読を通してスペイン語圏の社会や文化に関する知識を深める。各課の練習問題では語彙や文法の振り返りだけでなく、トピックに関するスペイン語による意見表明なども試みる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFRのA2からB1程度のレベルを修得する。</li> <li>・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の論説文や簡単な文芸作品を読解することができる。</li> <li>・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。</li> <li>・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。											
第1回 ガイダンス、第1課への導入											
第2回 第1課 Turismo en la aute'ntica Sevilla（歴史と文化のるつぼ - セビーリャ）											
第3回 第2課 Correr no es de cobardes（マラソン - 世界をかけるランナーたち）											
第4回 第3課 Nuevo flamenco y fusio'n（フラメンコの新しいスタイル）											
第5回 第4課 Latinos en Japo'n: tu vecino lejano（日本に暮らすラティーノ）											
第6回 第5課 PATRIA: una novela de Aramburu（バスクの抱えるトラウマ）											
第7回 第6課 En la Ciudad de Me'xico: variaciones del espan'ol（スペイン語の多様性 - メキシコシティにて）											
第8回 第7課 Una receta de la paella valenciana（スペインを味わい尽くすパエリャの作り方）											
第9回 第8課 La vuelta del mundo（世界一周 - マゼランの船旅）											
第10回 第9課 ¡Vivan los novios!（多様化する結婚のかたち）											
第11回 第10課 Spanglish: el espan'ol de EE.UU.（スパングリッシュ - アメリカ合衆国のスペイン語）											
第12回 第11課 No solo de sushi vive el hombre（寿司だけが日本食ではない）											
第13回 第12課 La coca no es cocai'na（コカ アンデスの秘薬）											
第14回 第13課 ¡Abran paso, que voy en patinete!（暴走するキックスクーター）											
第15回 期末試験・フィードバック											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講読を中心とした教科書を使うが、練習問題における作文や平易な口頭発表なども重視する。</li> <li>・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。</li> <li>・必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。</li> </ul>											
----- スペイン語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

## スペイン語（中級II）（語学）(2)

### 【履修要件】

前期開講の「スペイン語 中級I」の学修者であること、もしくは接続法を含めた初級スペイン語知識を有していることが望まれる。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点 20% [ 予習復習状況、音声パフォーマンスを評価する ]  
期末試験 80% [ 既習事項を理解・習得しているか判定する ]

### 【教科書】

高垣敏博 他 『シン・フロンテラス スペイン語圏はいま』（朝日出版社,2021年）ISBN:978-4-255-55123-4 C1087

### 【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2  
辞書は初修時に使っていたものがあれば引き続き活用すること。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの下訳）のうえ授業に参加すること。

### （その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。